



Intel Unite[®] クラウド・サービス

導入ガイド

第 1.1 版



法的免責事項および著作権

ここに記載されているすべての情報は、予告なく変更されることがあります。インテルの最新の製品仕様およびロードマップをご希望の方は、インテルの担当者までお問い合わせください。

インテル® テクノロジーの機能と利点はシステム構成によって異なり、対応するハードウェアやソフトウェア、またはサービスの有効化が必要となる場合があります。実際の性能はシステム構成によって異なります。絶対的なセキュリティを提供できるコンピューター・システムはありません。詳細については、各システムメーカーまたは販売店にお問い合わせいただくか、<http://www.intel.co.jp/> を参照してください。

本資料に記載されているインテル製品に関する侵害行為または法的調査に関連して、本資料を使用または使用を促すことはできません。本資料を使用することにより、お客様は、インテルに対し、本資料で開示された内容を含む特許クレームで、その後作成したものについて、非独占的かつロイヤルティー無料の実施権を許諾することに同意することになります。

本資料は、(明示されているか否かにかかわらず、また禁反言によるとよらずにかかわらず) いかなる知的財産権のライセンスも許諾するものではありません。

本資料で説明されている製品には、エラッタと呼ばれる設計上の不具合が含まれている可能性があり、公表されている仕様とは異なる動作をする場合があります。現在確認済みのエラッタについては、インテルまでお問い合わせください。

インテルは、明示されているか否かにかかわらず、いかなる保証もいたしません。ここにいう保証には、商品適格性、特定目的への適合性、および非侵害性の黙示の保証、ならびに履行の過程、取引の過程、または取引での使用から生じるあらゆる保証を含みますが、これらに限定されるわけではありません。

インテルは、本資料で参照しているサードパーティーのベンチマーク・データまたはウェブサイトについて管理や監査を行っていません。本資料で参照しているウェブサイトにはアクセスし、本資料で参照しているデータが正確かどうかを確認してください。

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Unite、Intel Core、Intel vPro は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標です。

*その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

© 2019 Intel Corporation.無断での引用、転載を禁じます。

目次

1	はじめに	10
1.1	対象	10
1.2	Intel Unite® クラウド・サービスの用語と定義	10
2	Intel Unite® ソリューションの要件	11
2.1	ハブの要件	11
2.2	クライアントの要件	11
2.3	IT 関連の注意事項およびネットワークの要件	11
2.4	モバイル・クライアント・デバイス	12
3	基本設定	13
3.1	新しいアカウントの作成	13
3.2	サインイン	14
3.3	Intel Unite® クラウド・サービスのサブスクリプションとアクティブ化	14
3.4	セットアップ・ウィザード	14
3.4.1	組織の作成	14
3.4.2	設定の構成	15
3.4.3	ハブのペアリング	16
3.4.4	クライアントの登録	17
3.4.5	セットアップ・ウィザードの完了	17
3.4.6	セットアップの完了前にセットアップ・ウィザードを終了した場合	18
3.4.7	セットアップ完了後のセットアップ・ウィザードの使用	18
4	詳細設定	19
4.1	導入の概要	19
4.1.1	導入のためのリソース	19
4.2	シングルサインオン (SSO)	20
4.2.1	インテルアカウントでの SSO のセットアップ	20
4.2.2	Active Directory* フェデレーション サービスのセットアップ	20
4.2.2.1	Intel Unite® クラウド・サービスの証明書利用者信頼の作成	20
4.2.2.2	Intel Unite® クラウド・サービスの証明書利用者信頼の要求の定義	21
4.2.2.3	証明書利用者信頼の SAML ログアウト・エンドポイントの設定	21
4.2.2.4	管理者ポータルサーバーのプロパティの設定	22
4.2.2.5	AD の組織単位の役割の作成	22
4.2.2.6	デバイス構成への AD の組織単位の割り当て	23
4.3	DNS TXT レコード	23
4.3.1	DNS 階層と DNS TXT レコードの適切な配置	23
4.3.2	DNS TXT レコードを作成する	24
4.3.3	DNS TXT レコードの使用を無効にする	25
4.4	Intel Unite® クラウド・サービスへの登録	26
4.5	サインイン	26
4.6	組織の作成	26

4.7	サブスクリプションのアクティブ化.....	26
4.8	デバイスのカスタムグループの作成.....	27
4.9	カスタム構成の作成.....	27
4.10	カスタム構成の割り当て.....	28
4.11	ハブのペアリング.....	28
4.11.1	ハブのプロビジョニングに関する注意事項.....	28
4.11.1.1	ハブの要件.....	28
4.11.1.2	ハブのプレインストール.....	28
4.11.1.3	推奨のハブシステム設定.....	28
4.11.2	ハブ・ソフトウェアのインストール.....	29
4.11.2.1	ハブ・ソフトウェアのコマンドラインからのインストール (オプション).....	29
4.11.3	ハブ上の Windows* ファイアウォールの構成.....	30
4.11.3.1	受信の規則の作成.....	30
4.11.3.2	送信の規則の作成.....	31
4.11.4	ハブのプライバシー.....	31
4.11.5	ハブペアリング.....	31
4.11.5.1	ハブの事前構成.....	31
4.11.5.2	ハブペアリング方式.....	32
4.11.6	ハブ・ソフトウェアのアンインストール.....	33
4.11.6.1	ハブ・ソフトウェアのコマンドラインからのアンインストール (オプション).....	33
4.11.7	ハブのセキュリティー.....	34
4.11.8	ハブのログファイル.....	34
4.12	クライアントの登録.....	34
4.12.1	クライアントのプロビジョニングに関する注意事項.....	34
4.12.1.1	クライアントの要件.....	34
4.12.1.2	クライアントのプレインストール.....	34
4.12.2	Windows* クライアントのインストール.....	35
4.12.2.1	Windows* クライアントのコマンドラインからのインストール (オプション).....	35
4.12.3	Mac* OS クライアントのインストール.....	36
4.12.4	iOS* クライアントのインストール.....	36
4.12.5	Android* クライアントのインストール.....	37
4.12.6	Chrome* OS クライアントのインストール.....	37
4.12.7	Linux* OS クライアントのインストール.....	37
4.12.8	クライアント・ファイアウォールの構成.....	37
4.12.8.1	Windows* プラットフォーム.....	37
4.12.8.2	Mac* OS プラットフォーム.....	38
4.12.8.3	Linux* プラットフォーム.....	39
4.12.8.4	代替のファイアウォール構成.....	40
4.12.9	クライアントの登録.....	40
4.12.9.1	クライアントの事前構成.....	40
4.12.9.2	クライアントの登録方法.....	42
4.12.10	Windows* および Linux* クライアント・ソフトウェアのアンインストール.....	43
4.12.10.1	Windows*.....	43
4.12.10.2	Linux*.....	44



4.12.11	クライアントのログファイル.....	44
5	Intel Unite® クラウド・サービス・ガイドの管理者ポータル	45
5.1	Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルへのアクセス.....	45
5.1.1	カスタマー AD FS を使用したサインイン	46
5.2	Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル共通のコントロール.....	46
5.2.1	構成アシスタント	46
5.2.2	ログアウト.....	46
5.2.3	表示言語を変更する.....	46
5.2.4	ヘルプセンター	47
5.2.5	グローバル通知.....	47
5.2.6	[情報] リンク.....	47
5.3	組織.....	47
5.3.1	新しい組織の作成.....	47
5.3.2	組織の選択.....	47
5.3.2.1	プライバシーの選択の設定	47
5.3.3	既存の組織の編集.....	48
5.3.4	組織の削除.....	48
5.3.5	組織の検索.....	48
5.4	Intel Unite® クラウド・サービスの管理.....	48
5.4.1	[組織] ページに戻る.....	48
5.5	Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル - [デバイス管理] メニュー	48
5.5.1	デバイス管理 - ページ.....	49
5.5.1.1	[ハブとクライアント] ページ.....	49
5.5.1.2	[構成] ページ.....	59
5.5.1.3	[機能 / アプリ] ページ.....	60
5.5.1.4	[予約済み PIN] ページ.....	61
5.5.1.5	[カスタムメタデータ] ページ.....	62
5.5.1.6	[デバイスのプロビジョニング] ページ.....	62
5.5.1.7	[自動ペアリング管理] ページ.....	62
5.5.2	デバイス管理 - クイックアクション	63
5.5.2.1	ハブのペアリング	63
5.5.2.2	自動ペアリング	63
5.5.2.3	パッケージのアップロード.....	63
5.5.2.4	会議の作成.....	64
5.6	Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル - [サーバー管理] メニュー.....	64
5.6.1	[テレメトリー] ページ.....	64
5.6.1.1	データをリセットする	65
5.6.1.2	データを更新する.....	65
5.6.1.3	データのエクスポート.....	65
5.6.2	[ログ] ページ.....	65
5.6.3	[サーバーのプロパティ] ページ.....	66
5.7	Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル - [ユーザー管理] メニュー.....	68
5.7.1	[ユーザー] ページ.....	68

5.7.1.1	ユーザーの追加	68
5.7.1.2	ユーザーのアクション	69
5.7.2	[モデレーター] ページ	69
5.7.2.1	モデレーターの追加	69
5.7.2.2	モデレーターを削除する	69
5.7.2.3	モデレートセッション	69
5.7.3	[役割] ページ	70
5.7.3.1	新しい役割を作成する	75
5.8	Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル - [サブスクリプション管理]	76
5.8.1	サブスクリプション - ページ	77
5.8.1.1	[サブスクリプション] ページ	77
5.8.2	サブスクリプション管理 - クイックアクション	77
5.8.2.1	サブスクリプションのアクティブ化	77
5.8.2.2	[サブスクリプションを購入] ページ	77
6	アラートと監視	78
7	セキュリティ制御	79
7.1	最小セキュリティ標準 (MSS)	79
7.2	マシンの強化	79
7.3	その他のセキュリティ管理	79
8	メンテナンス	80
付録 A.	Google* Admin 用プロビジョニング・ガイド	81
A.1	Intel Unite® アプリケーションの自動インストールを適用する	81
A.2	クライアントの構成用の Google* Admin のセットアップ	81
A.3	Intel Unite® アプリケーションの信頼されたユーザー情報アクセスの許可	82
付録 B.	エラーコード	84
B.1	クライアントのエラーコード	84
B.2	ハブのエラーコード	86
付録 C.	トラブルシューティング	89
C.1	インターネットに接続していない場合、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルへのアクセスや、クライアント / ハブ・ソフトウェアの起動が遅い	89
C.2	ハブの時刻のずれ	89
C.3	クライアント・エラー 0x00535 - サーバーに接続できません。	89
付録 D.	セキュリティ・チェックリスト	90
D.1	ハブ	90
D.2	クライアント	90
付録 E.	4.0 または 3.x 環境からの移行に関する注意事項	91
付録 F.	用語集	92
付録 G.	レジストリー・キー	94



図 1. 新しいアカウントの作成.....	13
図 2. 組織の作成.....	15
図 3. 組織の構成.....	15
図 4. ハブのペアリング.....	16
図 5. クライアントの登録.....	17
図 6. セットアップ・ウィザードの完了.....	18
図 7. DNS TXT レコードの配置例.....	24
図 8. DNS TXT レコードのプロパティ.....	25
図 9. Intel Unite® クラウド・サービスの [ようこそ] ページ.....	45
図 10. ポータルバナーのアイコン.....	46
図 11. デバイス構成に対する Active Directory* の組織単位の関連付け.....	50
図 12. 役割に対する Active Directory* の組織単位の関連付け.....	76

表

表 1. ハブのインストール・パラメーター	29
表 2. ハブ・ソフトウェアのコマンドラインからのアンインストール・パラメーター	34
表 3. Windows* クライアントのコマンドラインからのインストール・パラメーター	35
表 4. OS 毎クライアントの事前登録の構成のサポート	40
表 5. クライアント・ソフトウェアのコマンドラインからのアンインストール・パラメーター	44
表 6. Intel Unite® ソリューション・ハブのプロパティ	52
表 7. ファイル共有モジュールのプロパティ	55
表 8. リモート・ビュー・モジュール (ハブ) のプロパティ	55
表 9. 画面共有モジュール (ハブ) のプロパティ	55
表 10. Intel Unite® クライアントのバージョンのプロパティ	57
表 11. リモート・ビュー・モジュール (クライアント) のプロパティの表	58
表 12. 画面共有モジュール (クライアント) のプロパティ	58
表 13. ログの重要度レベル	66
表 14. サーバーのプロパティ	66
表 15. 組込み役割のアクセス許可	71
表 16. デバイス管理のアクセス許可	71
表 17. デバイスペアリング管理のアクセス許可	72
表 18. 役割管理のアクセス許可	72
表 19. ユーザー管理のアクセス許可	73
表 20. サーバー管理のアクセス許可	74
表 21. モデレーター管理のアクセス許可	74
表 22. 組織の管理のアクセス許可	75
表 23. クライアントのエラーコード	84
表 24. ハブのエラーコード	86
表 25. 用語と定義	92



改訂履歴

改訂番号	リリース日	説明
1.0	2019年3月	初回リリース
1.1	2019年5月	サブスクリプション管理の追加 右上隅のロゴを更新 Intel Unite® Cloud Service の大文字と小文字を変更 (英語) アクティベーション・コードをサブスクリプション ID に変更

1 はじめに

Intel Unite® クラウド・サービスは、コラボレーションを簡単にする、安全なオンライン会議スペースです。会議の出席者全員が素早く簡単につながれるように設計されています。Intel Unite® クラウド・サービスは、現在入手できるシンプルで直ちにコラボレーションが可能なソリューションであり、将来にわたって追加機能に対応し、イノベーションを実現する基盤として機能します。

本書は、Intel Unite® クラウド・サービスの登録方法、Intel Unite® ソフトウェアのインストール方法、Intel Unite® クラウド・サービスの構成方法について説明し、トラブルシューティングを支援します。

本書は、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語 (ブラジル)、韓国語、日本語、中国語 (繁体字)、中国語 (簡体字) の各言語版を [Intel Unite® ソリューションのサポート・ウェブサイト](#) で配布しています。

1.1 対象

本書は、ユーザーが Intel Unite® クラウド・サービスを設定し、使用できるようになることを目的としています。企業環境のユーザーと、Intel Unite® クラウド・サービスの導入を担当するすべてのユーザーを対象としています。

1.2 Intel Unite® クラウド・サービスの用語と定義

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル - 組織を管理し、Intel Unite® クラウド・サービスの構成設定を提供するウェブ・インターフェイス。

アプリ - Intel Unite® クラウド・サービスの機能を拡張するソフトウェア・コンポーネント。

クライアント - ハブに接続するデバイス (Windows*、Mac* OS、iOS*、Android*、Chrome* OS、または Linux* を実行)。

ハブ - [Intel Unite® ソリューションのウェブサイト](#) に記載されているインテル® vPro™ テクノロジー搭載の小型フォームファクター PC、一体型 PC、Open Pluggable 仕様 (OPS) に準拠したデバイス。このデバイスは、Intel Unite® アプリケーションを実行する、会議室のディスプレイに接続されます。

2 Intel Unite® ソリューションの要件

このセクションでは、Intel Unite® クラウド・サービスで使用されるハブやクライアント・デバイスのハードウェアおよびソフトウェア要件と、IT 関連の注意事項およびネットワークの要件について詳しく説明します。モバイルデバイスに関する注意事項については、このセクションの最後で詳しく説明します。

2.1 ハブの要件

- Intel Unite® ソリューションの概要ウェブページに記載されているサポート対象プラットフォーム
- Microsoft* Windows* 7 (最新バージョン) または 10 RS5、RS4、RS3、RS2 (32 ビットまたは 64 ビット)
 - 推奨される最新のパッチレベル
 - Microsoft* .NET* 4.7.2 以降
- 4 GB RAM
- 有線またはワイヤレス・ネットワーク接続
- 32 GB の空き領域

2.2 クライアントの要件

- Microsoft* Windows* 7 SP1、8.1、または 10 RS5、RS4、RS3、RS2 (32 ビットまたは 64 ビット)
 - 推奨される最新のパッチレベル
 - Microsoft* .NET* 4.7.2 以降
- Mac* OS 10.12、10.13、または 10.14
- iOS* 11 または 12
- Android* バージョン 6 (Marshmallow)、バージョン 7 (Nougat)、またはバージョン 8 (Oreo)
- Chrome* OS (最新バージョン)
- Linux* Fedora* 27 または 28、Red Hat* Enterprise 7、Ubuntu* 16 LTS または 18 Non-LTS
- 有線またはワイヤレス・ネットワーク接続

2.3 IT 関連の注意事項およびネットワークの要件

主な IT 関連の注意事項とネットワーク要件には、次のものがあります。

- Intel Unite® クラウド・サービスへのインターネット・アクセス。
- ハブおよびクライアントのインストールは、IT 部門の確立された手順を使用して管理する必要があります。
- 信頼性を確保するために、ハブの接続には有線ネットワーク接続を使用することを強くお勧めします。有線接続をすることで、特に混雑した領域で無線帯域幅が飽和状態にならなくなります。
- Intel Unite® ソフトウェアは、着信接続の受け入れが許可されている必要があります。これには、ハブにインストールされているファイアウォールに例外を追加することが必要な場合があります。詳細は、「[Intel Unite® ソリューション用ファイアウォール設定のヘルプガイド](#)」(英語) を参照してください。このヘルプガイドのマニュアルに記載のないファイアウォール・ベンダーの場合は、アプリケーションの例外を登録する具体的な手順について、該当するファイアウォール・ベンダーにお問い合わせください。
- 実稼働環境では、完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用し、Intel Unite® クラウド・サービスを示す DNS TXT レコードを設定することを強くお勧めします。これによりハブとクライアントが Intel Unite® クラウド・サービスを簡単に検出できるようになります。
- セキュリティー保護に関しては、SHA-1 のサポート終了にともない、Intel Unite® アプリケーションは SHA-2 以上の証明書のみを受け付けます。

2.4 モバイル・クライアント・デバイス

一部の組織では、モバイル・クライアント・デバイスを Intel Unite® ソリューションの一部として導入しています。Intel Unite® クラウド・サービスに接続するには、(iOS* デバイスと Android* デバイスを含む) すべてのクライアント・デバイスが企業ネットワークに接続されている必要があります。また、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルへのログインに [Active Directory* フェデレーションサービス](#)を使用する場合は、適切に構成された VPN を、これらのクライアント・デバイスで使用する必要があります。企業ネットワークに接続されていないモバイルデバイス (ノートブック PC、タブレット、スマートフォンなど) は、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにログインできない場合があります。モバイル・クライアント・デバイスを有効にする場合、IT 管理者は、以下の点に留意してください。

- Intel Unite® アプリのユーザーが個人のモバイルデバイスを使用している場合、Intel Unite® ソリューションへの接続にはハブと同じネットワークを使用するか、接続を許可する別の方法を作成してください。
- デバイスを管理し、ネットワークの安全性を維持するために、自社の IT ツールと戦略を活用して順守してください。
- 仕事を目的とした個人デバイスやモバイルデバイス用に、モバイルデバイス管理ポリシーを適用してください。
- 保護するデータの機密性に応じて、適切に保護できるようセキュリティを調整してください。調整のレベルは、企業が重要と判断するデータや、企業がどこまで厳格に保護を適用したいかによって異なります。

3 基本設定

このセクションでは、Intel Unite® クラウド・サービスの基本設定について説明します。設定には、新しいアカウントの作成、新しい組織の作成、必要な組織構成の設定、ハブのペアリング、クライアントの登録が含まれます。基本設定後、クライアントは、組織とペアリングされたハブによってホストされる Intel Unite® ソリューションの会議に参加できます。

3.1 新しいアカウントの作成

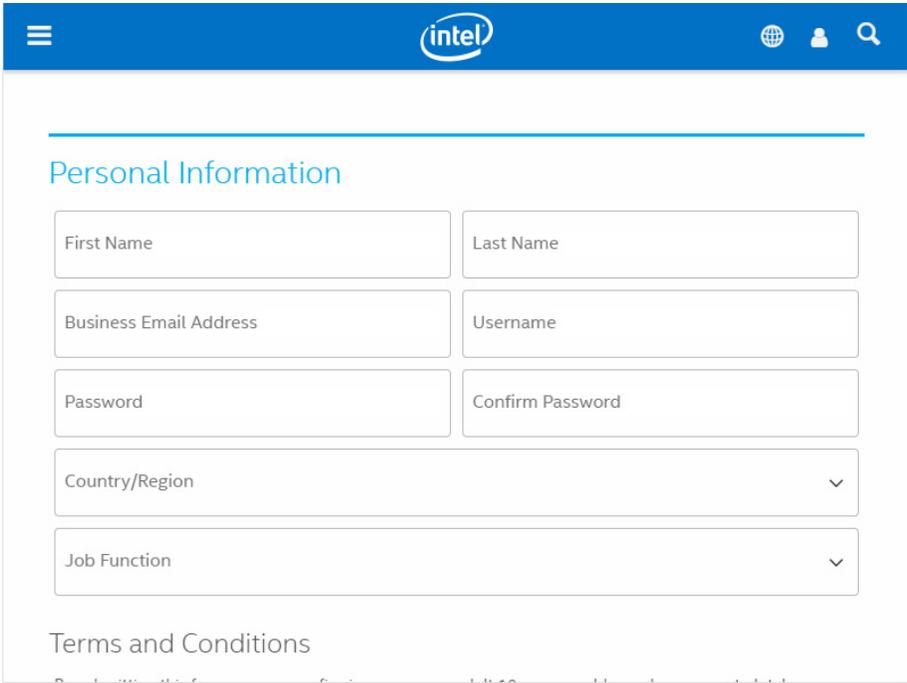
Intel Unite® クラウド・サービスを使用するには、インテルアカウントが必要です。インテルアカウントをすでにお持ちの場合は、[セクション 3.2](#)に進みます。アカウントを作成するには、次の手順で行ってください。

1. Google* Chrome* または Microsoft* Internet Explorer* のいずれかのブラウザを開き、Intel Unite® クラウド・サービスの [ようこそ] ページ (<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html>) に移動します。
2. 右上隅にある [サインイン] をクリックして、[サインイン] ページを開きます。
3. 「**アカウントの作成**」リンクをクリックして、アカウントの作成フォームを表示します。

手順 4 から 8 の詳細は、[図 1](#) を参照してください。

4. 名を入力します。
5. 姓を入力します。
6. メールアドレスを入力します。
7. アカウントのパスワードを入力します。パスワードを入力すると、パスワード規則が表示されます。
8. パスワードを再入力して確認します。
9. 下部の [送信] をクリックします。
10. 確認用のリンクが記載されている電子メールを確認して、リンクをクリックします。

図 1. 新しいアカウントの作成



The screenshot shows a web form for creating a new account. The form is titled "Personal Information" and is set against a white background with a blue header. The header contains the Intel logo and navigation icons. The form fields are arranged in a grid-like structure. The fields are: First Name, Last Name, Business Email Address, Username, Password, and Confirm Password. There are also dropdown menus for Country/Region and Job Function. At the bottom of the form, there is a "Terms and Conditions" section.

3.2 サインイン

インテルアカウントの作成後、またはインテルアカウントをすでに持っている場合は、以下の手順に従ってサインインします。

1. Google* Chrome* または Microsoft* Internet Explorer* のいずれかのブラウザを開き、Intel Unite® クラウド・サービスの [ようこそ] ページ (<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html>) に移動します。
2. 右上隅にある [サインイン] をクリックして、[サインイン] ページを開きます。
3. ユーザー名とパスワードを入力します。
4. [サインイン] ボタンをクリックして、サインインします。

3.3 Intel Unite® クラウド・サービスのサブスクリプションとアクティブ化

Intel Unite® クラウド・サービスで使用するデバイスをペアリングするには、Intel Unite® クラウド・サービスへのサブスクリプションが必要になります。

登録するには、<https://www.unitecloudservice.intel.com> リンクを参照してください。

サブスクリプションを取得し、Avnet* から Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにリダイレクトされた後、サブスクリプションがアクティブ化されます。**注:**ユーザーがサブスクリプションを取得しても、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルへの移動に Avnet* を使用しなかった場合、サブスクリプションはアクティブ化されません。サブスクリプションをアクティブ化するには、[セクション 4.7](#) を参照してください。

3.4 セットアップ・ウィザード

セットアップ・ウィザードは、セットアップ・プロセスの実行に役立ちます。セットアップ・ウィザードを開始する前に、アクティブな Intel Unite® クラウド・サービス・サブスクリプションがあることを確認します。詳細については、「[セクション 3.3](#)」を参照してください。セットアップ・ウィザードを開始するには、サインインしてから、右上隅にあるこのアイコン  をクリックします。ウィザードを使用すると、組織の作成と構成、ハブのペアリング、およびクライアントの登録を簡単に行うことができます。

3.4.1 組織の作成

セットアップ・ウィザードを開始すると、ウィザードの [組織の作成] ページが表示されます。組織とは、Intel Unite® クラウド・サービスを使用する企業内の事業部またはサブグループを意味します。各組織には、Intel Unite® クラウド・サービス独自のインスタンスがあります。

図 2. 組織の作成

ようこそ

下記の手順に従って Intel Unite® クラウド・サービスをセットアップしてください。

● 組織の作成
○ 設定の構成
○ ハブのペアリング
○ クライアントの登録

組織の作成

組織を1つ作成すると、単一の Intel Unite® ソリューション展開の管理が可能になります。組織間ではデータは共有されません。複数の組織の管理は、通常、複数の会社向けに Intel Unite® ソリューション展開をサポートする業務のために行われます。このステップを完了すると、最新のハブ・ソフトウェアを含む構成、最新のクライアント・ソフトウェアと構成が作成されます。これらの構成はハブのペアリング中およびクライアントの登録中に適用されます。

組織名

説明

次へ
セットアップの終了

1. [組織名] を入力します。名前は 4 文字以上である必要があります。使用できる文字に制限はありません。
2. 組織の [説明] を入力します。説明は 4 文字以上である必要があります。
3. [次へ] をクリックして、組織を作成します。新しい組織用に、一意の組織 ID が作成されます。

3.4.2 設定の構成

組織の作成後、最小限の構成を行う必要があります。

図 3. 組織の構成

ようこそ

下記の手順に従って Intel Unite® クラウド・サービスをセットアップしてください。

○ 組織の作成
● 設定の構成
○ ハブのペアリング
○ クライアントの登録

設定の構成

管理者ポータルのお知らせを受信するメールアドレスを入力します。

管理者メールアドレス

プライバシー・モード

プライバシー・モードの選択
▼

ユーザーのプライバシーに関する選択は、[サーバー管理] > [サーバーのプロパティ] > [プライバシー・モード] メニューから、いつでも変更することができます。
[プライバシー・ポリシーの表示](#)

次へ
セットアップの終了

1. Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルから、通知を受け取るためのメールアドレスを入力します。
2. プライバシー設定を選択します。使用可能なプライバシー設定値については、[セクション 5.3.2.1](#) を参照してください。

3. [次へ] をクリックして進めます。

3.4.3 ハブのペアリング

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルで、1 つ以上のハブデバイスを組織とペアリングする必要があります。ハブと組織をペアリングすると、ハブは PIN を受信し、ハブがホストする会議に登録されたクライアントが接続できるようになります。[セクション 3.4.1](#) で作成された組織にハブデバイスをペアリングするには、以下の手順に従います。

図 4. ハブのペアリング



注: ウィザードに表示される手順は、ハブデバイス用です (ウィザードが実行中のシステムでペアリングコードを入力する最後の項目を除く)。

1. ページの指示に従います。ハブ・ソフトウェアのインストールの詳細な手順については、[セクション 4.11.2](#) を参照してください。**注:** ハブデバイスで、プロビジョニング URL を有効にする必要があります。コピーアイコン (📄) をクリックして、クリップボードにプロビジョニング URL をコピーします。これにより、USB フラッシュドライブまたはネットワーク共有リソースを介してハブデバイスに転送するテキストファイルに、プロビジョニング URL を貼り付けることができますようになります。電子メールアイコン (✉) をクリックしてプロビジョニング URL を電子メールで送信します。これにより、ハブデバイスが電子メールアカウントを通じて URL にアクセスできるようになります。
2. Windows* プラットフォームでは、Intel Unite® アプリケーションについてネットワーク・アクセスの許可を求める Windows* Defender ポップアップが表示される場合があります。Intel Unite® アプリケーションについて許可が付与されるまで、ハブは Intel Unite® クラウド・サービスに接続できません。場合によっては、ハブ・アプリケーションがポップアップを表示しないことがあります。この問題を解決するには、タスク マネージャーを使用して Intel Unite® アプリケーションを閉じ、Windows* Defender ポップアップで [アクセスを許可する] をクリックします。手順 1 の注で挙げられている URL を有効にして、ハブ・アプリケーションを起動します。
3. ペアリングコードがハブのディスプレイに表示されます。
4. ウィザードが実行中のシステム上で、ハブのディスプレイに表示されているペアリングコードを入力し、[ハブのペアリング] ボタンをクリックします。複数のハブをペアリングする場合は、次のハブのペアリングコードを入力し、[ハブのペアリング] ボタンをもう一度クリックします。目的のハブがすべてペアリングされるまで、このプロセスを繰り返します。[ハブのペアリング] ボタンの右側にある [更新] ボタンをクリックすると、ペアリングされているハブのリストが更新されます。
5. ウィザードで、[次へ] をクリックして続行します。

3.4.4 クライアントの登録

クライアントは、ハブがホストする会議に接続するには、ハブのペアリング先である同じ組織に登録されている必要があります。
 セクション 3.4.1 で作成された組織にクライアントを登録するには、以下の手順に従います。

図 5. クライアントの登録



注: ウィザードに表示される手順は、クライアント・デバイス用です。

1. ページの指示に従います。クライアント・ソフトウェアのインストールの詳細な手順については、[セクション 4.12.2](#) ~ [セクション 4.12.7](#) を参照してください。**注:** クライアント・デバイスで、プロビジョニング URL を有効にする必要があります。コピーアイコン (📄) をクリックしてクリップボードに、プロビジョニング URL をコピーします。これにより、USB フラッシュドライブまたはネットワーク共有リソースを介してクライアント・デバイスに転送するテキストファイルに、プロビジョニング URL を貼り付けることができますようになります。電子メールアイコン (✉) をクリックしてプロビジョニング URL を電子メールで送信します。これにより、クライアント・デバイスが電子メールアドレスを通じて URL にアクセスできるようになります。
2. Windows* プラットフォームでは、Intel Unite® アプリケーションについてネットワーク・アクセスの許可を求める Windows* Defender ポップアップが表示される場合があります。Intel Unite® アプリケーションについて許可が付与されるまで、クライアントは Intel Unite® クラウド・サービスに接続できません。場合によっては、クライアント・アプリケーションがポップアップを表示しないことがあります。この問題を解決するには、タスク マネージャーを使用して Intel Unite® アプリケーションを閉じ、Windows* Defender ポップアップで [アクセスを許可する] をクリックします。手順 1 の注で挙げられている URL を有効にして、クライアント・アプリケーションを起動します。

3.4.5 セットアップ・ウィザードの完了

クライアントの登録手順で [セットアップの終了] をクリックすると、セットアップ・ウィザードにセットアップ完了メッセージが表示されます。

図 6. セットアップ・ウィザードの完了



1. ウィザードを終了するには、[閉じる] をクリックします。

3.4.6 セットアップの完了前にセットアップ・ウィザードを終了した場合

セットアップ・ウィザードが完了前に終了した場合、次回ウィザードを開始したときに、前回ウィザードが終了したステップから再開されます。

3.4.7 セットアップ完了後のセットアップ・ウィザードの使用

セットアップ・ウィザードを完了させて組織を作成した後に、セットアップ・ウィザードを使用して、管理者電子メールアドレスやプライバシー・ポリシー設定の変更、ハブのペアリング、クライアントの登録などを行えます。

[組織] ページで、セットアップ・ウィザードを完了させて作成した組織を選択し、[構成アシスタント] アイコン () をクリックし、セットアップ・ウィザードを開始します。管理者メールアドレスやプライバシー・ポリシー設定の変更、ハブのペアリング、クライアントの登録などを行います。

4 詳細設定

このセクションでは、セットアップ・プロセスの詳細と、[Active Directory* フェデレーション サービス \(AD FS\)](#) による [シングルサインオン \(SSO\)](#) 認証を使用して Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにサインインするための技術的な詳細情報について説明します。

4.1 導入の概要

Intel Unite® クラウド・サービスは、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル、ハブ、クライアント、Intel Unite® アプリの 4 つのコンポーネントで構成されています。

- **Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル**は、Intel Unite® クラウド・サービスの構成に使用するウェブ・インターフェイスです。
- **ハブ**は、[セクション 2.1](#) で説明しているハブ要件を満たす、インテル® Core™ vPro™ プロセッサ・ファミリー搭載のミニ PC です。ハブは通常、会議室のディスプレイまたはプロジェクターに接続されています。ディスプレイまたはプロジェクターをハブに正しく接続する方法については、ディスプレイまたはプロジェクターのユーザーマニュアルを参照してください。
- **クライアント**は、会議でコラボレーションするためにハブに接続するシステムです。
- **Intel Unite® アプリ**は、Intel Unite® ソリューションの機能を拡張するソフトウェアです。Intel Unite® アプリの例としては、コラボレーション用の仮想ホワイトボードを提供する Scratchpad* があります。

Intel Unite® クラウド・サービスを使用して、Intel Unite® ソリューションを導入する手順は、以下のとおりです。

1. Intel Unite® クラウド・サービスに登録します。
2. Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにサインインします。
3. 組織を作成します。
4. サブスクリプションをアクティブ化します。
5. オプション - ハブおよび / またはクライアント・デバイスのカスタムグループを作成します。
6. オプション - ハブおよび / またはクライアントのカスタム構成を作成して割り当てます。
7. ハブのペアリング。
8. クライアントの登録。

以下のセットアップ手順はオプションですが、Intel Unite® ソリューションがより使いやすくなる場合があります。

- **DNS TXT レコードのセットアップ** - Intel Unite® クラウド・サービスのリソースを識別し、ハブやクライアント・デバイスに組織情報を提供します。
- **AD FS のセットアップ** - 企業の AD 認証を使用して、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにサインインします。AD FS は、企業の [Active Directory*](#) を使用して、デバイスとユーザーを管理するために必要となります。AD FS では、企業に AD FS がすでにインストールおよび設定されている必要があります。

4.1.1 導入のためのリソース

インストールを完了するには、ハブの管理者権限が必要です。次の要件も必要になる場合があります。

- **ファイアウォール・ポリシー**を設定するための IT セキュリティー管理者権限。
- ハブおよびクライアントが Intel Unite® クラウド・サービスの検出に使用する **DNS TXT レコード**を作成する IT 管理者権限 (強く推奨)。
- Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルの認証情報の提供に使用できる AD FS を構成する IT 管理者権限。

4.2 シングルサインオン (SSO)

シングルサインオン (SSO) を使用すると、ユーザーは単一の ID とパスワードでログインして、接続済みのウェブリソースにアクセスできます。Intel Unite® クラウド・サービスは、お客様がホストするインテルアカウントと Active Directory* フェデレーション サービス (AD FS) を使用して SSO をサポートします。

4.2.1 インテルアカウントでの SSO のセットアップ

インテルアカウントを持つユーザーは、インテルアカウントの認証を使用して、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにアクセスできます。インテルアカウントの作成は、次の手順で行ってください。

1. Google* Chrome* または Microsoft* Internet Explorer* のいずれかのブラウザを開き、Intel Unite® クラウド・サービスの [ようこそ] ページ (<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html>) に移動します。
2. ウェブページのの右上部にある [サインイン] を選択します。
3. [アカウントの作成] を選択します。
4. 情報を入力して送信します。
5. [メールの確認] 画面が表示されます。
6. メールを確認し、検証するための手順に従います。
7. SSO が機能することを確認するには、次の手順で行ってください。
 - a. Google* Chrome* または Microsoft* Internet Explorer* のいずれかのブラウザを開き、Intel Unite® クラウド・サービスの [ようこそ] ページ (<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html>) に移動します。
 - b. ウェブページのの右上部にある [サインイン] を選択します。
 - c. ユーザー名とパスワードを入力し、[サインイン] を選択します。
 - d. サインインすると、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルの [組織] ページが表示されます。

4.2.2 Active Directory* フェデレーション サービスのセットアップ

Active Directory* フェデレーション サービス (AD FS) は、ウェブ・アプリケーションにシングルサインオン (SSO) を提供し、ウェブ・アプリケーションに要求を送信し、サービス・プロバイダー間のウェブサービスの相互運用性を支援するフェデレーション ID 管理ソリューションです。Intel Unite® クラウド・サービスは、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにサインインする際の認証に、AD FS の使用をサポートします。AD FS を使用すると、企業は AD の組織単位を介した Intel Unite® クラウド・サービスのユーザーのアクセス許可を管理し、AD の組織単位を介して Intel Unite® クラウド・サービスで使用されるデバイスの構成を管理できます。

4.2.2.1 Intel Unite® クラウド・サービスの証明書利用者信頼の作成

前提条件:

- AD FS がインストールおよびセットアップされている。

以下のすべての手順は、ドメイン管理者権限を持つユーザーが企業ネットワーク上にあるシステムから実行する必要があります。

1. MMC を実行します。
2. [ファイル] をクリックします。
3. [スナップインの追加と削除] をクリックします。
4. [AD FS の管理] を選択して、[追加] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。
6. [コンソール ルート] 下で、[AD FS] を選択します。
7. [AD FS] を展開します。
8. [証明書利用者信頼] を選択します。
9. [アクション] ペインで、[証明書利用者信頼の追加...] をクリックします。
10. [ようこそ] での手順で、[要求に対応する] が選択されていることを確認し、[開始] をクリックします。
11. [証明書利用者についてのデータを手動で入力する] を選択して、[次へ] をクリックします。

12. [表示名] の名前を入力して、[次へ] をクリックします。
13. [証明書の構成] 手順で、証明書を参照し、[次へ] をクリックします。証明書を使用して要求データを暗号化しない場合は、[次へ] をクリックします。
14. [URL の構成] 手順で、[SAML 2.0 WebSSO プロトコルのサポートを有効にする] が選択されており、[WS-Federation のパッシブ プロトコルのサポートを有効にする] が選択されていないことを確認します。
15. [証明書利用者 SAML 2.0 SSO サービスの URL] に <https://admin.unitecloud.intel.com/consume> と入力して、[次へ] をクリックします。
16. [証明書利用者信頼の識別子] に文字列を入力して、[追加] をクリックし、[次へ] をクリックします。手順 15 の文字列値を使用することをお勧めします。
17. [アクセス制御ポリシーの選択] 手順で、[すべてのユーザーにイントラネット アクセスを許可] が選択されていないことを確認します。**注:** MFA のセットアップは、この手順説明では対象としていません。
18. [証明書利用者信頼] の設定を確認し、[次へ] をクリックして、[証明書利用者信頼] を追加します。
19. [完了] 手順で、[閉じる] をクリックします。

4.2.2.2 Intel Unite® クラウド・サービスの証明書利用者信頼の要求の定義

前提条件:

- 証明書利用者信頼は Intel Unite® クラウド・サービス用に作成する必要があります。

以下の手順に従って、Intel Unite® クラウド・サービス用の証明書利用者信頼の要求を定義します。

1. 上記で作成した証明書利用者信頼の要求規則エディターが開いていない場合は、Intel Unite® クラウド・サービスの証明書利用者信頼を選択して、[アクション] ペインの [要求規則の編集...] をクリックします。
2. [規則の追加] をクリックします。
3. 要求規則テンプレートに [LDAP 属性を要求として送信] を選択して、[次へ] をクリックします。
4. [要求規則名] を入力します。
5. 属性ストアのユーザーの認証に使用するドメインを選択します。
6. 最初の行の [LDAP 属性] に [SAML-Account-Name] を選択します。
7. 最初の行の [出力方向の要求の種類] に [名前 ID] を選択します。
8. 2 行目の [LDAP 属性] に [Token-Groups - 名前の指定なし] を選択します。
9. 2 行目の [出力方向の要求の種類] に [グループ] を選択します。
10. [完了] をクリックします。

4.2.2.3 証明書利用者信頼の SAML ログアウト・エンドポイントの設定

前提条件:

- 証明書利用者信頼は Intel Unite® クラウド・サービス用に作成する必要があります。

以下の手順は、ドメイン管理者権限を持つユーザーが企業ネットワーク上にあるシステムから実行する必要があります。

1. MMC を実行します。
2. [ファイル] をクリックします。
3. [スナップインの追加と削除] をクリックします。
4. [AD FS の管理] を選択して、[追加] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。
6. [コンソール ルート] 下で、[AD FS] を選択します。
7. [AD FS] を展開します。
8. [証明書利用者信頼] を選択します。
9. セクション 4.2.2.1 で作成された証明書利用者信頼をダブルクリックします。
10. [エンドポイント] タブを選択します。
11. [SAML の追加...] をクリックして、新しいエンドポイントを追加します。
12. [エンドポイント] タイプに [SAML ログアウト] を選択します。
13. [バインディング] に [POST] を選択します。

14. [応答 URL] に <https://admin.unitecloud.intel.com/logout> と入力します。
15. [OK] をクリックして変更を保存します。

4.2.2.4 管理者ポータルサーバーのプロパティの設定

前提条件:

- Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにサインインするための、インテルアカウントが作成済みであること。インテルアカウントを作成する手順については、[セクション 4.2.1](#) を参照してください。
- 組織が作成済みであること。

認証に AD FS を使用するために必要な管理者ポータルサーバーのプロパティを設定するには、次の手順で行ってください。

1. Google* Chrome* または Microsoft* Internet Explorer* のいずれかのブラウザを開き、Intel Unite® クラウド・サービスの [ようこそ] ページ (<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html>) に移動します。
2. インテルアカウントを使用してサインインします。
3. [組織] ページで、認証に AD FS を使用する組織を選択します。
4. [サーバー管理] メニューの下にある [サーバーのプロパティ] をクリックして、[サーバーのプロパティ] ページに移動します。
5. [プロパティの編集] をクリックします。
6. [AD FS ID プロバイダーのログアウト URL] プロパティを設定します。
7. [AD FS ID プロバイダー URL] プロパティを設定します。
8. [AAD FS ID プロバイダー証明書] プロパティを設定します。
9. [変更の保存] をクリックします。

4.2.2.5 AD の組織単位の役割の作成

役割は、AD の組織単位のアクセス許可を管理するために使用されます。AD FS を使用してサインインするユーザーには、ユーザーが属している組織単位に関連付けられた役割に対して設定されているアクセス許可が継承されます。

注: 組織単位が役割に割り当てられると、AD FS のサインイン URL が [すべての役割] ページに表示されます。この URL で、AD FS を使用してサインインします。

前提条件:

- Intel Unite® クラウド・サービスの証明書利用者信頼が作成されていること。
- Intel Unite® クラウド・サービスの証明書利用者信頼の要求が定義されていること。
- Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにサインインするために、インテルアカウントが作成されていること。インテルアカウントを作成する方法については、[セクション 4.2.1](#) を参照してください。
- 管理者ポータルサーバーのプロパティである、[AD FS ID プロバイダーのログアウト URL]、[AD FS ID プロバイダー URL]、および [AD FS ID プロバイダー証明書] が設定されていること。

Intel Unite® クラウド・サービスのユーザーを管理するために使用する AD ユーザーグループの役割を作成するには、以下の手順に従います。

1. Google* Chrome* または Microsoft* Internet Explorer* のいずれかのブラウザを開き、Intel Unite® クラウド・サービスの [ようこそ] ページ (<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html>) に移動します。
2. インテルアカウントを使用してサインインします。
3. [組織] ページで、[AD FS ID プロバイダー] のプロパティが設定されている組織を選択します。
4. [ユーザー管理] メニューで、[役割] を選択します。
5. [新しい役割の作成] をクリックします。
6. 役割名を入力します。
7. [割り当て] をクリックします。

- この役割で定義されたアクセス許可を継承するユーザーを含んでいる Active Directory* の組織単位の、識別名を入力します。Active Directory* の組織単位の識別名を取得する方法の詳細については、[セクション 5.7.3.1](#) を参照してください。
- [**割り当て**] をクリックします。
- 必要なアクセス許可を追加します。
- [**新しい役割の作成**] をクリックして、役割の作成を完了します。

4.2.2.6 デバイス構成への AD の組織単位の割り当て

構成とは、ハブまたはクライアントの設定です。構成は、管理者ポータルグループに割り当てられます。グループ内のすべてのデバイスに、デフォルトでこれらの設定が適用されます。

構成は AD の組織単位に関連付けることができ、構成の設定は、AD の組織単位に属するすべてのデバイスに適用されます。

前提条件:

- Intel Unite® クラウド・サービスの証明書利用者信頼が作成されていること。
- Intel Unite® クラウド・サービスの証明書利用者信頼の要求が定義されていること。
- Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにサインインするために、インテルアカウントが作成されていること。インテルアカウントを作成する方法については、[セクション 4.2.1](#) を参照してください。
- 管理者ポータルサーバーのプロパティである、[AD FS ID プロバイダーのログアウト URL]、[AD FS ID プロバイダー URL]、および [AD FS ID プロバイダー証明書] が設定されていること。
- 少なくとも 1 つのハブまたはクライアント・デバイス・グループが、管理者ポータルの [デバイスグループ] ページの下に存在する必要があります。

Intel Unite® ソリューションで使用するデバイスを管理する AD の組織単位を構成に関連付けるには、次の手順で行ってください。

- Google* Chrome* または Microsoft* Internet Explorer* のいずれかのブラウザを開き、Intel Unite® クラウド・サービスの [ようこそ] ページ (<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html>) に移動します。
- インテルアカウントを使用してサインインします。
- [**組織**] ページで、[AD FS ID プロバイダー] のプロパティが設定されている組織を選択します。
- クライアント・グループに AD の組織単位を割り当てる場合は、[クライアント] タブをクリックします。
- AD の組織単位を割り当てるグループを選択します。
- [**アクションの選択**] ドロップダウン・メニューから、[**グループの詳細**] を選択します。
- [**割り当て**] をクリックします。
- ハブまたはクライアントの管理に使用する Active Directory* の組織単位の識別名を入力します。Active Directory* の組織単位の識別名を取得する方法の詳細については、[セクション 5.5.1.1.1](#) の [**グループの詳細**] を参照してください。
- [**割り当て**] をクリックします。

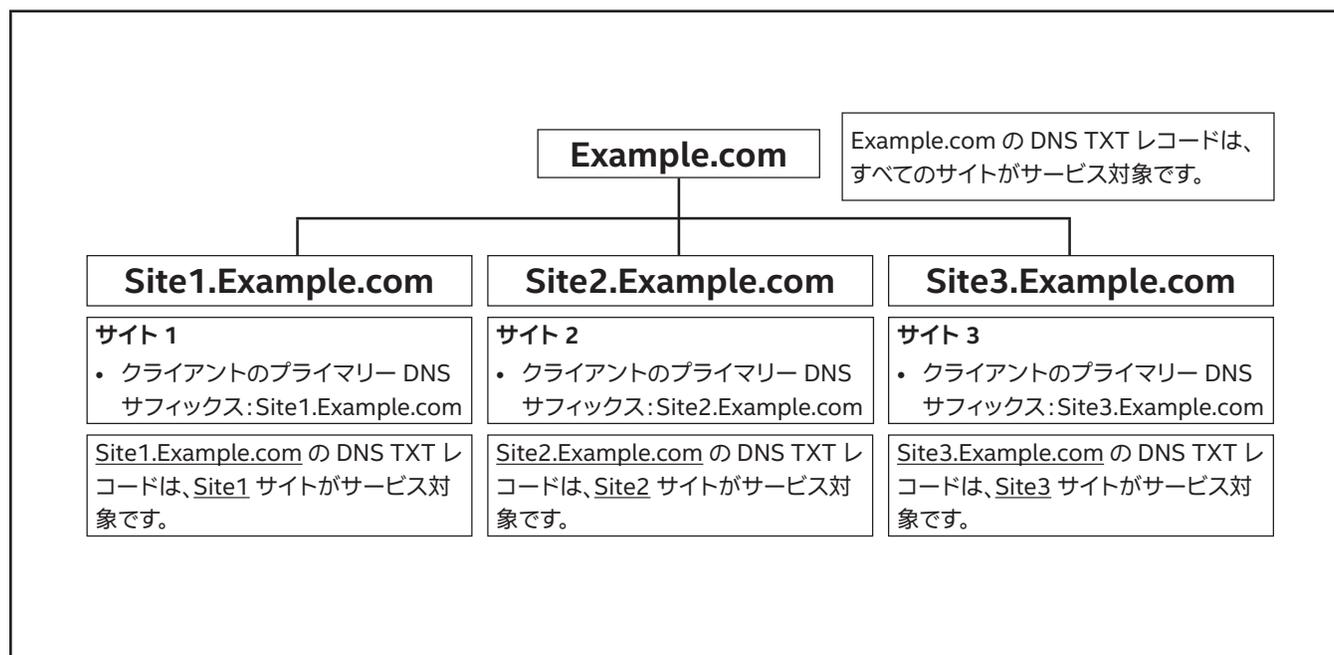
4.3 DNS TXT レコード

DNS TXT レコードは、Intel Unite® クラウド・サービスに必要な情報を Intel Unite® クライアントに提供するために使用されるリソースレコードです。DNS TXT レコードによって提供される具体的な情報は、Intel Unite® クラウド・サービスをホストするサーバーの URL、および組織 ID です。

4.3.1 DNS 階層と DNS TXT レコードの適切な配置

DNS TXT レコードは、Intel Unite® クラウド・サービスの PIN サービスの自動検出を容易にします。DNS TXT レコードの配置は、ハブとクライアントのプライマリー DNS サフィックスまたは親ゾーン・サフィックスと一致する必要があります。サイト間でネットワークトラフィックが許可されている場合、PIN サービスは任意のサイトに存在することができます。[図 7](#) および次の例は、DNS TXT レコードの適切な配置を示しています。

図 7. DNS TXT レコードの配置例



次の例は、図 7 の図に基づいています。

オプション 1: DNS TXT レコードが example.com に作成され、PIN サービスがサイト 1 に存在しています。どのサイトのクライアントもサービスを自動検出できます。

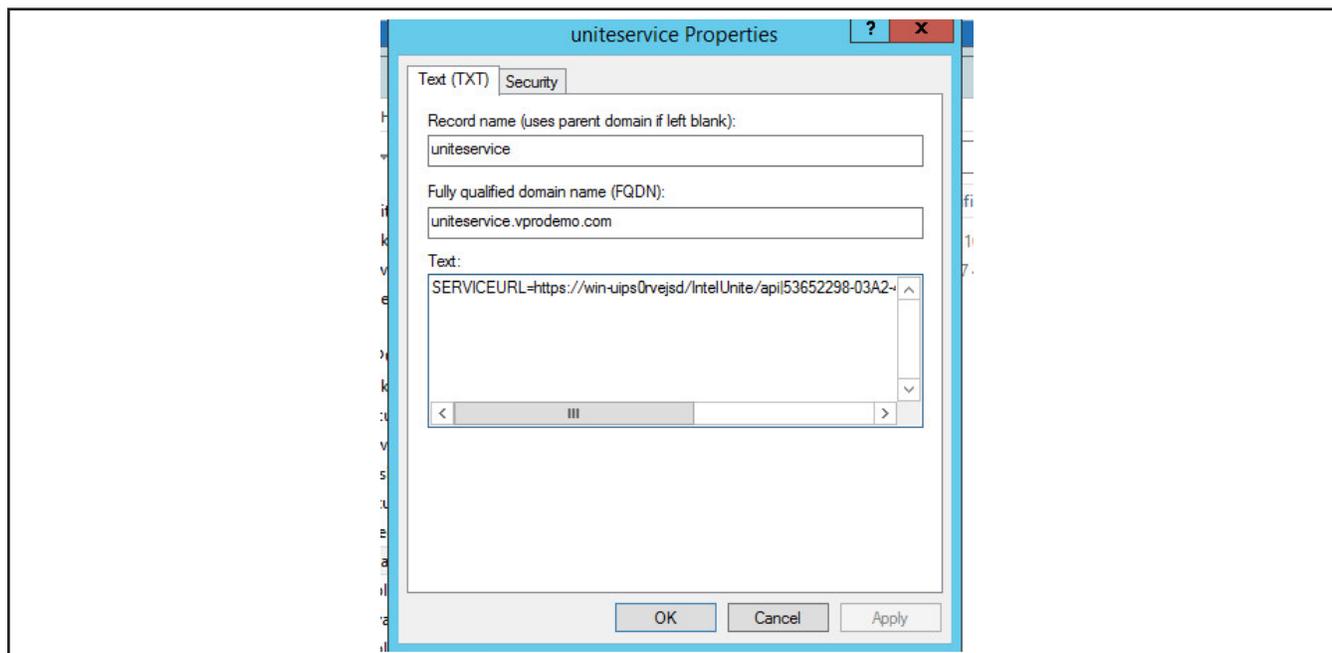
オプション 2: 3 つの DNS TXT レコードが example.com のサイト 1、2、および 3 に作成され、PIN サービスがサイト 1 に存在しています。どのサイトのクライアントもサービスを自動検出できます。

4.3.2 DNS TXT レコードを作成する

ハブやクライアントは、Intel Unite® クラウド・サービスの自動ルックアップ中に DNS TXT レコードを使用して、Intel Unite® クラウド・サービスを検索できます。DNS TXT レコード内の文字列は、大文字と小文字が区別されません。Microsoft* Windows* で DNS TXT レコードを追加するには、次の手順で行ってください。

1. DNS サーバー上で、DNS マネージャーを開きます。
2. 左側のペインで [前方参照ゾーン] を展開します。
3. Intel Unite® ソリューションに使用されているシステムを含むゾーンを右クリックします。複数の前方参照ゾーンを含む DNS のセットアップの場合は、Intel Unite® ソリューションで使用するデバイスのプライマリー DNS サフィックスに一致するゾーンを選択します。
4. [その他の新しいレコード] を選択します。
5. [リソースレコードの種類を選択] 領域で [テキスト (TXT)] を選択します。
6. [レコードの作成] をクリックします。
7. [レコード名] に **unitservice** と入力します。FQDN は自動的に入力されます。
8. [テキスト] オプションには、SERVICEURL=https://<Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル>の FQDN/<intelunite/api|ORGID=<組織 ID>|OrgName=<組織名>> と入力します。ここでは <組織 ID> が組織の GUID で、<組織名> が組織の名前になります。OrgID はランダムに生成され、OrgName は組織の作成時に設定されます。どちらの値も、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルで [デバイスのプロビジョニング] ページを参照することで確認できます。詳細については、セクション 5.5 を参照してください。DNS TXT レコードのプロパティについては、図 8 を参照してください。

図 8. DNS TXT レコードのプロパティ



9. [OK] をクリックして、レコードを作成します。
10. [完了] をクリックして、[リソース レコードの種類] ウィンドウを閉じます。

4.3.3 DNS TXT レコードの使用を無効にする

DNS TXT レコードを使用した自動検出を無効にできます。以下に Windows* および Mac* OS プラットフォームで自動検出を無効にする方法を示します。

Windows* プラットフォーム

Windows* プラットフォームで自動検出を無効にするには、下記のレジストリー・パスに、DWORD 型のレジストリー・キー `DisableAutoDiscovery` を追加します。DWORD 値 1 は、DNS TXT レコードが自動検出に**使用されない**ことを意味します。DWORD 値 0 は、DNS TXT レコードが自動検出に**使用される**ことを意味します。その他の値を指定すると、デフォルトの動作になり、自動検出に DNS TXT レコードを使用します。キーが存在しない場合、デバイスは自動検出に DNS TXT レコードを使用します。

`DisableAutoDiscovery` キーのレジストリーの場所は次のとおりです。

32 ビット Windows* の場合

- ハブデバイス:`HKLM\SOFTWARE\Intel\Intel Unite\Hub`
- クライアント・デバイス:`HKLM\SOFTWARE\Intel\Intel Unite\Client`

64 ビット Windows* の場合

- ハブデバイス:`HKLM\SOFTWARE\{WOW6432Node}\Intel\Intel Unite\Hub`
- クライアント・デバイス:`HKLM\SOFTWARE\{WOW6432Node}\Intel\Intel Unite\Client`

自動検出に関して DNS TXT レコードが無効である場合は、DNS TXT レコードによって提供される情報を提供するために、Intel Unite® クラウド・サービスの [デバイスのプロビジョニング] ページを使用する必要があります。[デバイスのプロビジョニング] ページで、デバイス上の Intel Unite® アプリケーションを開くリンクをクリックし、必要な値を使用してレジストリー・キーを設定します。

Mac* OS プラットフォーム

Mac* OS プラットフォームで自動検出を無効にする方法はいくつかあります。以下に自動検出を無効にする方法を示します。



方法 1 - Intel Unite® アプリケーションの [設定] の [構成] タブの [エンタープライズ・サーバー] の横にある [自動] チェックボックスをオフにします。

1. Intel Unite® アプリを起動します。
2. 右上隅の歯車アイコンをクリックして [設定] に入ります。
3. [構成] をクリックします。
4. [エンタープライズ・サーバー] の横の [自動] チェックボックスをオフにします。
5. 下にある [設定の保存] をクリックします。

方法 2 - ターミナルから `disableautodiscovery` パラメーターを使用して Intel Unite® アプリを起動します。

1. ターミナルを開きます。([アプリケーション] -> [ユーティリティ] -> [ターミナル])
2. `open -a "Intel Unite" disableautodiscovery` と入力します。

方法 3 - plist を変更して、`DisableAutoDiscovery` を true に設定します。

1. ターミナルを開きます。([アプリケーション] -> [ユーティリティ] -> [ターミナル])
2. `defaults write com.intel.Intel-Unite DisableAutoDiscovery -bool true` と入力します。

4.4 Intel Unite® クラウド・サービスへの登録

Intel Unite® クラウド・サービスで使用するデバイスをペアリングするには、Intel Unite® クラウド・サービスへのアクティブなサブスクリプションが必要になります。

登録するには、<https://www.unitecloudservice.intel.com> リンクを参照してください。

4.5 サインイン

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにサインインするには、以下の手順に従います。

1. Google* Chrome* または Microsoft* Internet Explorer* のいずれかのブラウザを開き、Intel Unite® クラウド・サービスの [ようこそ] ページ (<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html>) に移動します。
2. 右上隅にある [サインイン] をクリックします。
3. ユーザー名とパスワードを入力します。インテルアカウントを持っていないユーザーがアカウントを作成する方法については、[セクション 4.2.1](#) を参照してください。

4.6 組織の作成

組織とは、Intel Unite® クラウド・サービスを使用する企業内の事業部または部署を意味します。セットアップ・ウィザードを使用せずに組織を作成するには、[セクション 5.3.1](#) を参照してください。

4.7 サブスクリプションのアクティブ化

Intel Unite® クラウド・サービスで使用するハブをペアリングするには、アクティブなサブスクリプションが必要になります。サブスクリプションをアクティブ化するには、次の手順で行ってください。

1. サインインした後、組織名をクリックして、組織を選択します。
2. [サブスクリプション管理] メニューを開きます。
3. サブスクリプションの申し込み後に受信した電子メールに記載されているアクティベーション・コードを調べます。
4. アクティベーション・コードを [サブスクリプションのアクティブ化] テキストフィールドに入力します。
5. [アクティブ化] ボタンをクリックします。
6. アクティベーションの成功メッセージが表示されるので確認します。

4.8 デバイスのカスタムグループの作成

同じ構成を持つデバイスは、グループとして管理されます。組織を作成すると、ハブデバイス用のルートグループと、クライアント・デバイス用のルートグループが作成されます。デフォルトでは、ハブを組織とペアリングすると、すべてのハブデバイスがルート・ハブ・グループに割り当てられ、クライアントが登録されると、すべてのクライアント・デバイスがルート・クライアント・グループに割り当てられます。

ハブデバイスとクライアント・デバイスの異なる構成を管理するために、サブグループを作成することができます。ルートグループ内にサブグループを作成するには、次の手順で行ってください。

1. Google* Chrome* または Microsoft* Internet Explorer* のいずれかのブラウザを開き、Intel Unite® クラウド・サービスの [ようこそ] ページ (<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html>) に移動します。
2. 右上隅にある [サインイン] をクリックします。
3. ユーザー名とパスワードを入力します。インテルアカウントを持っていないユーザー向けにアカウントを作成する方法については、[セクション 3.1](#) を参照してください。
4. [組織] ページで組織の名前をクリックして、組織を選択します。
5. クライアントのサブグループを作成する場合は、[クライアント] をクリックして、クライアント・グループとデバイスを表示します。
6. ルート・クライアント・グループを選択します。
7. グループリストとデバイスリストの上にある [アクションの選択] ドロップダウン・メニューから、[グループの作成] を選択します。
8. グループの名前を入力します。
9. [作成] をクリックします。

4.9 カスタム構成の作成

構成により、ハブまたはクライアント・デバイスの設定とアプリを定義します。ハブとクライアントの両方の基本構成が、新しい組織用に作成されます。

カスタム構成は、ハブおよびクライアント用に作成できます。カスタム構成を作成するには、以下の手順に従います。

1. Google* Chrome* または Microsoft* Internet Explorer* のいずれかのブラウザを開き、Intel Unite® クラウド・サービスの [ようこそ] ページ (<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html>) に移動します。
2. 右上隅にある [サインイン] をクリックします。
3. ユーザー名とパスワードを入力します。インテルアカウントを持っていないユーザー向けにアカウントを作成する方法については、[セクション 3.1](#) を参照してください。
4. [組織] ページで組織の名前をクリックして、組織を選択します。
5. [デバイス管理] メニューで、[構成] を選択します。
6. [構成] ページで [構成の作成] をクリックします。[構成の作成] ビューが表示されます。
7. [構成名] を新しい構成の名前に置き換えます。
8. 構成名の横にあるハブまたはクライアントを選択します。
9. [Intel Unite® ソフトウェア] ドロップダウン・メニューからバージョンを選択します。
10. 機能やアプリを追加するには、[使用可能な機能 / アプリ] の下の機能またはアプリに関連付けられた青地に白色のプラスアイコン (+) をクリックします。[フィルター] フィールドを使用して、機能とアプリケーションを検索します。機能またはアプリが追加されると、[選択された機能 / アプリ] の下に移動します。
11. 機能またはアプリを削除するには、[選択された機能 / アプリ] の下の機能またはアプリに関連付けられた青地に白色のマイナス記号 (-) をクリックします。機能またはアプリを削除した後、その機能またはアプリは、[使用可能な機能 / アプリ] に移動します。
12. 目的の機能とアプリをパッケージに追加した後、[構成の作成] ボタンをクリックします。

4.10 カスタム構成の割り当て

構成を作成したら、その構成をグループに割り当てる必要があります。そのグループ内のすべてのデバイスに、同じ構成を使用します。グループに構成を割り当てるには、以下の手順に従います。

1. Google* Chrome* または Microsoft* Internet Explorer* のいずれかのブラウザを開き、Intel Unite® クラウド・サービスの [ようこそ] ページ (<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html>) に移動します。
2. 右上隅にある [サインイン] をクリックします。
3. ユーザー名とパスワードを入力します。インテルアカウントを持っていないユーザー向けにアカウントを作成する方法については、[セクション 3.1](#) を参照してください。
4. [組織] ページで組織の名前をクリックして、組織を選択します。
5. [デバイス管理] メニューで、[ハブとクライアント] を選択します。
6. クライアントのカスタム構成を割り当てる場合は、[クライアント] をクリックして、クライアント・グループとデバイスを表示します。
7. カスタム構成を割り当てるグループを選択します。
8. グループリストとデバイスリストの上にある [アクションの選択] ドロップダウン・メニューから、[構成の割り当て] を選択します。
9. [構成の選択] ダイアログボックスから、カスタム構成を選択します。
10. [割り当て] ボタンをクリックして、構成を選択したグループに割り当てます。

4.11 ハブのペアリング

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルを使用してハブデバイスを組織とペアリングし、クライアントが接続できるようにする必要があります。ハブをペアリングすると、ハブによってホストされる会議にクライアントが参加するために必要な PIN を、ハブが受信できます。ハブデバイスを Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにペアリングするには、次の手順で行ってください。

4.11.1 ハブのプロビジョニングに関する注意事項

4.11.1.1 ハブの要件

ハブの要件については、[セクション 2.1](#) を参照してください。

4.11.1.2 ハブのプレインストール

ハブは、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルを検出してそれとペアリングできる必要があります。クライアントと通信するには、ハブ・ファイアウォールで Intel Unite® アプリケーションを例外登録する必要があります。デフォルトでは、Intel Unite® アプリケーションで使用されるポートはランダムに設定されますが、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルのハブの構成プロパティから手動で設定できます。さらに、次の検証を完了します。

- Intel Unite® クラウド・サービス <https://admin.unitecloud.intel.com/> を参照して、サーバーとのネットワーク接続を検証します。
- Intel Unite® クラウド・サービス用の DNS TXT レコードが作成されていることを検証します。詳細は、[セクション 4.3](#) を参照してください。DNS TXT レコードを使用していない場合は、プロビジョニング URL へのアクセスがハブに許可されていることを確認します。詳細は、[セクション 4.11.5.1.2](#) を参照してください。
- ハブが、[セクション 2.1](#) で指定されているソフトウェアとハードウェアの最低条件を満たしていることを検証します。

4.11.1.3 推奨のハブシステム設定

エンドユーザーの体験を最大限に高めるには、常に使用できるようにハブを設定し、システムアラートやポップアップが表示されないようにする必要があります。推奨のシステム設定は次のとおりです。

- Windows* は、Intel Unite® アプリケーションを実行するアカウントで自動的にログインします。

- スクリーンセーバーは無効にしておいてください。
- システムはスタンバイモードにならないように設定しておいてください。
- システムはログアウトしないように設定しておいてください。
- ディスプレイは電源がオフにならないように設定しておいてください。
- システムアラートは抑制しておいてください。

4.11.2 ハブ・ソフトウェアのインストール

ハブ・ソフトウェアをインストールするには、次の手順で行ってください。

1. Intel_Unite_Hub_vx.x.x.x_x86.mui.msi ファイルをダウンロードします。
2. Intel_Unite_Hub_vx.x.x.x_x86.mui.msi ファイルを見つけて、起動します。
3. [次へ] をクリックします。
4. [使用許諾契約書に同意します] ボックスをオンにして、使用許諾契約を承諾します。
5. [次へ] をクリックします。
6. デフォルトのインストール・パスは、C:\Program Files (x86)\Intel\Intel Unite\Hub <バージョン番号> です。ここでは、ハブ・ソフトウェアのバージョン番号が <バージョン番号> になります。別の場所を使用する場合は、テキストボックスに新しい場所を入力するか、[変更] ボタンをクリックし、[インストール先のフォルダーの変更] ダイアログボックスを使用して選択します。[インストール先のフォルダーの変更] ダイアログボックスを使用している場合は、インストール場所を参照し [OK] をクリックします。
7. [次へ] をクリックします。
8. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。
9. インストールが完了したら、アプリケーションを起動するためのチェックボックスをオフのままにして、[完了] をクリックします。

4.11.2.1 ハブ・ソフトウェアのコマンドラインからのインストール (オプション)

ハブ用の Intel Unite® アプリケーション・インストーラーでは、コマンドラインからのインストールをサポートしています。インストーラーの .msi ファイルは、ローカルシステムまたはネットワーク共有にある既知の場所に置かれている必要があります。コマンドラインからハブ・ソフトウェアをインストールするための次のコマンドとパラメーターは、管理者として実行する必要があります。

```
msiexec /i "<.msi インストーラーのパス>" /l*v "<ログのパス>" /q HUBINSTALLFOLDER="<値>" ORGID="<値>"
PINSEVERURI="<値>" ORGNAME="<値>" ACCEPTPRIVACYSTATEMENT="yes|no" REGISTRYMODE="HKCU|HKLM"
OTP="<値>"
```

4.11.2.1.1 ハブのインストール・パラメーター

ハブのインストール・パラメーターでは、大文字と小文字が区別されます。インストールの結果は、ログファイルを解析して判断できます。二重引用符は、1 つまたは複数のスペースを含む入力値にのみ必要です。疑わしい場合は、二重引用符で入力値を囲んでください。

表 1. ハブのインストール・パラメーター

パラメーター	定義
/i	インストールのスイッチ。
"<.msi インストーラーのパス>"	二重引用符が付いた msi ファイルのパスおよびファイル名 (例: "c:\ダウンロード\installer.msi")。
/l*v	ログファイルを生成するためのスイッチ。
"<ログのパス>"	二重引用符が付いたログファイル名が含まれるパス (例: "c:\ログ\hubinstalllog.txt")。
/q	ユーザーとやり取りしないためのスイッチ。

パラメーター	定義
HUBINSTALLFOLDER=" <code><値></code> "	ハブ・アプリケーションのインストール場所。 <code><値></code> は、二重引用符が付いた完全なパスに置き換えます (例: "c:\アプリ\unite hub")。
ORGID=" <code><値></code> "	組織 ID。 <code><値></code> を組織 ID に置き換えます。
PINSERVERURI=" <code><値></code> "	PIN サーバーの URL。 <code><値></code> を、 <a href="https://<Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル>/intelunite/api">https://<Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル>/intelunite/api の形式である PIN サーバーの URL に置き換えます。
ORGNAME=" <code><値></code> "	組織名。 <code><値></code> を組織名に置き換えます。
ACCEPTPRIVACYSTATEMENT="yes no"	"yes" に設定されている場合、プライバシー・ステートメントの受け入れチェックボックスをオンにします。
REGISTRYMODE="HKCU HKLM"	ハブの構成が格納されるレジストリの場所 (HKEY_CURRENT_USER または HKEY_LOCAL_MACHINE) を指定します。
OTP=" <code><値></code> "	クライアントの登録に使用される OTP トークン。 <code><値></code> は、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルから取得した OTP トークンに置き換えます。

4.11.3 ハブ上の Windows* ファイアウォールの構成

Windows* ファイアウォールにより、ハブが Intel Unite® クラウド・サービスやクライアント・デバイスと通信できなくなる場合があります。[セクション 4.11.3.1](#) と [セクション 4.11.3.2](#) では、Intel Unite® クラウド・サービスのハブ・アプリケーションについてネットワーク・アクセスを許可するようにファイアウォールを構成する方法を説明します。デバイスに変更を加える前に、IT 管理者に確認および相談してください。

4.11.3.1 受信の規則の作成

- コントロール パネルを開きます。
- 検索ボックスに、**Windows Defender ファイアウォール**と入力します。
- 検索結果で、**Windows Defender ファイアウォール**をクリックします。
- [詳細設定]** をクリックします。
- [ユーザー アカウント制御] ダイアログボックスで **[はい]** をクリックします。
- [受信の規則]** を選択します。
- [操作] ウィンドウの **[新しい規則...]** を選択します。
- [プログラム]** を選択し、**[次へ >]** をクリックします。
- [このプログラムのパス:]** を選択し、ハブ・アプリケーション・ランチャーの場所を参照し、`Intel.Unite.HubLauncher.exe` を選択します。
注: ハブ・アプリケーション・ランチャーのデフォルトのパスは `C:\Program Files (x86)\Intel\Intel Unite\Hub <バージョン番号>\Intel.Unite.HubLauncher.exe` です。
- プログラムのパスが設定されたら、**[次へ >]** をクリックします。
- [接続を許可する]** を選択し、**[次へ >]** をクリックします。
- [ドメイン]**、**[プライベート]**、**[パブリック]** のチェックボックスをオンにし、**[次へ >]** をクリックします。
- 規則の名前と説明を入力し、**[完了]** をクリックします。
- `C:\ProgramData\Intel\Intel Unite\Hub\<バージョン番号>\Intel.Unite.Module.Process.exe` についても、ステップ 6 ~ 13 を繰り返して規則を追加します。
- `C:\ProgramData\Intel\Intel Unite\Hub\<バージョン番号>\Intel Unite Hub.exe` についても、ステップ 6 ~ 13 を繰り返して規則を追加します。
- [受信の規則]** を選択します。
- [操作] ウィンドウの **[新しい規則...]** を選択します。
- [ポート]** を選択し、**[次へ >]** をクリックします。
- [TCP]** および **[特定のローカル ポート:]** を選択します。
- [特定のローカル ポート:]** の横にあるテキストフィールドに `443` と入力し、**[次へ >]** をクリックします。
- [接続を許可する]** を選択し、**[次へ >]** をクリックします。

22. [ドメイン]、[プライベート]、[パブリック] のチェックボックスをオンにし、[次へ >] をクリックします。
23. 規則の名前と説明を入力し、[完了] をクリックします。

4.11.3.2 送信の規則の作成

1. コントロール パネルを開きます。
2. 検索ボックスに、**Windows Defender ファイアウォール**と入力します。
3. 検索結果で、**Windows Defender ファイアウォール**をクリックします。
4. [詳細設定] をクリックします。
5. [ユーザー アカウント制御] ダイアログボックスで [はい] をクリックします。
6. [送信の規則] を選択します。
7. [操作] ウィンドウの [新しい規則...] を選択します。
8. [プログラム] を選択し、[次へ >] をクリックします。
9. [このプログラムのパス:] を選択し、ハブ・アプリケーション・ランチャーの場所を参照し、Intel.Unite.HubLauncher.exe を選択します。
注:ハブ・アプリケーション・ランチャーのデフォルトのパスは C:\Program Files (x86)\Intel\Intel Unite\Hub<バージョン番号>\Intel.Unite.HubLauncher.exe です。
10. プログラムのパスが設定されたら、[次へ >] をクリックします。
11. [接続を許可する] を選択し、[次へ >] をクリックします。
12. [ドメイン]、[プライベート]、[パブリック] のチェックボックスをオンにし、[次へ >] をクリックします。
13. 規則の名前と説明を入力し、[完了] をクリックします。
14. C:\ProgramData\Intel\Intel Unite\Hub<バージョン番号>\Intel.Unite.Module.Process.exe についても、ステップ 6 ~ 13 を繰り返して規則を追加します。
15. C:\ProgramData\Intel\Intel Unite\Hub<バージョン番号>\Intel Unite Hub.exe についても、ステップ 6 ~ 13 を繰り返して規則を追加します。
16. [送信の規則] を選択します。
17. [操作] ウィンドウの [新しい規則...] を選択します。
18. [ポート] を選択し、[次へ >] をクリックします。
19. [TCP] および [特定のローカル ポート:] を選択します。
20. [特定のローカル ポート:] の横にあるテキストフィールドに 443 と入力し、[次へ >] をクリックします。
21. [接続を許可する] を選択し、[次へ >] をクリックします。
22. [ドメイン]、[プライベート]、[パブリック] のチェックボックスをオンにし、[次へ >] をクリックします。
23. 規則の名前と説明を入力し、[完了] をクリックします。

4.11.4 ハブのプライバシー

ハブ・アプリケーションの最初の起動時に [プライバシー・モード] サーバー・プロパティが [ユーザーに通知] に設定されている場合は、プライバシー・ステートメント・ダイアログが表示されます。続行するには、[情報の収集に同意して本ソフトウェアを使用します] チェックボックスをオンにして、[同意する] ボタンをクリックします。

4.11.5 ハブペアリング

ハブを使用する前に、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルで、ハブを組織とペアリングする必要があります。ハブ・ペアリング・プロセスの一部であるハブの構成で、OrganizationID、OrganizationName、および ServerURL の値を設定します。

4.11.5.1 ハブの事前構成

ハブを組織とペアリングする前に、ハブで OrganizationID、OrganizationName、および ServerURL 値を設定する必要があります。これらの値は、DNS TXT レコードと URI という 2 つの方法で取得できます。

4.11.5.1.1 DNS TXT レコード

ハブ・アプリケーションが最初に起動したときに、`OrganizationID`、`OrganizationName`、および `ServerURL` が設定されているかどうかをチェックします。値が設定されていない場合、ハブは、DNS TXT レコードを探して値を取得しようとします。ハブが DNS TXT レコードを見つけると、文字列を解析して `OrganizationID`、`OrganizationName`、および `ServerURL` を設定します。DNS TXT レコードを作成する手順については、[セクション 4.3](#) を参照してください。

4.11.5.1.2 URI

ハブで、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル の [デバイスのプロビジョニング] ページに移動し、リンクをクリックします。次の手順では、URI を使用して、`OrganizationID`、`OrganizationName`、および `ServerURL` の値を設定する方法について説明します。

1. ハブで、Intel Unite® クラウド・サービスにサインインします (詳細については、[セクション 4.5](#) を参照してください)。サインインページにアクセスするには、<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html> リンクを使用します。
2. ハブが属する組織を選択します。
3. [デバイス管理] をクリックし、[デバイスのプロビジョニング] を選択して、[デバイスのプロビジョニング] ページを開きます。
4. [デバイスのプロビジョニング] ページに表示されているリンク (リンクは `intelunite4://` で始まります) をクリックするか、ハブの実行コマンドラインにこのリンクをコピーして貼り付けます。リンクをクリックすると、Intel Unite® ソリューション用のハブ・アプリケーションを開くように要求するプロンプトが表示される場合があります。プロンプトが表示されたら、[Intel Unite® Hub Launcher を開く] をクリックしてハブ・アプリケーションを開きます。
5. Intel Unite® ソリューションのハブ・アプリケーションが開き、`OrganizationID`、`OrganizationName`、および `ServerURL` の値が設定されます。自動ペアリングを続行するには、ハブ・アプリケーションを閉じ、[セクション 4.11.5.2.1](#) に移動します。手動ペアリングを続行するには、[セクション 4.11.5.2.2](#) の手順 6 に進みます。

4.11.5.2 ハブペアリング方式

ハブはペアリングトークンを使用して自動的にペアリングすることも、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルを使用して手動でペアリングすることもできます。

注: Windows* プラットフォームでハブ・アプリケーションを初めて起動すると、Intel Unite® アプリケーションについてネットワーク・アクセスの許可を求める Windows* Defender ポップアップが表示される場合があります。Intel Unite® アプリケーションについて許可が付与されるまで、ハブは Intel Unite® クラウド・サービスに接続できません。場合によっては、ハブ・アプリケーションがポップアップを表示しないことがあります。この問題を解決するには、タスク マネージャーを使用して Intel Unite® アプリケーションを閉じ、Windows* Defender ポップアップで [アクセスを許可する] をクリックします。

4.11.5.2.1 自動ペアリング

自動ペアリングの手順は `OrganizationID`、`OrganizationName`、および `ServerURL` が設定されているハブにのみ適用されます。これらの値が設定されていない場合、ハブはペアリングのための Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルを見つけることができません。自動ペアリングを使用するには、次の手順で行ってください。

1. ハブで、Intel Unite® クラウド・サービスにサインインします (詳細については、[セクション 4.5](#) を参照してください)。サインインページにアクセスするには、<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html> リンクを使用します。
2. ハブが属する組織を選択します。
3. [デバイス管理] メニューを開きます。
4. [期間 (時間)] テキストボックスに、トークンが有効な時間数を入力します。
5. [トークンの生成] ボタンをクリックして、ワンタイム・ペアリング・トークンを生成します。
6. ハブデバイスから、ウェブブラウザを開いて、`intelunite4://localhost/pair?otp=<トークン>` の URI へアクセスします。`<トークン>` は手順 4 での値です。



トークンが [自動ペアリング管理] ページに保存されます。後からトークンにアクセスするには、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにログインし、[デバイス管理] メニューを開き、[自動ペアリング管理] を選択します。[自動ペアリング管理] ページに、ペアリングトークンのリストとともにトークンが有効期限切れになる日付と時刻が表示されます。

4.11.5.2.2 Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルを使用した手動ペアリング

手動ペアリングを使用するには、次の手順で行ってください。

1. ハブで、Intel Unite® クラウド・サービスにサインインします (詳細については、[セクション 4.5](#) を参照してください)。サインインページにアクセスするには、<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html> リンクを使用します。
2. ハブが属する組織を選択します。
3. [デバイス管理] をクリックし、[デバイスのプロビジョニング] を選択して、[デバイスのプロビジョニング] ページを開きます。
4. [デバイスのプロビジョニング] ページに表示されているリンク (リンクは `intelunite4://` で始まります) をクリックするか、ハブの実行コマンドラインにこのリンクをコピーして貼り付けます。リンクをクリックすると、Intel Unite® ソリューション用のハブ・アプリケーションを開くように要求するプロンプトが表示される場合があります。プロンプトが表示されたら、[Intel Unite® Hub Launcher を開く] をクリックしてハブ・アプリケーションを開きます。
5. Intel Unite® ソリューションのハブ・アプリケーションが開き、[ペアリング準備完了] プロンプトとペアリングコードが表示されます。
6. インターネットにアクセスできる別のデバイスで、Intel Unite® クラウド・サービスにサインインします (詳細については、[セクション 4.5](#) を参照してください)。サインインページにアクセスするには、<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html> リンクを使用します。
7. 手順 2 で選択した組織と同じ組織を選択します。
8. [デバイス管理] をクリックします。
9. [ハブのペアリング] フィールドに、ハブに表示されているペアリングコードを入力し、[ハブのペアリング] をクリックします。
10. ハブに、Windows* Defender ファイアウォールのダイアログが表示される場合があります。ダイアログが表示されたら、[アクセスを許可する] をクリックします。
11. ペアリングされると、ハブは Intel Unite® クラウド・サービスから構成設定とアプリをダウンロードします。
12. ダウンロード後、ハブに、右上隅に PIN を含んだ [ようこそ] 画面が表示されます。

ハブが構成され、ハブを使用する準備が完了しました。

4.11.6 ハブ・ソフトウェアのアンインストール

ハブ・アプリケーションをアンインストールするには、次の手順で行ってください。

1. `Intel_Unite_Hub_vx.x.x.x_x86.mui.msi` ファイルを探します (ローカルストレージかネットワーク・ストレージのいずれかにあります)。
2. `Intel_Unite_Hub_vx.x.x.x_x86.mui.msi` クライアント・インストーラーを起動します。
3. [削除] をクリックしてから、[次へ] をクリックします。

注: ハブ・アプリケーションを削除しても、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルからデバイスは削除されません。管理者は、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルからデバイスを手動で削除する必要があります。削除されるまで、同一のマシン名を持つペアリングされたハブは、「重複する」エントリーとしてタグ付けされます。

4.11.6.1 ハブ・ソフトウェアのコマンドラインからのアンインストール (オプション)

ハブ用の Intel Unite® アプリケーション・インストーラーでは、コマンドラインからのアンインストールをサポートしています。インストーラーの `msi` ファイルは、ローカルシステムまたはネットワーク共有にある既知の場所に置かれている必要があります。アンインストール用の次のコマンドとパラメーターは、管理者として実行する必要があります。

```
msiexec /x "<.msi インストーラーのパス>" /! *v "<ログのパス>" /q
```

4.11.6.1.1 ハブ・ソフトウェアのコマンドラインからのアンインストール・パラメーター

ハブのコマンドラインからのアンインストール・パラメーターでは、大文字と小文字が区別されません。アンインストールの結果は、ログファイルを解析して判断できます。二重引用符は、1 つまたは複数のスペースを含む入力値にのみ必要です。疑わしい場合は、二重引用符で入力値を囲んでください。

表 2. ハブ・ソフトウェアのコマンドラインからのアンインストール・パラメーター

パラメーター	定義
/x	アンインストールのためのスイッチ。
"<.msi インストーラーのパス>"	二重引用符が付いた msi ファイルのパスおよびファイル名 (例: "c:\ダウンロード\installer.msi")。
/l*v	ログファイルを生成するためのスイッチ (例: "c:\ログ\hubuninstallog.txt")。
"<ログのパス>"	二重引用符が付いたログファイル名が含まれるパス。
/q	ユーザーとのやり取りを必要としないサイレントのためのスイッチ。

4.11.7 ハブのセキュリティ

ハブの管理者は、それぞれのハブでセキュリティの推奨プラクティスが実行されていることを確認してください。自動的にログインしたローカルユーザーが、管理者権限を持つことがないようにしてください。セキュリティに関するその他の注意事項については、[付録 D](#) を参照してください。

4.11.8 ハブのログファイル

ハブは次のパスでログファイルを保存します。

`C:\Users\<ユーザー>\AppData\Local\Temp.<ユーザー>` はログインしたユーザーです

ログファイルの名前は **Unite.sql** です。

4.12 クライアントの登録

クライアントは、同じ組織とペアリングされるハブによりホストされる会議に参加するには、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルを介して組織に登録されている必要があります。

4.12.1 クライアントのプロビジョニングに関する注意事項

4.12.1.1 クライアントの要件

クライアントの要件の詳細な説明については、[セクション 2.2](#) を参照してください。

4.12.1.2 クライアントのブレイクストール

クライアントは、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルを検出して通信できる必要があります。クライアント・アプリケーションが Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルと通信できるように、Intel Unite® アプリケーションをクライアント・ファイアウォールで例外登録する必要があります。クライアント・ポートはハブポート同様、デフォルトではランダムに生成されます。ポート番号は、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルを使用し、ハブの構成プロパティで手動で設定できます。セキュリティに関する注意事項の詳細な説明については、[付録 D](#) を参照してください。

すべてのクライアント・デバイスは、企業ネットワークに接続しているか、Windows*、iOS*、Mac*、Linux*、Chrome* OS、Android* の各種デバイスを含む適切に構成された VPN を使用する必要があります。独自のキャリアに接続しているタブレットとスマートフォンは、企業ファイアウォール構成により、Intel Unite® アプリのセッションに接続できない場合があります。詳細については、特定のモバイルデバイスのセクションを参照してください。



最後に、[セクション 2.2](#) で指定されているように、各クライアントがソフトウェアとハードウェアの最低限の要件を満たしていることを確認します。

4.12.2 Windows* クライアントのインストール

クライアント・デバイスには、Intel Unite® クラウド・サービス用の 1 つのクライアント・アプリケーションのみをインストールする必要があります。クライアント・デバイスに Intel Unite® クラウド・サービスのクライアント・アプリケーションを複数インストールすることはサポートされていないため、このようにするとクライアントを使用する会議への接続が不可能になる場合があります。

Windows* クライアントをインストールするには、次の手順で行ってください。

1. Intel_Unite_Client_vx.x.x.x_x86.mui.msi ファイルをダウンロードします。
2. Intel_Unite_Client_vx.x.x.x_x86.mui.msi ファイルを見つけて、起動します。
3. [次へ] をクリックします。
4. [使用許諾契約書に同意します] ボックスをオンにして、使用許諾契約を承諾します。
5. [次へ] をクリックします。
6. デフォルトのインストール・パスは、C:\Program Files (x86)\Intel\Intel Unite\Client <バージョン番号> です。ここでは、クライアント・ソフトウェアのバージョン番号が <バージョン番号> になります。別の場所を使用する場合は、テキストボックスに新しい場所を入力するか、[変更] ボタンをクリックし、[インストール先のフォルダーの変更] ダイアログボックスを使用して、インストール場所を選択します。[インストール先のフォルダーの変更] ダイアログボックスを使用している場合は、インストール場所を参照し [OK] をクリックします。
7. [次へ] をクリックします。
8. [インストール] をクリックして、ほかのインストールを開始します。
9. インストールが完了したら [完了] をクリックします。

注: 拡張ディスプレイをサポートするには、Intel_Unite_Extended_Display_<x.x.x.x>.mui.msi がインストールされている必要があります。

4.12.2.1 Windows* クライアントのコマンドラインからのインストール (オプション)

クライアント用の Intel Unite® アプリケーション・インストーラーでは、コマンドラインからのインストールをサポートしています。Intel_Unite_Client_vX.X.X.X_x86.mui.msi (X.X.X.X はバージョン番号) は、ローカルシステムまたはネットワーク共有にある既知の場所に置かれている必要があります。コマンドラインから Windows* クライアントをインストールするための次のコマンドとパラメーターは、管理者として実行する必要があります。

```
msiexec /i "<.msi インストーラーのパス>" /! *v "<ログのパス>" /q CLIENTINSTALLFOLDER="<値>" ORGID="<値>"
PINSERVERURI="<値>" ORGNAME="<値>" ACCEPTPRIVACYSTATEMENT="yes|no" REGISTRYMODE="HKCU|HKLM"
OTP="<値>" USERMAIL="<値>"
```

4.12.2.1.1 Windows* クライアントのコマンドラインからのインストール・パラメーター

Windows* クライアントのコマンドラインからのインストール・パラメーターでは、大文字と小文字が区別されます。インストールの結果は、ログファイルを解析して判断できます。二重引用符は、1 つまたは複数のスペースを含む入力値にのみ必要です。疑わしい場合は、二重引用符で入力値を囲んでください。

表 3. Windows* クライアントのコマンドラインからのインストール・パラメーター

パラメーター	定義
/i	インストールのスイッチ。
"<.msi インストーラーのパス>"	二重引用符が付いた msi ファイルのパスおよびファイル名 (例: "c:\ダウンロード\installer.msi")。
/! *v	ログファイルを生成するためのスイッチ (例: "c:\ログ\hubuninstalllog.txt")。
"<ログのパス>"	二重引用符が付いたログファイル名が含まれるパス。

パラメーター	定義
/q	ユーザーとのやり取りを必要としないサイレントのためのスイッチ。
CLIENTINSTALLFOLDER="<値>"	クライアント・アプリケーションのインストール場所。<値> は完全なパス (例: "c:\アプリ\unite client") に置き換えます。
ORGID="<値>"	組織 ID。<値> を組織 ID に置き換えます。
PINSERVERURI="<値>"	PIN サーバーの URL。<値> を、 <a href="https://<Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル>/intelunite/api">https://<Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル>/intelunite/api の形式である PIN サーバーの URL に置き換えます。
ORGNAME="<値>"	組織名。<値> を組織名に置き換えます。
ACCEPTPRIVACYSTATEMENT="yes no"	"yes" に設定されている場合、プライバシー・ステートメントの受け入れチェックボックスをオンにします。
REGISTRYMODE="HKCU HKLM"	クライアントの構成が格納されるレジストリの場所 (HKEY_CURRENT_USER または HKEY_LOCAL_MACHINE) を指定します。
OTP="<値>"	クライアントの登録に使用される OTP トークン。<値> は、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルから取得した OTP トークンに置き換えます。
USERMAIL="<値>"	このクライアントを使用するユーザーのメールアドレス。<値> は、このクライアントを使用するユーザーのメールアドレスに置き換えます。

4.12.3 Mac* OS クライアントのインストール

Mac* OS 用の Intel Unite® クライアントは、インテルから直接ダウンロードするだけでなく、Mac* App Store* からインストールすることも可能です。結果として、Mac* OS デバイス上に Intel Unite® クラウド・サービスのクライアント・アプリケーションが 2 つ以上存在することがあります。1 つのデバイス上に Intel Unite® クラウド・サービスのクライアント・アプリケーションを複数存在させることはサポートされておらず、Intel Unite® ソリューションの不具合につながる可能性があります。

Mac* OS クライアントは、3.x および 4.0 のハブに接続することをサポートしています。Intel Unite® クラウド・サービスのクライアント・アプリケーションの 4.0 バージョンのみをデバイスにインストールして、3.x と 4.0 両方のハブに接続できるようにすることをお勧めします。クライアントに Intel Unite® クラウド・サービスのクライアント・アプリケーションが複数インストールされているかどうかを確認するには、次の手順で行ってください。

1. **Finder** を開きます。
2. 右上隅にある検索ボックスに **Intel Unite®** と入力し、**return** キーを押します。
3. 結果の領域を 2 本の指でタップし、**[表示順序] -> [種類]** の順に選択します。
4. Intel Unite® アプリケーションが 1 つだけあることを確認します。Intel Unite® アプリケーションが複数存在する場合、1 つの Intel Unite® アプリケーション以外のすべてを削除します。

Mac* OS クライアントをインストールするには、次の手順で行ってください。

1. **Intel Unite macOS X.X.X.X.dmg** ファイルを探し、Mac* クライアントにソフトウェアをダウンロードします。
2. ファイルをダブルクリックしてアプリケーションを解凍します。
3. エンドユーザー使用許諾契約を確認した後、**[同意します]** をクリックして続行します。
4. 抽出されたファイルを**アプリケーション・フォルダー**にドラッグします。
5. **アプリケーション・フォルダー**に移動してアプリケーションを見つけたら、クリックして実行します。

4.12.4 iOS* クライアントのインストール

アプリは、初期の 2010 iPad* を除くすべての iPad* と互換性があります。iOS* デバイスに Intel Unite® クライアントをインストールするには、次の手順で行ってください。

1. iOS* クライアント (iPad* など) で、Apple* App Store を開き、クライアント用の Intel Unite® ソフトウェアをダウンロードします。
2. アプリのダウンロードとインストールが完了したら、アプリを開きます。



4.12.5 Android* クライアントのインストール

Android* デバイスに Intel Unite® クライアントをインストールするには、次の手順で行ってください。

1. Android* デバイスで、Google* アプリストアを開き、クライアント用の Intel Unite® ソフトウェアをダウンロードします。
2. アプリのダウンロードとインストールが完了したら、アプリを開きます。

4.12.6 Chrome* OS クライアントのインストール

Chrome* OS デバイスに Intel Unite® クライアントをインストールするには、次の手順で行ってください。

1. Chromebook* デバイスで、Google* アプリストアを開き、クライアント用の Intel Unite® ソフトウェアをダウンロードします。
2. アプリのダウンロードとインストールが完了したら、アプリを開きます。

4.12.7 Linux* OS クライアントのインストール

Linux* OS デバイスに Intel Unite® クライアントをインストールするには、次の手順で行ってください。

1. Linux* クライアントのバイナリーファイルを Intel Unite® ソリューションのサポートサイトから取得します。
 - Fedora*/Red Hat* - .rpm
 - Ubuntu* - .deb
 - 手動 (上級ユーザー) - .bz2
2. 次のコマンドを使用して、クライアントをインストールします。
 - Red Hat* Enterprise および Fedora* の場合 -
`sudo yum install /<rpm のパス>/<unite pack.rpm>`
 - Ubuntu* の場合 -
`sudo apt-get install ./<unite pack.deb>`
 - 手動 (上級ユーザー) -
.bz2 ファイルを指定した場所に解凍します。

4.12.8 クライアント・ファイアウォールの構成

ファイアウォールにより、クライアントが Intel Unite® クラウド・サービスやハブデバイスと通信できなくなる場合があります。次の手順では、Intel Unite® クラウド・サービスのクライアント・アプリケーションについてネットワーク・アクセスを許可するようにファイアウォールを構成する方法を説明します。デバイスに変更を加える前に、IT 管理者に確認および相談してください。

4.12.8.1 Windows* プラットフォーム

セクション 4.12.8.1.1 とセクション 4.12.8.1.2 では、Windows* ファイアウォールを構成する方法について説明します。

4.12.8.1.1 受信の規則の作成

1. コントロール パネルを開きます。
2. 検索ボックスに、**Windows Defender ファイアウォール**と入力します。
3. 検索結果で、**Windows Defender ファイアウォール**をクリックします。
4. **[詳細設定]** をクリックします。
5. [ユーザー アカウント制御] ダイアログボックスで **[はい]** をクリックします。
6. **[受信の規則]** を選択します。
7. [操作] ウィンドウの **[新しい規則...]** を選択します。
8. **[プログラム]** を選択し、**[次へ >]** をクリックします。
9. **[このプログラムのパス:]** を選択し、クライアント・アプリケーション・ランチャーの場所を参照します。
注:クライアント・アプリケーション・ランチャーのデフォルトのパスは C:\Program Files (x86)\Intel\Intel Unite\
Client <バージョン番号>\Intel.Unite.ClientLauncher.exe です。
10. プログラムのパスが設定されたら、**[次へ >]** をクリックします。

11. [接続を許可する] を選択し、[次へ >] をクリックします。
12. [ドメイン]、[プライベート]、[パブリック] のチェックボックスをオンにし、[次へ >] をクリックします。
13. 規則の名前と説明を入力し、[完了] をクリックします。
14. 手順 6 ~ 13 を繰り返し、次のパスにあるクライアント・アプリケーションの受信の規則を追加します：`%program data%\Intel\Intel Unite\Client\Current\Intel Unite Client.exe`
15. [受信の規則] を選択します。
16. [操作] ウィンドウの [新しい規則...] を選択します。
17. [ポート] を選択し、[次へ >] をクリックします。
18. [TCP] および [特定のローカル ポート:] を選択します。
19. [特定のローカル ポート:] の横にあるテキストフィールドに 443 と入力し、[次へ >] をクリックします。
20. [接続を許可する] を選択し、[次へ >] をクリックします。
21. [ドメイン]、[プライベート]、[パブリック] のチェックボックスをオンにし、[次へ >] をクリックします。
22. 規則の名前と説明を入力し、[完了] をクリックします。

4.12.8.1.2 送信の規則の作成

1. コントロール パネルを開きます。
2. 検索ボックスに、**Windows Defender ファイアウォール** と入力します。
3. 検索結果で、**Windows Defender ファイアウォール** をクリックします。
4. [詳細設定] をクリックします。
5. [ユーザー アカウント制御] ダイアログボックスで [はい] をクリックします。
6. [送信の規則] を選択します。
7. [操作] ウィンドウの [新しい規則...] を選択します。
8. [プログラム] を選択し、[次へ >] をクリックします。
9. [このプログラムのパス:] を選択し、クライアント・アプリケーション・ランチャーの場所を参照します。
注: ハブ・アプリケーション・ランチャーのデフォルトのパスは `C:\Program Files (x86)\Intel\Intel Unite\Client <バージョン番号>\Intel.Unite.ClientLauncher.exe` です。
10. プログラムのパスが設定されたら、[次へ >] をクリックします。
11. [接続を許可する] を選択し、[次へ >] をクリックします。
12. [ドメイン]、[プライベート]、[パブリック] のチェックボックスをオンにし、[次へ >] をクリックします。
13. 規則の名前と説明を入力し、[完了] をクリックします。
14. 手順 6 ~ 13 を繰り返し、次のパスにあるクライアント・アプリケーションの送信の規則を追加します：`%program data%\Intel\Intel Unite\Client\Current\Intel Unite Client.exe`
15. [送信の規則] を選択します。
16. [操作] ウィンドウの [新しい規則...] を選択します。
17. [ポート] を選択し、[次へ >] をクリックします。
18. [TCP] および [特定のローカル ポート:] を選択します。
19. [特定のローカル ポート:] の横にあるテキストフィールドに 443 と入力し、[次へ >] をクリックします。
20. [接続を許可する] を選択し、[次へ >] をクリックします。
21. [ドメイン]、[プライベート]、[パブリック] のチェックボックスをオンにし、[次へ >] をクリックします。
22. 規則の名前と説明を入力し、[完了] をクリックします。

4.12.8.2 Mac* OS プラットフォーム

次の手順では、Mac* OS プラットフォーム用のファイアウォールを構成する方法について説明します。

1. Apple メニューから、[システム環境設定] を選択します。
2. [セキュリティ] をクリックします。
3. [ファイアウォール] タブをクリックします。
4. [ファイアウォールオプション...] ボタンをクリックします。
5. プラス記号の付いたボタンをクリックして、アプリケーションを追加します。
6. [Intel Unite®] を選択し、[追加] ボタンをクリックします。



7. [OK] ボタンをクリックします。
8. [システム環境設定] ウィンドウを閉じます。

注: デフォルトでは、ポート 443 は通常、開いている状態になっています。ブラウザを開き、<https://www.intel.com> にアクセスして確認してください。ブラウザがウェブページをロードしない場合は、IT サポートに連絡して、デバイスでポート 443 を開いてください。

4.12.8.3 Linux* プラットフォーム

Linux* プラットフォームでは、ハブとクライアントが使用するネットワーク・ポートを設定してから、そのポートを通過するトラフィックを許可するようにクライアントのファイアウォールを構成する必要があります。

4.12.8.3.1 ハブの管理者ポータルでのネットワークポートの定義

クライアントが使用するネットワーク・ポートはハブによって伝達されます。ハブで実行されている Intel Unite® アプリが使用するネットワーク・ポート (クライアントに伝達されます) を構成するには、次の手順で行ってください。

1. ハブで、Intel Unite® クラウド・サービスにサインインします (詳細については、[セクション 4.5](#) を参照してください)。サインインページにアクセスするには、<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html> リンクを使用します。
2. クライアントが登録されている組織を選択します。
3. [デバイス管理] メニューで、[ハブとクライアント] を選択します。
4. [ハブ] タブをクリックします。
5. グループごとに、[ネットワーク・ポート] プロパティを同じ値に設定します。この値はクライアント・ファイアウォールの構成にも使用されます。
 - a. グループを選択します。
 - b. [アクションの選択] ドロップダウン・メニューから、[グループの詳細] を選択します。
 - c. [プロパティの編集] ボタンをクリックします。
 - d. [ネットワーク・ポート] プロパティに番号を入力し、[変更の保存] ボタンをクリックします。
6. すべてのグループが同じネットワーク・ポートを使用するように設定されます。

4.12.8.3.2 ネットワーク・ポート値でファイアウォールを構成

管理者ポータルでハブ用にネットワーク・ポートを設定されると、そのポートを通過するネットワーク・トラフィックを許可するようにクライアント・ファイアウォールを構成できます。

1. Linux* クライアント・デバイスで、コマンド端末を開きます。
2. 次のコマンドを入力して、internal、external、public、trusted、および work ゾーンのポートを通過するネットワーク・トラフィックを許可します (<ネットワーク・ポート> は管理者ポータルで設定された値に置き換えます)。

```
firewall-cmd --permanent --zone=internal --add-port=<ネットワーク・ポート>/tcp
```

```
firewall-cmd --permanent --zone=external --add-port=<ネットワーク・ポート>/tcp
```

```
firewall-cmd --permanent --zone=public --add-port=<ネットワーク・ポート>/tcp
```

```
firewall-cmd --permanent --zone=trusted --add-port=<ネットワーク・ポート>/tcp
```

```
firewall-cmd --permanent --zone=work --add-port=<ネットワーク・ポート>/tcp
```

```
firewall-cmd --permanent --zone=internal --add-port=443/tcp
```

```
firewall-cmd --permanent --zone=external --add-port=443/tcp
```

```
firewall-cmd --permanent --zone=public --add-port=443/tcp
```

```
firewall-cmd --permanent --zone=trusted --add-port=443/tcp
```

```
firewall-cmd --permanent --zone=work --add-port=443/tcp
```



4.12.8.4 代替のファイアウォール構成

IT セキュリティー・ポリシーにより、独自のファイアウォール構成が行われる場合があります。Intel Unite® アプリケーションの内部および外部ネットワーク・トラフィックの許可、またはネットワーク・トラフィック用に Intel Unite® アプリケーションで使用できる特定のポートを設定する方法については、IT 管理者にお問い合わせください。

4.12.9 クライアントの登録

クライアントをハブがホストする会議に接続して使用できるようにするには、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルを使用し、ハブのペアリング先である同じ組織にクライアントを登録する必要があります。クライアント登録プロセスの一部であるクライアントの事前構成で、OrganizationID、OrganizationName、および ServerURL の値を設定します。

注:クライアントは複数の組織に登録できます。

4.12.9.1 クライアントの事前構成

クライアントを組織に登録する前に、クライアントで OrganizationID、OrganizationName、および ServerURL 値を設定する必要があります。これらの値は、DNS TXT レコードと URI という 2 つの方法で取得できます。

DNS TXT レコードとカスタム URI のサポートは、クライアント・プラットフォームで実行されている OS によって異なります。このような違いがあるため、クライアントの構成のすべての方法がすべてのクライアント・プラットフォームで使用できるわけではありません。表 4 は、各クライアント OS でサポートされている構成方法を示しています。

表 4. OS 毎クライアントの事前登録の構成のサポート

登録方法	Windows*	Mac*	Chrome* OS	Linux*	iOS*	Android*
DNS TXT レコード	サポート	サポート	サポートなし	サポート	サポート	サポート
URI	サポート	サポート	サポート*	サポート	サポート	サポート

* Chrome* OS の場合、URI のサポートには、ユーザーが URI をコピーしてクライアント・アプリケーションに貼り付ける必要があります。

4.12.9.1.1 DNS TXT レコード

クライアントが最初に起動したときに、OrganizationID、OrganizationName、および ServerURL が設定されているかどうかをチェックします。値が設定されていない場合、クライアントは、DNS TXT レコードを探して値を取得しようとします。クライアントが DNS TXT レコードを見つけると、文字列を解析して OrganizationID、OrganizationName、および ServerURL を設定します。

4.12.9.1.2 URI (Windows*、Mac*、Linux*、Android*、および iOS*)

クライアントで、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルの [デバイスのプロビジョニング] ページに移動し、リンクをクリックします。URI を使用して、OrganizationID、OrganizationName、および ServerURL の値を設定するには、次の手順で行ってください。

1. クライアントで、Intel Unite® クラウド・サービスにサインインします (詳細については、[セクション 4.5](#) を参照してください)。サインインページにアクセスするには、<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html> リンクを使用します。
2. クライアント・デバイスが属する組織を選択します。
3. [デバイス管理] をクリックし、[デバイスのプロビジョニング] を選択して、[デバイスのプロビジョニング] ページを開きます。
4. [デバイスのプロビジョニング] ページに表示されているリンク (リンクは **intelunite4://** で始まります) をクリックするか、ハブの実行コマンドラインにこのリンクをコピーして貼り付けます。リンクをクリックすると、Intel Unite® ソリューション用のハブ・アプリケーションを開くように要求するプロンプトが表示される場合があります。プロンプトが表示されたら、**[Intel Unite® Hub Launcher を開く]** をクリックしてクライアント・アプリケーションを開きます。
5. Intel Unite® ソリューションのクライアント・アプリケーションが開き、OrganizationID、OrganizationName、



および `ServerURL` の値が設定されます。自動ペアリングを続行するには、クライアント・アプリケーションを閉じ、[セクション 4.12.9.2.1](#) に移動します。拡張ペアリングを続行するには、[セクション 4.12.9.2.2](#) の手順 6 に進みます。

4.12.9.1.3 URI (Chrome* OS)

`OrganizationID`、`OrganizationName`、および `ServerURL` の値は、クライアント設定で手動で設定することができます。これらを手動で設定するには、次の手順で行ってください。

1. クライアントで、Intel Unite® クラウド・サービスにサインインします (詳細については、[セクション 4.5](#) を参照してください)。サインインページにアクセスするには、<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html> リンクを使用します。
2. クライアント・デバイスが属する組織を選択します。
3. [デバイス管理] をクリックし、[デバイスのプロビジョニング] を選択して、[デバイスのプロビジョニング] ページを開きます。
4. URL をコピーします。
5. Intel Unite® クライアントを起動します。
6. 右上隅にある歯車のアイコンをクリックして、クライアントの設定を入力します。
7. [サーバー情報の更新] をクリックし、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルのプロビジョニング・ページから URL をテキストボックスに貼り付けて、[設定の保存] をクリックします。

4.12.9.1.4 Google* 管理コンソール (Chrome* OS)

Google* 管理者コンソールを使用して Chrome* OS プラットフォームの `ServerURL` の値を設定することができます。Google* 管理者コンソールの使用の詳細については、[付録 A. Google* Admin 用プロビジョニング・ガイド](#) を参照してください。

4.12.9.1.5 OrganizationID、OrganizationName、および ServerURL の確認

`OrganizationID`、`OrganizationName`、および `ServerURL` に設定されている値を確認するプロセスは、クライアント・プラットフォーム上で実行されている OS によって異なります。

4.12.9.1.5.1 Windows* プラットフォーム

Windows* プラットフォームでは、`OrganizationID`、`OrganizationName`、および `ServerURL` の値は、次のレジストリー・キーに格納されます。

- `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Intel\Intel Unite\Hub\OrganizationID`
- `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Intel\Intel Unite\Hub\OrganizationName`
- `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Intel\Intel Unite\Hub\ServerURL`

`OrganizationID` は、XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX という形式の `REG_SZ` の値です。X は 16 進数の値です。この値は、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルのプロビジョニング・ページに記されています。

`OrganizationName` は、サーバーのインストール時に決定される文字列値を持つ `REG_SZ` です。

`ServerURL` は、`https://<Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルの FQDN>/intelunite/api` の値を持つ `REG_SZ` です。<Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルの FQDN> は Intel Unite® クラウド・サービスのサーバーの完全修飾ドメイン名です。

これらの 3 つの値が、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルのプロビジョニング・ページの URI の値 (Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルの [デバイス管理] メニューで [デバイスのプロビジョニング] を選択します) と一致していることを確認します。

4.12.9.1.5.2 Windows* 以外のプラットフォーム

`OrganizationID`、`OrganizationName`、および `ServerURL` はクライアントの設定に表示されます。

クライアント・アプリケーションを開き、右上隅にある歯車のアイコンをクリックします。



[構成] をクリックして [構成] ページを表示します。

[自動] が選択されている場合は、`OrganizationID`、`OrganizationName`、および `ServerURL` に、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルでのプロビジョニング・ページ (Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルでの [デバイス管理] メニューで [デバイスのプロビジョニング] を選択します) の値が反映されていることを確認します。

[手動] が選択されている場合は、`OrganizationID`、`OrganizationName`、および `ServerURL` に、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルでのプロビジョニング・ページ (Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルでの [デバイス管理] メニューで [デバイスのプロビジョニング] を選択します) の値が入力されていることを確認します。

4.12.9.2 クライアントの登録方法

クライアントを登録するには、次の 2 つの方法があります。

- 方法 1 - 自動ペアリングモード
- 方法 2 - 拡張ペアリングモード (電子メールの確認)

注: Windows* プラットフォームでクライアント・アプリケーションを初めて起動すると、Intel Unite® アプリケーションについてネットワーク・アクセスの許可を求める Windows* Defender ポップアップが表示される場合があります。Intel Unite® アプリケーションについて許可が付与されるまで、ハブは Intel Unite® クラウド・サービスに接続できません。場合によっては、ハブ・アプリケーションがポップアップを表示しないことがあります。この問題を解決するには、タスク マネージャーを使用して Intel Unite® アプリケーションを閉じ、Windows* Defender ポップアップで [アクセスを許可する] をクリックします。

4.12.9.2.1 方法 1 - 自動ペアリングモード

自動ペアリングモードの手順は、カスタム URL ハンドラーのサポートレベルが異なるため、サポートされているオペレーティング・システムによって異なります。Windows*、Mac* OS、および Chrome* OS プラットフォームでのみサポートされています。

4.12.9.2.1.1 Windows* と Mac* OS

これらの手順は `OrganizationID`、`OrganizationName`、および `ServerURL` がすでに設定されているクライアントに適用されます。次の手順を実行する前に、プラットフォームで 3 つの値が設定されていることを確認してください。

1. クライアントで、Intel Unite® クラウド・サービスにサインインします (詳細については、[セクション 4.5](#) を参照してください)。サインインページにアクセスするには、<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html> リンクを使用します。
2. クライアント・デバイスが属する組織を選択します。
3. [デバイス管理] をクリックして、[デバイス管理] メニューを開きます。
4. [自動ペアリング] セクションで、[期間 (時間)] テキストボックスをクリックし、トークンが有効になる時間数を入力します。
5. [トークンの生成] ボタンをクリックして、[トークンの生成] ダイアログボックスを表示します。
6. クライアント・デバイスで、ウェブブラウザを開き、URI `intelunite4://localhost/pair?otp=<トークン>&email=<メールアドレス>&machineName=<マシン名>` へアクセスしてください。ここでは `<トークン>` は手順 4 で取得した値であり、`<メールアドレス>` は登録電子メールを受け取るメールアドレス、`<マシン名>` はシステムの名前です。

4.12.9.2.1.2 Chrome* OS

これらの手順は `OrganizationID`、`OrganizationName`、および `ServerURL` がすでに設定されているクライアントに適用されます。次の手順を実行する前に、プラットフォームで 3 つの値が設定されていることを確認してください。

1. クライアントで、Intel Unite® クラウド・サービスにサインインします (詳細については、[セクション 4.5](#) を参照してください)。サインインページにアクセスするには、<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html> リンクを使用します。
2. クライアント・デバイスが属する組織を選択します。
3. [デバイス管理] をクリックして、[デバイス管理] メニューを開きます。
4. [自動ペアリング] セクションで、[期間 (時間)] テキストボックスをクリックし、トークンが有効になる時間数を入力します。



5. [トークンの生成] ボタンをクリックして、[トークンの生成] ダイアログボックスを表示します。
6. クライアント・デバイスで、Intel Unite® クライアント・アプリケーションを起動します。
7. 下部の [自動ペアリング URL を使用する] をクリックして、テキストボックスを表示します。
8. [トークンの生成] ダイアログボックスの URI をコピーしてテキストボックスに貼り付け、マシン名とメールアドレスを適切な値に置き換えます。[トークンの生成] ダイアログボックスの URI の形式は、`intelunite4://localhost/pair?otp=<トークン>&email=<メールアドレス>&machineName=<マシン名>` です。ここでは <トークン> は手順 4 で取得した値であり、<メールアドレス> は登録電子メールを受け取るメールアドレス、<マシン名> はシステムの名前です。

4.12.9.2.2 方法 2 - 拡張ペアリングモード (電子メールの確認)

これらの手順は OrganizationID、OrganizationName、および ServerURL がすでに設定されているクライアントに適用されます。次の手順を実行する前に、プラットフォームで 3 つの値が設定されていることを確認してください。

1. クライアントで、Intel Unite® クラウド・サービスにサインインします (詳細については、[セクション 4.5](#) を参照してください)。サインインページにアクセスするには、<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html> リンクを使用します。
2. ハブが属する組織を選択します。
3. [デバイス管理] をクリックし、[デバイスのプロビジョニング] を選択して、[デバイスのプロビジョニング] ページを開きます。
4. [デバイスのプロビジョニング] ページに表示されているリンク (リンクは `intelunite4://` で始まります) をクリックするか、クライアントの実行コマンドラインにこのリンクをコピーして貼り付けます。リンクをクリックすると、Intel Unite® ソリューション用のクライアント・アプリケーションを開くように要求するプロンプトが表示される場合があります。プロンプトが表示されたら、[Intel Unite® Hub Launcher を開く] をクリックしてクライアント・アプリケーションを開きます。
5. Intel Unite® ソリューションのクライアント・アプリケーションが開き、メールアドレスが要求されます。
6. 有効なメールアドレスを入力し、[送信] をクリックすると、Intel Unite® クラウド・サービスは有効化メールをデバイスのユーザーに送信します。
7. `noreply-unitecloud@intel.com` からの有効化メールを電子メールアカウントで確認してください。
注: 電子メールが受信トレイにない場合は、「迷惑メール」フォルダーを確認してください。
8. 電子メールを開き、リンクをクリックします。正常に有効化された場合は、ウェブページが開き、成功メッセージが表示されます。
9. クライアントが有効化されると、クライアントは Intel Unite® クラウド・サービスから構成設定とアプリをダウンロードします。
10. ダウンロードが完了すると、クライアント・アプリケーションに設定が表示され、ユーザーはユーザー名やイニシャルをカスタマイズしたり、ユーザーのアバター画像を設定することができます。
11. [設定の保存] をクリックするとカスタマイズしたものが保存されます。
12. 右上隅の X をクリックして設定を終了します。

これで、クライアント・デバイスの準備が完了し、PIN 入力画面が表示されます。

4.12.10 Windows* および Linux* クライアント・ソフトウェアのアンインストール

このセクションでは、Windows* および Linux* でのクライアント・ソフトウェアのアンインストールについて説明します。

4.12.10.1 Windows*

Windows* コンピューターからクライアント・アプリケーションをアンインストールするには、次の手順で行ってください。

1. `Intel_Unite_Client_vx.x.x.x_x86.mui.msi` ファイルを見つけて、起動します (ローカルストレージかネットワーク・ストレージのいずれかにあります)。
2. [削除] をクリックしてから、[次へ] をクリックします。

注: クライアント・アプリケーションを削除しても、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルからデバイスは削除されません。管理者は、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルからデバイスを手動で削除する必要があります。削除されるまで、同一のマシン名を持つペアリングされたクライアントは、「重複する」エントリとしてタグ付けされます。



4.12.10.1.1 クライアント・ソフトウェアのコマンドラインからのアンインストール (オプション)

クライアント用の Intel Unite® アプリケーション・インストーラーでは、コマンドラインからのアンインストールをサポートしています。Intel_Unite_Client_vx.x.x.x_x86.mui.msi (X.X.X.X はバージョン) は、ローカルシステムまたはネットワーク共有にある既知の場所に置かれている必要があります。アンインストール用の次のコマンドとパラメーターは、管理者として実行する必要があります。

```
msiexec /x "<.msi インストーラーのパス>" /l*v "<ログのパス>" /q
```

4.12.10.1.2 クライアント・ソフトウェアのコマンドラインからのアンインストール・パラメーター

クライアントのコマンドラインからのアンインストール・パラメーターでは、大文字と小文字が区別されます。アンインストールの結果は、ログファイルを解析して判断できます。二重引用符は、1 つまたは複数のスペースを含む入力値にのみ必要です。疑わしい場合は、二重引用符で入力値を囲んでください。

表 5. クライアント・ソフトウェアのコマンドラインからのアンインストール・パラメーター

パラメーター	定義
/x	アンインストールのためのスイッチ。
"<.msi インストーラーのパス>"	二重引用符が付いた msi ファイルのパスおよびファイル名 (例: "c:\ダウンロード\installer.msi")。
/l*v	ログファイルを生成するためのスイッチ (例: "c:\ログ\hubuninstallog.txt")。
"<ログのパス>"	二重引用符が付いたログファイル名が含まれるパス。
/q	ユーザーとのやり取りを必要としないサイレントのためのスイッチ。

4.12.10.2 Linux*

Red Hat* Enterprise、Fedora*、または Ubuntu* からクライアント・アプリケーションをアンインストールするには、次のコマンドを使用します。

- Red Hat* Enterprise および Fedora* の場合:

```
sudo yum remove intel-unite-client, sudo dnf remove intel-unite-client
```
- Ubuntu* の場合:

```
sudo apt-get remove intel-unite-client
```

4.12.11 クライアントのログファイル

クライアントは次のパスでログファイルを保存します。

```
C:\Users\<ユーザー>\AppData\Local\Temp.<ユーザー> はログインしたユーザーです
```

ログファイルの名前は **Unite.sql** です。

5 Intel Unite® クラウド・サービス・ガイドの 管理者ポータル

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルは、Intel Unite® クラウド・サービスのウェブ・インターフェイスです。組織から任命された管理者はここで、組織内のハブやクライアント・デバイスで実行されている Intel Unite® ソリューションの構成を表示および管理することができます。

5.1 Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルへのアクセス

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにアクセスするには、ブラウザを開き、ブラウザのアドレスバーに <https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html> と入力し、Enter キーを押します。[ようこそ] ページが読み込まれたら、ページの右上隅にある [サインイン] をクリックし、ユーザー名とパスワードを入力して、[サインイン] をクリックします。図 9 に、[ようこそ] ページのスクリーンショットを示します。

図 9. Intel Unite® クラウド・サービスの [ようこそ] ページ

インテル製品 ソリューション サポート

intel

Japan (日本語) サインイン

クラウド・コラボレーション / 会議

Intel Unite® クラウド・サービスの導入

Intelが実現するシンプルで利用しやすいクラウド・コラボレーションソリューション。

Intel Unite® クラウド・サービス・ベータ版¹ を無償で入手

無償トライアルを開始する

インテルが提供するパワフルなコラボレーション・ツールが...

Intel Unite® ソリューションが提供するものは、高品質でコスト効率の優れた、エンタープライズ品質のコラボレーションです。デバイスに依存せず、導入しやすいオープン・プラットフォームである点が、IT 部門から高く評価されています。ユーザーが気に入るのは、このソリューションのシンプルさではないでしょうか。会議がよりセキュアで生産性の高いものとなります。

...クラウドサービスとして利用可能に

Intel Unite® クラウド・サービスにより、クラウドでホストする PIN サービスを提供するという選択肢が手に入ります。PIN サービスのオンプレミス管理に時間やリソースを費やす必要がなくなるということです。会議スペースで Intel® vPro™ プラットフォーム基盤のデバイスを、クライアント・デバイスで Intel Unite® アプリを選択するだけで準備は完了します。

インテルアカウントを持っていないユーザー向けにアカウントを作成する方法については、[セクション 4.2.1](#) を参照してください。

注:ユーザーがサインインした後 30 分間アクティビティーがない場合、ユーザーは自動的にログアウトされます。

5.1.1 カスタマー AD FS を使用したサインイン

お客様の AD FS 認証を使用してサインインするには、管理者ポータル内の [すべての役割] ページから URL に移動します。詳細は、[セクション 5.7.3](#) を参照してください。

5.2 Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル共通のコントロール

ポータル上部のバナーには、常に使用可能なアイコンが表示されます。これらのアイコンは、[構成アシスタント]、ポータルからのログアウト、ヘルプセンター、表示言語の設定、および [情報] ページを表示するためのコントロールを提供します。詳細は、[図 10](#) を参照してください。

図 10. ポータルバナーのアイコン



5.2.1 構成アシスタント

[構成アシスタント] アイコン () をクリックして、セットアップ・ウィザードを開始します。

ハブおよびクライアント・デバイスは、セットアップ・ウィザードを使用してペアリングおよび登録できます。セットアップ・ウィザードの詳細については、[セクション 3.4](#) を参照してください。

5.2.2 ログアウト

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルからログアウトするには、以下の手順に従います。

1. ユーザーアイコン () をクリックします。
2. メニューの [ログアウト] をクリックします。

5.2.3 表示言語を変更する

表示言語を変更するには、次の手順で行ってください。

1. 言語アイコン () をクリックします。
2. 言語を選択して、[適用] をクリックします。

利用可能な言語は次のとおりです。

- 中国語 (簡体字)
- 中国語 (繁体字)
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語

- ポルトガル語
- スペイン語

5.2.4 ヘルプセンター

ヘルプセンターでは、Intel Unite® クラウド・サービスの利用を支援するドキュメントを提供しています。ヘルプセンターにアクセスするには、右上隅にあるヘルプセンターのアイコン  をクリックして、[ヘルプセンター] パネルを開きます。このパネルには、次のコントロールが含まれています。

1. 戻る矢印アイコン - 戻る矢印アイコンをクリックすると、1 ページ上にスクロールします。
2. 進む矢印アイコン - 進む矢印アイコンをクリックすると、1 ページ下にスクロールします。
3. ホームアイコン - ホームアイコンをクリックすると、ヘルプの目次が表示されます。
4. サポートへのリンク - [サポート] リンクをクリックすると、Intel Unite® ソリューションのサポート・ウェブサイトに移動します。
5. 情報へのリンク - [情報] リンクをクリックすると、Intel Unite® クラウド・サービスに関する情報が表示されます。

5.2.5 グローバル通知

グローバル通知は、Intel Unite® クラウド・サービスのウェブサイトの管理者ポータル上部に赤 (エラーメッセージ)、黄色 (警告メッセージ)、または緑 (情報メッセージ) のバナーで表示されます。通知を閉じるには、右端にある円に囲まれた x 印をクリックします。

5.2.6 [情報] リンク

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルの [情報] リンクには、Intel Unite® クラウド・サービスに関するバージョン情報などが表示されます。ログインしているユーザーの場合は、[情報] の詳細には組織 ID も含まれます。ページの右上隅にある [情報] をクリックすると、Intel Unite® クラウド・サービスの詳細が表示されます。

5.3 組織

ログインすると、[組織] ページが表示されます。[組織] ページには、ユーザーが所属する組織のリストが表示されます。編集のサーバー管理のアクセス許可を持つユーザーは、新しい組織の作成、既存の組織の編集、および既存の組織の削除を行うことができます。

5.3.1 新しい組織の作成

新しい組織を作成するには、次の手順で行ってください。

1. [新しい組織の作成] ボタンをクリックします。
2. [組織名] を入力します。名前は 4 文字以上である必要があります。
3. 組織の [説明] を入力します。説明は 4 文字以上である必要があります。
4. [保存] ボタンをクリックします。

5.3.2 組織の選択

組織の構成を管理するには、まず組織を選択する必要があります。

組織を選択するには、組織の名前をクリックします。組織の名前をクリックすると、ポータルにその組織の [ハブとクライアント] ページが表示されます。

注: 組織を選択すると、変更内容は選択した組織にのみ反映されます。

5.3.2.1 プライバシーの選択の設定

セットアップ・ウィザードを使用しないで作成した組織を初めて選択すると、組織のデータ収集ポリシーの設定のために [プライバシーの選択] ダイアログが表示されます。これを変更するには、管理者ポータルの [プライバシー・モード] サーバー・プロパティを編集します。

利用可能なプライバシーポリシーは次のとおりです。

- **匿名データをインテルと共有します** - テレメトリーデータが収集され、インテルに転送されます。
- **匿名データをインテルと共有しません** - テレメトリーデータは収集されません。
- **匿名データをインテルと共有する可能性があることをユーザーに通知します** - テレメトリーデータの収集およびインテルへのテレメトリーデータの転送をオプトインまたはオプトアウトするようにユーザーに要求します。

5.3.3 既存の組織の編集

既存の組織を編集するには、次の手順で行ってください。

1. 更新する必要がある組織を特定し、その組織の **[組織の編集]** ボタンをクリックします。
2. 組織のプロパティを更新します。
3. **[変更の保存]** ボタンをクリックします。

5.3.4 組織の削除

組織を削除するには、次の手順で行ってください。

1. 削除する必要がある組織を特定し、その組織の **[組織の削除]** ボタンをクリックします。
2. **[組織の削除の確認]** ダイアログボックスの **[削除]** ボタンをクリックして、削除を確認します。

5.3.5 組織の検索

多くの組織に属しているユーザーの場合は、検索ボックスを使用して文字列により組織を検索します。

1. ページ上部の検索ボックスに文字列を入力します。
2. **[検索]** ボタンをクリックすると、組織の名前にその文字列が含まれるすべての組織が一覧表示されます。

5.4 Intel Unite® クラウド・サービスの管理

[組織] ページから組織を選択すると、ポータルには 3 つのメインメニューと、デフォルトのページ (**[ハブとクライアント]** ページ) が表示されます。3 つのメニューは次のとおりです。

- デバイス管理
- サーバー管理
- ユーザー管理

5.4.1 **[組織]** ページに戻る

ページの上部にある **[組織]** をクリックすると、**[組織]** ページに戻ります。

5.5 Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル - **[デバイス管理]** メニュー

[デバイス管理] メニューには、このセクションで説明する、デバイス管理ページと**クイックアクション**へのリンクがあります。

[デバイス管理] メニューには、次のページへのリンクがあります。

- **ハブとクライアント** - これはログイン後のデフォルトページです。このページには、以下が表示されます。
 - ハブグループまたはクライアントグループ。
 - この組織にペアリングおよび登録されているデバイス。
- **構成** - このページでは、ハブとクライアントの構成を作成および変更できます。これらの構成は、デバイスグループまたはデバイスに割り当てられます。

- **機能 / アプリ** - このページには機能 / アプリのパッケージを管理する機能があり、パッケージのアップロード、承認、および削除を行うことができます。新しいバージョンの機能 / アプリのパッケージがアップロードされ、承認されると、古いバージョンを削除できます。
- **予約済み PIN** - デフォルトでは、ハブの PIN は一定の時間が経過すると変更されます。このページでは、静的 PIN をハブに割り当てることができます。この場合は、時間が経過しても PIN は変更されません。ハブに静的 PIN が割り当てられている場合は、このページを使用すると、変更される PIN を使用するようにハブをリセットすることができます。
- **カスタムメタデータ** - このページでは、デバイス用の追加フィールドを作成できます。フィールドは自由形式の文字列フィールドです。これは、各デバイスの詳細情報を追加する場合に便利です (例えば「場所」というフィールドを作成すると、ハブの場所を記録して後で参照することができます)。
- **デバイスのプロビジョニング** - このページには、ハブまたはクライアント・デバイスが Intel Unite® クラウド・サービスに接続してペアリングまたは登録を行うために必要なすべての情報を含む URL が表示されます。これは、ログインページの [プロビジョニング URL の表示] リンクをクリックしたときに表示されるものと同じページです。
- **自動ペアリング管理** - このページでは、自動ペアリングトークンを管理できます。これらのトークンは事前に定義された期間だけ有効であり、このページには各トークンの有効期限が表示されます。このページでは、期限切れのトークンを削除することもできます。

[デバイス管理] メニューには、次のクイックアクションがあります。

- **ハブのペアリング** - ハブを手動でペアリングする場合にこのクイックアクションを使用します。
- **自動ペアリング** - このクイックアクションでは、ランダムに生成されるペアリングトークンのダイアログボックスとともに、ペアリングトークンの使用方法に関する情報が表示されます。トークンと有効期限は、[自動ペアリング管理] ページで参照できます。
- **パッケージのアップロード** - このクイックアクションは、機能 / アプリのパッケージのアップロードに使用します。
- **会議の作成** - このクイックアクションは、会議の URL でページを表示する場合に使用します。この URL を他のユーザーに送信すると、そのユーザーは Intel Unite® ソリューションの同じセッションに参加できるようになります。これは、ログインページの [会議の作成] リンクをクリックしたときに表示されるものと同じページです。

5.5.1 デバイス管理 - ページ

次のサブセクションでは、[デバイス管理] メニューで使用できる各ページリンクの詳細について説明します。

5.5.1.1 [ハブとクライアント] ページ

[ハブとクライアント] ページは、ハブとクライアント・デバイスを管理する場所であり、[組織] ページで組織を選択した後に表示されるページです。

ハブとクライアント・デバイスはグループに編成されます。デバイスのグループには同じ構成が割り当てられます。

デフォルトでは、ハブグループとデバイスが表示されます。[クライアント] をクリックして、クライアント・グループとデバイスを表示します。ハブグループとデバイスを表示するには、[ハブ] をクリックします。

Active Directory* グループに関連付けられている「Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル」グループは、[AD の組織単位] 列で () アイコンで示されます。アイコンの上にマウスを移動すると、Active Directory* グループ名が表示されます。

構成が割り当てられている「Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル」グループは、[構成] 列で () アイコンで示されます。アイコンの上にマウスを移動すると、構成名が表示されます。デバイスが機能するためには、構成が含まれるグループにそのデバイスを割り当てる必要があります。構成は、パッケージ (デバイスの機能、アプリ、設定) を保持するコンテナです。

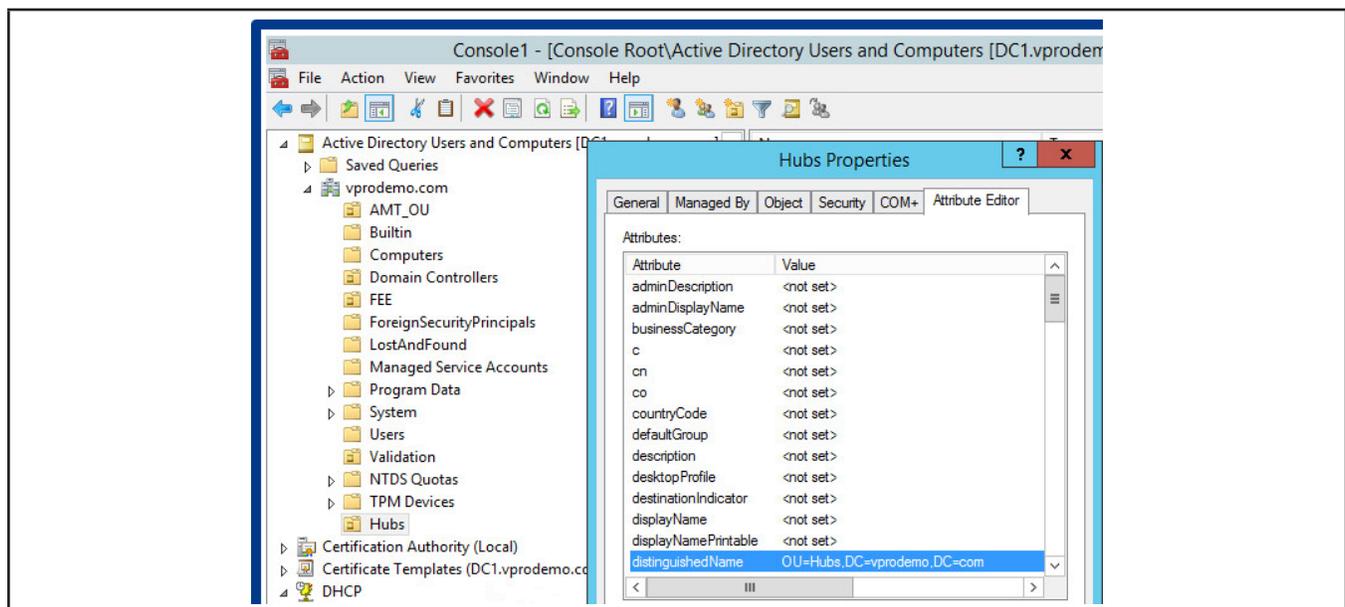
ページの上にある検索ボックスを使用することでデバイスを素早く検索できます。検索ボックスに文字列を入力し、[検索] ボタンをクリックして、名前にその文字列が含まれているデバイスを検索します。検索結果をクリアするには、[クリア] ボタンを使用します。

5.5.1.1.1 [アクションの選択] メニュー

[グループ] ページの [アクションの選択] メニューには、選択したグループに適用できるアクションが表示されます。以下、使用可能なアクションについて説明します。

- **グループの詳細** - グループの詳細を表示および変更します。グループの詳細ページにアクセスするには、グループ名をクリックしてグループを選択し、[アクションの選択] メニューを開き、[グループの詳細] を選択します。グループの詳細ページには、グループ名と、グループに関連付けられた Active Directory* の組織単位が表示されます。次のアクションがあります。
 - **グループ名の変更**: グループの名前を変更するには、グループ名の横にある [グループの編集] をクリックします。ルートグループの名前を変更することはできません。
 - **AD の組織単位の関連付けの追加 / 更新**: AD の組織単位の関連付けを追加または更新するには、[割り当て] ボタンをクリックし、このグループに割り当てられた構成から設定を受信するデバイスを含んでいる組織単位の識別名を入力し、[割り当て] をクリックします。組織単位の識別名は、組織単位のプロパティの [属性エディター] タブで確認できます。
- 例: 図 11 の組織単位の場合は、識別名として OU=Hubs, DC=vprodemo, DC=com と入力します。

図 11. デバイス構成に対する Active Directory* の組織単位の関連付け



- **AD の組織単位の関連付けの削除**: Active Directory* の組織単位との関連付けを削除するには、[割り当て解除] ボタンをクリックします。
 - Active Directory* の組織単位がサブグループを含んでいる場合、サブグループ内のコンピューターは認識されず、グループに割り当てられている構成からの設定を受信しません。
 - デバイスによっては、2 つの「Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル」グループ (Active Directory* の組織単位の関連付けがないグループと、Active Directory* グループの関連付けがあるグループ) に属している場合があります。Active Directory* グループの関連付けがある Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルグループに割り当てられている構成が、デバイスに適用されます。
- **デバイスの割り当て** - 選択したグループにデバイスを割り当てます。デバイスをグループに割り当てるには、グループを選択して、[アクションの選択] メニューを開き、[デバイスの割り当て] を選択します。次に、選択したグループに追加する各デバイスの横にあるチェックボックスをオンにすることによってグループに追加するデバイスを選択し、ページの上部にある [デバイスの割り当て] ボタンをクリックしてデバイスを選択したグループに割り当てます。
- **構成の割り当て** - 選択したグループに構成を割り当てます。構成をグループに割り当てるには、グループを選択して、[アクションの選択] メニューを開き、[構成の割り当て] を選択して構成を選択し、[割り当て] ボタンをクリックして、構成を選択したグループに割り当てます。

- **構成の削除** - 選択したグループから構成を削除します。グループから構成を削除するには、グループを選択して、[アクションの選択] メニューを開き、[構成の削除] を選択して、[削除] をクリックし、選択したグループから構成を削除することを確認します。
- **グループの作成** - 選択したグループの下に新しいグループを作成します。新しいグループが子になり、選択したグループが親になります。子グループは、デフォルトで親グループに割り当てられている構成を継承します。子の構成は、親に割り当てられているものとは異なる場合があります。子グループに構成を割り当てるには、[構成の割り当て] アクションを使用します。グループを作成するには、グループを選択して、[アクションの選択] メニューを開き、[グループの作成] を選択し、新しいグループの名前を入力し、[作成] ボタンをクリックしてグループを作成します。
- **グループの削除** - 選択したグループを削除します。このアクションが選択されている場合、[グループの削除を確認] ダイアログボックスが開き、選択したグループおよびすべての子グループの削除を確認します。ルートグループを削除することはできません。
- **グループの移動** - グループを移動します。グループを移動するには、グループを選択して、[アクションの選択] メニューを開き、[グループの移動] を選択して、親グループを選択し、[移動] をクリックして、選択したグループを新しい親グループに移動することを確認します。

5.5.1.1.2 デバイスの移動と削除

デバイスを 1 つのグループから別のグループに移動することができます。デバイスを移動するには、デバイス名の横にあるチェックボックスをオンにすることによってデバイスを選択し、 をクリックして、グループを選択し、[移動を確認] ダイアログボックスで [移動] をクリックします。

デバイスは削除することができます。デバイスを削除するには、デバイス名の横にあるチェックボックスをオンにすることによってデバイスを選択し、 をクリックして、[デバイスの削除を確認] ダイアログボックスで [削除] ボタンをクリックします。

5.5.1.1.3 グループのプロパティを構成する

同じ設定と機能を持つハブとクライアントの構成に役立つように、ハブとクライアントをグループに入れることができます。グループ内の各デバイスは、グループに割り当てられた構成から設定と機能を継承します。

5.5.1.1.3.1 ハブグループのプロパティを編集する

ハブグループのプロパティを編集するには、次の手順で行ってください。

1. [グループ] ページで [ハブ] タブをクリックします。
2. グループ名をクリックして、ハブグループを選択します。
3. 上部にあるドロップダウンメニューから [グループの詳細] を選択します。
4. [グループの詳細] ページで [プロパティの編集] ボタンをクリックします。
5. プロパティを変更します。
6. [変更の保存] をクリックして、変更を適用します。

上記の手順を使用して行った変更は、グループ内のすべてのデバイスに適用されます。

5.5.1.1.3.2 ハブグループ構成の上書き

場合によっては、ハブグループのハブデバイスで、グループから継承したものとは異なる構成が必要となってきます。デバイスのグループ構成を上書きするには、次の手順で行ってください。

1. [グループ] ページで [ハブ] タブをクリックします。
2. グループ名をクリックして、ハブデバイスを含むハブグループを選択します。
3. デバイス名をクリックして、詳細ページを表示します。
4. [デバイスの編集] ボタンをクリックします。
5. プロパティを変更します。
6. [変更の保存] をクリックして、変更を適用します。

上記の手順を使用して行った変更は、デバイスにのみ適用されます。

5.5.1.1.3.3 ハブグループのプロパティ

表 6 に、ハブパッケージに含まれるハブ・プロパティを示します。[はい] の値が動的であるプロパティは、デバイスの Intel Unite® アプリケーションを再起動せずにプロパティ値が適用されることを意味します。[いいえ] の値が動的である場合、デバイスの Intel Unite® アプリケーションが次回再起動するときに、プロパティ値が適用されることを意味します。

表 6. Intel Unite® ソリューション・ハブのプロパティ

プロパティ名	説明	動的	値のタイプ	デフォルト値
使用可能なディスプレイ	ハブに接続されているディスプレイを指定するには、このプロパティを設定します。コンマで区切られた 1 ~ x の数字。管理者はこれを使用して、Intel Unite® ソリューションで使用できるディスプレイを指定できます。最初の数字は、Intel Unite® クラウド・サービスのメイン・ディスプレイを表します。Intel Unite® ソリューションが表示される物理的なディスプレイの数を設定します。形式: 1、2、3、または空白 (すべてのディスプレイ)。	いいえ	文字列	
使用可能なタッチ・ディスプレイ	タッチ機能をサポートするハブに接続されているディスプレイを指定するには、このプロパティを設定します。コンマで区切られた 1 ~ x の数字。管理者はこれを使用して、タッチ対応のディスプレイを指定することができます。最初の数字である 1 はメイン・ディスプレイです。値 0 は、タッチ対応のディスプレイがないことを示し、空の値は、すべてのディスプレイがタッチ対応であることを示します。	はい	文字列	
背景色	ハブに表示される背景色を指定するには、このプロパティを設定します。背景色のパレット番号を入力します。ウェブサイト https://www.w3schools.com/colors/colors_converter.asp を使用すると、16 進数のパレット番号を対応する色に変換できます。	はい	16 進数	#0071C5
背景画像の URL	ハブに表示される背景画像を指定するには、このプロパティを設定します。背景画像への URL を入力します。ローカル画像を指定できます。	はい	文字列	
背景の指示	ハブに表示される使用に関する指示を指定するには、このプロパティを設定します。次の予約文字列で、ハブのディスプレイに表示される指示を入力します。 {PIN} - PIN に置き換えられます {n} — 新しい行 {rn} — 新しい行	はい	文字列	表の注釈を参照してください。
背景の指示の色	ハブに表示される指示セクションの背景色を指定するには、このプロパティを設定します。背景色のパレット番号を入力します。ウェブサイト https://www.w3schools.com/colors/colors_converter.asp を使用すると、16 進数のパレット番号を対応する色に変換できます。	はい	16 進数	#FFFFFF
背景の指示のフォント	ハブに表示される指示の表示に使用されるフォントを指定するには、このプロパティを設定します。背景の指示のフォントを入力します。デフォルトのフォントは Intel Clear です。ハブにインストールされているフォントを特定するには、[スタート] メニューの検索ボックスで「フォント」を検索し、(コントロール パネルの) [フォント] リンクをクリックして、ハブにインストールされているフォントを表示するフォント・マネージャーを開きます。	はい	文字列	
背景の指示のタイトル	ハブの指示の上に表示されるタイトルを指定するには、このプロパティを設定します。タイトルを入力します。予約語はありません。	はい	文字列	ようこそ

プロパティ名	説明	動的	値のタイプ	デフォルト値
キーボードコマンドキーを無効にする	<p>ハブのキーボード入力を無効にするには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: キーボードコマンドを無効にします。 偽: キーボードコマンドを有効にします。</p>	はい	ブーリアン	真
ハブによるプレゼンテーションを有効にする	<p>ハブによるプレゼンテーションを有効にして、ハブがリモートユーザーにプレゼンテーションできるようにするには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: ハブによるプレゼンテーションを有効にします。 偽: ハブによるプレゼンテーションを無効にします。</p>	はい	ブーリアン	偽
ハブのチェックイン・レポートを有効にする	<p>ハブがサーバーにチェックインできるようにして、ハブが機能を停止している時点をサーバーで判断できるようにするには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: ハブのチェックイン・レポートを有効にします。 偽: ハブのチェックイン・レポートを無効にします。</p>	はい	ブーリアン	偽
セッション中の PIN の更新を有効にする	<p>会議でハブが利用されている間に PIN を変更できるようにするには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: セッション中の PIN の変更を有効にします。 偽: セッション中の PIN の変更を無効にします。</p>	はい	ブーリアン	真
TLS 1.1 を有効にする	<p>TLS 1.1 を使用する暗号化を有効にするには、このプロパティを設定します。このプロパティを真に設定することをお勧めします。</p> <p>真: TLS 1.1 を有効にします。 偽: TLS 1.1 を無効にします。</p>	はい	ブーリアン	真
TLS 1.2 を有効にする	<p>TLS 1.2 を使用して暗号化を有効にするには、このプロパティを設定します。このプロパティを真に設定することをお勧めします。</p> <p>真: TLS 1.2 を有効にします。 偽: TLS 1.2 を無効にします。</p>	はい	ブーリアン	真
背景に時計を表示する	<p>ハブのディスプレイの右下隅に時計が表示されるようにするには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: 背景に時計を表示します。 偽: 背景の時計を表示しません。</p>	はい	ブーリアン	真
背景を表示する	<p>背景を表示するには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: 背景を表示します。 偽: 背景を表示しません。</p>	はい	ブーリアン	真
コンテンツツールバーを表示する	<p>ハブのディスプレイの右側にコンテンツツールバーを表示するには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: コンテンツツールバーを表示します。 偽: コンテンツツールバーを非表示にします。</p>	はい	ブーリアン	真
PIN を表示する	<p>ハブのディスプレイの右上に PIN を表示するには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: PIN を表示します。 偽: PIN を表示しません。</p>	はい	ブーリアン	真

プロパティ名	説明	動的	値のタイプ	デフォルト値
モデレーター・モード	このハブによってホストされる会議をモデレートできるようにするには、このプロパティを設定します。 0 - モデレーションなし (デフォルト) 1 - 自己昇格モデレーション (モデレーターになるように最初に要求したユーザーが会議のモデレーターになります) 2 - 厳密なモデレーション・モード (モデレーターのホワイトリストのユーザーのみがモデレーターになることができます)	はい	整数	0
ネットワーク・ポート	このプロパティを、ハブで使用するネットワーク・ポートに設定します。特定のポートが必要な場合を除き、0 に設定することを推奨します。ハブがクライアントを待機しているポートを入力します。デフォルトは 0 (ランダム) です。	いいえ	整数	0
PIN の色	ハブに表示される PIN の色を変更するには、このプロパティを設定します。PIN のパレット番号を入力します。ウェブサイト https://www.w3schools.com/colors/colors_converter.asp を使用すると、16 進数のパレット番号を対応する色に変換できます。	はい	16 進数	#FFFFFF
PIN のサイズ	ハブに表示される PIN のフォントサイズを変更するには、このプロパティを設定します。フォントサイズには整数を入力します。	はい	整数	48
PIN の透明度	ハブに表示される PIN の透明度を変更するには、このプロパティを設定します。0 ~ 100 (デフォルト) の範囲で PIN の不透明度を入力します。0 は完全な透明で 100 は完全な不透明です。	はい	整数	100
QoS 最大メッセージサイズ	ハブおよびクライアントとの間で送受信される最大メッセージサイズを変更するには、このプロパティを設定します。メッセージの最大サイズ (バイト) を入力します。このプロパティを増減すると、パフォーマンスに影響する場合があります。	はい	整数	65535
QoS メッセージ / キュー比	さまざまなメッセージ・プロパティのメッセージ / キューサイズ比を変更するには、このプロパティを設定します。メッセージ・キューサイズを入力します。この比を使用して、メッセージの優先度に基づいてメッセージを処理するタイミングを決定します。値を大きくすると、優先度の高いメッセージが、優先度の低いメッセージよりも頻繁に処理されます。値を小さくすると、優先度の低いメッセージがより頻繁に処理されます。	はい	整数	4
アプリを閉じるためのパスワードを設定します。	パスワードを入力したときにハブ・アプリケーションを閉じることができるようにするには、このプロパティを設定します。パスワードを入力します。「キーボード・コマンド・キーを無効にする」が偽である場合にのみ適用されます。	はい	文字列	
デスクトップへの切り替えボタンの表示	ハブ PIN の横に切り替えボタンを表示し、プレゼンテーション中にハブのデスクトップへアクセスできるようにします。 [背景を表示する] ハブ・プロパティは、 [偽] に設定されている必要があります。そうでない場合、ボタンは表示されません。	はい	ブーリアン	偽
背景画像を拡大する	背景画像をハブのディスプレイ全体に拡大できるようにするには、このプロパティを設定します。 真: 背景画像を拡大します。 偽: 背景画像を拡大しません。	はい	ブーリアン	真
通知メッセージの表示時間	通知メッセージがハブに表示される時間を変更するには、このプロパティを設定します。通知メッセージが表示される時間 (秒) を入力します。	はい	整数	3

注: 1. Install Intel Unite® app{n}. 2. Enter PIN {pin}{n}. 3. Click Present.

5.5.1.1.3.4 ハブの機能 / アプリのプロパティ

表 7、表 8、および表 9 では、ハブの機能とハブアプリのプロパティについて説明します。

表 7. ファイル共有モジュールのプロパティ

プロパティ名	説明	動的	値のタイプ	デフォルト値
モデレーターによるファイル受信を許可する	<p>モデレーターがファイル共有アプリを使用してファイルを受信できるようにするには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: モデレーターによるファイル受信を有効にします。 偽: モデレーターによるファイル受信を許可しません。</p>	はい	ブーリアン	真
モデレーターによるファイル共有を許可する	<p>モデレーターがファイル共有アプリを使用してファイルを共有できるようにするには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: モデレーターによるファイル共有を有効にします。 偽: モデレーターによるファイル共有を許可しません。</p>	はい	ブーリアン	真
プレゼンターによるファイル受信を許可する	<p>プレゼンターがファイル共有アプリを使用してファイルを受信できるようにするには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: プレゼンターによるファイル受信を有効にします。 偽: プレゼンターによるファイル受信を許可しません。</p>	はい	ブーリアン	真
プレゼンターによるファイル共有を許可する	<p>プレゼンターがファイル共有アプリを使用してファイルを共有できるようにするには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: プレゼンターによるファイル共有を有効にします。 偽: プレゼンターによるファイル共有を許可しません。</p>	はい	ブーリアン	真
視聴者によるファイル受信を許可する	<p>視聴者がファイル共有アプリを使用してファイルを受信できるようにするには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: 視聴者によるファイル受信を有効にします。 偽: 視聴者によるファイル受信を許可しません。</p>	はい	ブーリアン	真
視聴者によるファイル共有を許可する	<p>視聴者がファイル共有アプリを使用してファイルを共有できるようにするには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: 視聴者によるファイル共有を有効にします。 偽: 視聴者によるファイル共有を許可しません。</p>	はい	ブーリアン	真

表 8. リモート・ビュー・モジュール (ハブ) のプロパティ

プロパティ名	説明	動的	値のタイプ	デフォルト値
会議室内体験のみ	<p>リモートユーザーによるプレゼンテーションの表示を許可または禁止するには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: リモート表示を無効にします。 偽: リモート表示を有効にします。</p>	はい	ブーリアン	偽
JPEG 圧縮	<p>静的コンテンツに使用される圧縮率を変更するには、このプロパティを設定します。AV 以外のコンテンツの共有の圧縮率を入力します。値を大きくすると、プレゼンテーションの品質が低下する恐れがありますが、共有のパフォーマンスが向上する可能性があります。</p>	はい	整数	85
タイルサイズ	<p>静的コンテンツに使用されるタイルサイズを変更するには、このプロパティを設定します。AV 以外のコンテンツのタイルサイズを入力します。値を大きくすると、プレゼンテーションの品質が低下する恐れがありますが、共有のパフォーマンスが向上する場合があります。</p>	はい	整数	128

表 9. 画面共有モジュール (ハブ) のプロパティ

プロパティ名	説明	動的	値のタイプ	デフォルト値
オーディオ/ビデオストリーミングのサポート	<p>ハブで AV ストリーミングを許可または禁止するには、このプロパティを設定します。</p> <p>真:ハブでの AV プレゼンテーションを有効にします。 偽:ハブでの AV プレゼンテーションを無効にします。</p>	はい	ブーリアン	真

5.5.1.1.3.5 クライアント・グループのプロパティを編集する

クライアント・グループのプロパティを編集するには、次の手順で行ってください。

1. [グループ] ページで [クライアント] タブをクリックします。
2. グループ名をクリックして、クライアント・グループを選択します。
3. 上部にあるドロップダウン・メニューから [グループの詳細] を選択します。
4. [グループの詳細] ページで [プロパティの編集] ボタンをクリックします。
5. 必要に応じてプロパティを変更します。
6. [変更の保存] をクリックして、変更を適用します。

上記の手順を使用して行った変更は、グループ内のすべてのデバイスに適用されます。

5.5.1.1.3.6 クライアント・グループ構成の上書き

場合によっては、クライアント・グループのクライアント・デバイスで、グループから継承したものとは異なる構成が必要です。デバイスのグループ構成を上書きするには、次の手順で行ってください。

1. [グループ] ページで [クライアント] タブをクリックします。
2. グループ名をクリックして、クライアント・デバイスを含むクライアント・グループを選択します。
3. デバイス名をクリックして、そのデバイスの詳細ページを表示します。
4. [デバイスの詳細] ページで [デバイスの編集] ボタンをクリックします。
5. プロパティを変更します。
6. [変更の保存] をクリックして、変更を適用します。

上記の手順を使用して行った変更は、デバイスにのみ適用されます。

5.5.1.1.3.7 クライアント・グループのプロパティ

表 10、表 11、および表 12 に、クライアント・パッケージに含まれるクライアント・プロパティを示します。

表 10. Intel Unite® クライアントのバージョンのプロパティ

プロパティ名	説明	値のタイプ	デフォルト値
アプリがダウンロード・フォルダーを開くことを許可する	ダウンロード先フォルダーへのアプリのアクセスを許可または禁止するには、このプロパティを設定します。このプロパティを偽に設定すると、一部のアプリが正常に機能しなくなる可能性があります。 真: アプリがユーザーのダウンロード・フォルダーを開くことができますようにします。 偽: アプリがユーザーのダウンロード・フォルダーを開くことができないようにします。	ブーリアン	真
アプリがファイルを保存することを許可する	アプリによるファイルの保存を許可または禁止するには、このプロパティを設定します。このプロパティを偽に設定すると、一部のアプリが正常に機能しなくなる可能性があります。 真: アプリがファイルを保存できるようにします。 偽: アプリがファイルを保存できないようにします。	ブーリアン	真
使用中のデバイスからのホストを許可する	クライアント・デバイスを Intel Unite® ソリューションの会議のホストにできるようにするには、このプロパティを設定します。インテル® vPro™ ブランドに適合するデバイスにのみ適用されます。 真: Intel Unite® クライアントがピアツーピア・セッションをホストできるようにします。 偽: Intel Unite® クライアントがピアツーピア・セッションをホストできないようにします。	ブーリアン	真
ブロックするファイル拡張子	このプロパティを設定して、クライアントが使用できるファイル拡張子をフィルタリングします。ファイル・マネージャーがフィルターで除外する拡張子を入力します。それぞれカンマで区切って複数の拡張子を定義することができます。値を空白にすると、すべてのファイル拡張子が許可されます。	文字列	
TLS 1.1 を有効にする	TLS 1.1 を使用する暗号化を有効にするには、このプロパティを設定します。このプロパティを真に設定することをお勧めします。 真: TLS 1.1 を有効にします。 偽: TLS 1.1 を無効にします。	ブーリアン	真
TLS 1.2 を有効にする	TLS 1.2 を使用して暗号化を有効にするには、このプロパティを設定します。このプロパティを真に設定することをお勧めします。 真: TLS 1.2 を有効にします。 偽: TLS 1.2 を無効にします。	ブーリアン	真
デバイスのリスンポートからホスト	このプロパティは、クライアントがセッションをホストするときに使用されるネットワークに設定します。ピアツーピア機能に使用されるポート。インテル® vPro™ ブランドに適合するデバイスにのみ適用されます。	整数	0
最大ファイルサイズ	ファイルで許容される最大サイズを制限するには、このプロパティを設定します。転送できる最大ファイルサイズ (バイト) を入力します。	整数	214783648
QoS メッセージ / キュー比	さまざまなメッセージ・プロパティのメッセージ / キューサイズ比を変更するには、このプロパティを設定します。メッセージ・キュー・サイズを入力します。この比を使用して、メッセージの優先度に基づいてメッセージを処理するタイミングを決定します。値を大きくすると、優先度の高いメッセージが、優先度の低いメッセージよりも頻繁に処理されます。値を小さくすると、優先度の低いメッセージがより頻繁に処理されます。	整数	4

表 11. リモート・ビュー・モジュール (クライアント) のプロパティの表

現在、このモジュールで使用できるプロパティはありません。

表 12. 画面共有モジュール (クライアント) のプロパティ

プロパティ名	説明	値のタイプ	デフォルト値
JPEG 圧縮	静的コンテンツに使用される圧縮率を変更するには、このプロパティを設定します。AV 以外のコンテンツの共有の圧縮率を入力します。値を大きくすると、プレゼンテーションの品質が低下する恐れがありますが、共有のパフォーマンスが向上する場合があります。	整数	85
タイルサイズ	静的コンテンツに使用されるタイルサイズを変更するには、このプロパティを設定します。AV 以外のコンテンツのタイルサイズを入力します。値を大きくすると、プレゼンテーションの品質が低下する恐れがありますが、共有のパフォーマンスが向上する場合があります。	整数	128

5.5.1.1.3.8 クライアント・プラグインのモデレーション・モード

一部のプラグイン / アプリを、モデレーター・クライアント上でのみ表示し、モデレート会議の視聴者およびプレゼンターに対して非表示にするように構成できます。**[モデレーター以外のユーザーを対象としてプラグインを無効にする]** モジュール・プロパティを「真」に設定したプラグインのみが非表示になります。モジュールのプロパティは、構成の **[グループの詳細]** で見つかります。

非モデレート会議の場合、すべての参加者は、**[モデレーター以外のユーザーを対象としてプラグインを無効にする]** がそのプラグイン / アプリに対して「真」に設定されている場合でも、プラグイン / アプリにアクセスできます。

古いプラグインはモデレーション・モードをサポートしていないことがあり、その場合は新しいバージョンを使用する必要があります。新しいバージョンをインストールするには、次の手順に従います。**注:** 以下の手順を開始する前に、新しいプラグインバージョンをダウンロードします。

- クライアント構成から古いプラグインバージョンを削除します。
 - [デバイス管理]** メニューで、**[構成]** を選択します。
 - [クライアントの構成]** をクリックすると、すべてのクライアント構成が表示されます。
 - 古いプラグインバージョンを含む構成に関連付けられている **[編集]** をクリックします。
 - 古いプラグインの横にある **−** をクリックして、そのプラグインを削除します。
 - [変更の保存]** をクリックします。
 - 古いプラグインバージョンを含むすべての構成について、1.a. ~ 1.d. を繰り返します。
- 古いプラグインバージョンを削除します。
 - [デバイス管理]** メニューで、**[機能 / アプリ]** を選択します。
 - [クライアントの機能 / アプリ]** をクリックすると、すべてのクライアント・プラグインが表示されます。
 - 古いプラグインバージョンに関連付けられている **[削除]** ボタンをクリックします。
 - [機能 / アプリの削除を確認]** ウィンドウが表示されたら、**[削除]** をクリックして、削除を確認します。
- 新しいプラグインバージョンをアップロードして承認します。
 - [機能 / アプリ]** ページで **[パッケージの承認]** をクリックします。
 - 右上隅にある **[パッケージのアップロード]** をクリックします。
 - 新しいプラグインバージョンの場所を参照し、.cab ファイルを選択します。
 - [開く]** をクリックして、プラグインをアップロードします。
 - [成功]** メッセージが表示され、**[パッケージの承認]** タブにプラグインバージョンが表示されていることを確認します。
 - 新しいプラグインバージョンに関連付けられている **[承認]** をクリックします。
 - [成功]** メッセージが表示され、**[クライアントの機能 / アプリ]** タブに新しいプラグインバージョンが表示されていることを確認します。
- 新しいプラグインバージョンをクライアントの構成に追加します。
 - [デバイス管理]** メニューで、**[構成]** を選択します。
 - [クライアントの構成]** をクリックすると、すべてのクライアント構成が表示されます。
 - 追加した新しいプラグインバージョンを含むことになる構成に関連付けられている **[編集]** をクリックします。
 - 新しいプラグインバージョンの横にある **+** をクリックして、そのプラグインを追加します。

- e. **[変更の保存]** をクリックします。
- f. 新しいプラグインバージョンが必要なすべての構成について、4.a. ~ 4.d. を繰り返します。

5.5.1.2 **[構成] ページ**

構成は、パッケージ (ハブとクライアント・デバイスの機能、アプリ、および設定) を保持するコンテナです。

[デバイス管理] メニューで、**[構成]** をクリックして、[構成] ページに移動します。[構成] ページには、ハブとクライアントの構成のリストが表示されます。構成は、パッケージ (デバイスの機能、アプリ、設定) を保持するコンテナです。各構成は、パッケージで構成されています。ほとんどのパッケージには、デバイスの動作を変更するために変更できるプロパティがあります。

ハブがペアリングされているかクライアントが登録されている場合、割り当てられた構成によって、デバイスがどのように構成され、そのデバイスでどの機能およびアプリがロードされるかが決まります。

[構成] ページには構成のリストが表示されます。デフォルトでは、このリストにハブの構成が表示されます。クライアントの構成のリストを表示するには、**[クライアントの構成]** をクリックします。ハブの構成のリストに切り替えるには、**[ハブの構成]** をクリックします。パッケージの詳細を表示するには、右向きの山形 (▶) アイコンをクリックします。パッケージの詳細を非表示にするには、下向きの山形 (▼) アイコンをクリックします。

[構成] ページの上部にある検索ボックスを使用して、構成を検索できます。文字列を入力し、**[検索]** をクリックすると、名前の中にその文字列を含む構成のリストが表示されます。検索結果をクリアするには、**[クリア]** ボタンを使用します。

5.5.1.2.1 構成の作成

下記する手順、新しい構成を作成する方法についての説明です。

1. [構成] ページで **[構成の作成]** をクリックします。[構成の作成] ビューが表示されます。
2. **[構成名]** を新しい構成の名前に置き換えます。
3. 構成名の横にある**ハブ**または**クライアント**を選択します。
4. **[Intel Unite® ソフトウェア]** ドロップダウン・メニューからバージョンを選択します。
5. 機能やアプリを追加するには、[使用可能な機能 / アプリ] の下の機能またはアプリに関連付けられた青地に白色のプラスアイコン (+) をクリックします。**[フィルター]** フィールドを使用して、機能とアプリケーションを検索します。機能またはアプリが追加されると、[選択された機能 / アプリ] の下に移動します。
6. 機能またはアプリを削除するには、[選択された機能 / アプリ] の下の機能またはアプリに関連付けられた青地に白色のマイナス記号 (-) をクリックします。機能またはアプリを削除した後、その機能またはアプリは、[使用可能な機能 / アプリ] の下に移動します。
7. 目的の機能とアプリをパッケージに追加した後、**[構成の作成]** ボタンをクリックします。

注: **[構成の作成]** をクリックする前に **[キャンセル]** をクリックすると、変更を保存せずに構成の作成プロセスは終了し、[構成] ページに戻ります。

5.5.1.2.2 構成の編集

構成を編集するには、次の手順で行ってください。

1. [構成] ページで、構成に関連付けられている **[編集]** ボタンをクリックして、[構成の編集] ページを表示します。このページでは、機能とアプリを追加または削除することができます。
2. 構成の名前を変更するには、**[構成の編集]** テキストボックスの名前を強調表示して、新しい名前を入力します。
3. 新しいバージョンを選択するには、青地に白色の下向き矢印アイコン (▼) をクリックして **[Intel Unite® ソフトウェア]** メニューを開き、目的のバージョンを選択します。
4. 機能やアプリを追加するには、[使用可能な機能 / アプリ] の下の機能またはアプリに関連付けられた青地に白色のプラスアイコン (+) をクリックします。追加した後、機能またはアプリは、[選択された機能 / アプリ] の下に移動します。**[フィルター]** フィールドを使用して機能またはアプリを検索します。
5. 機能またはアプリを削除するには、[選択された機能 / アプリ] の下の機能またはアプリに関連付けられた青地に白色のマイナス記号 (-) をクリックします。削除した後、機能またはアプリは、[使用可能な機能 / アプリ] の下に移動します。

[フィルター] フィールドを使用して機能またはアプリを検索します。

6. [変更の保存] ボタンをクリックして、変更を保存します。

注:[変更の保存] をクリックする前に [キャンセル] をクリックすると、変更を保存せずにプロセスは終了し、[構成] ページに戻ります。

5.5.1.2.3 構成を削除する

構成を削除するには、次の手順で行ってください。

1. [構成] ページで、削除する構成を指定します。
2. 構成を削除するには、[削除] ボタン () をクリックして [構成の削除の確認] ダイアログボックスを開きます。
3. 確認のダイアログボックスで、[はい] をクリックして構成を削除します。削除をキャンセルする場合は、[いいえ] をクリックします。

注:使用されていない構成のみを削除することができます。構成がどのグループにも割り当てられていない場合、その構成は使用されていません。構成が使用されている場合、[削除] ボタン () は使用できません。

5.5.1.3 [機能 / アプリ] ページ

[機能 / アプリ] ページにアクセスするには、[デバイス管理] メニューの [機能 / アプリ] をクリックします。[パッケージの承認] ページには、承認されていないアップロード済みのパッケージが表示されます。パッケージが承認されるまで、パッケージの内容は構成で使用できません。パッケージが承認された後、その内容は、[ハブの機能 / アプリ] または [クライアントの機能 / アプリ] の下に一覧表示されます。ハブモジュールのリストを表示するには、[ハブの機能 / アプリ] タブをクリックします。クライアント・モジュールのリストを表示するには、[クライアントの機能 / アプリ] タブをクリックします。

機能 / アプリは、ハブおよび / またはクライアントのコア機能または拡張機能を提供するモジュールです。コア機能の一例は、プレゼンテーションをリモートで表示する機能です。拡張機能の一例は、カスタマイズされた背景を設定する機能です。モジュールとパッケージを作成するには、SDK のマニュアルを参照してください。

5.5.1.3.1 パッケージのアップロード

Intel Unite® の機能とアプリは、CAB ファイル形式のパッケージを使用して配布されます。これらのアプリパッケージは、[インテルのショーケース・ウェブサイト](#) からダウンロードできます。機能パッケージは、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルからダウンロードします。

パッケージをアップロードするには、右上隅にある [パッケージのアップロード] ボタンをクリックします。マニフェストまたはアプリのディレクトリーの場所を参照します。CAB ファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックします。正常にアップロードされると、緑色のポップアップ・ボックスに [成功] と表示されます。

5.5.1.3.2 パッケージを承認する

[機能 / アプリ] ページでパッケージを承認するには、パッケージに関連付けられた [承認] ボタンをクリックします。[拒否] ボタンをクリックすると、パッケージが使用できなくなります。

5.5.1.3.3 ハブの機能 / アプリの表示

[機能 / アプリ] ページでハブのアプリおよび機能のリストを表示するには、[ハブの機能 / アプリ] タブをクリックします。[ハブの機能 / アプリ] タブで、モジュールの詳細を表示するには、右向きの山形 () アイコンをクリックします。モジュールの詳細を非表示にするには、下向きの山形 () アイコンをクリックします。

ハブモジュールを削除するには、[削除] () をクリックします。[モジュールの削除の確認] ダイアログボックスが開きます。モジュールを削除するには、[はい] をクリックします。削除をキャンセルする場合は、[いいえ] をクリックします。使用していないモジュールのみを削除することができます。

5.5.1.3.4 クライアントの機能 / アプリの表示

[機能 / アプリ] ページでクライアント・アプリおよび機能を表示するには、[クライアントの機能 / アプリ] タブをクリックします。モジュールの詳細を表示するには、右向きの山形 (▶) をクリックします。モジュールの詳細を非表示にするには、下向きの山形 (▼) をクリックします。

クライアント・モジュールを削除するには、[削除] (🗑️) をクリックします。[モジュールの削除の確認] ダイアログボックスが開きます。モジュールを削除するには、[はい] をクリックします。削除をキャンセルする場合は、[いいえ] をクリックします。使用していないモジュールのみを削除することができます。

5.5.1.4 [予約済み PIN] ページ

[デバイス管理] メニューの [予約済み PIN] メニュー項目を選択すると、[予約済み PIN] ページが開きます。[予約済み PIN] ページでは、ハブのリストが表示され、静的 PIN をハブに割り当てることができます。

[ハブと予約済み PIN] および [ハブ] セクションの上にある検索ボックスを使用して、ハブを検索できます。文字列を入力し、[検索] をクリックすると、デバイス名の中にその文字列を含むハブのリストが表示されます。検索結果をクリアするには、[クリア] ボタンを使用します。

5.5.1.4.1 ハブに静的 PIN を割り当てる

次の 2 つの方法で、静的 PIN をハブに割り当てることができます。

方法 1 - 各ハブの PIN を手動で設定するには、次の手順で行ってください。

1. 静的 PIN を割り当てられるリスト内のハブを検索し、PIN フィールドに 6 桁の数字を入力します。6 桁の数字は、ランダムに生成することも、静的 PIN を入力しているユーザーが具体的に定義することもできます。
2. [保存] をクリックします。

方法 2 - csv ファイルを使用して、1 つまたは複数のハブに PIN を割り当てるには、次の手順で行ってください。

1. ページの右上にある [テンプレートのダウンロード] リンクをクリックして、csv テンプレートをダウンロードします。
2. ハブの FQDN と PIN を csv テンプレートに入力します。
3. csv ファイルを保存します。
4. ページの上部にある [予約済み PIN をインポート] ボタンをクリックします。
5. [開く] ダイアログボックスで、csv ファイルの場所を参照して選択し、[開く] をクリックします。

5.5.1.4.2 ハブの静的 PIN の割り当てを解除する

ハブへの静的 PIN の割り当てを解除するには、次の 2 つの方法があります。

方法 1 - 各ハブの PIN を手動で割り当て解除するには、次の手順で行ってください。

1. [予約済み PIN] ページのハブのリストで、静的 PIN が割り当てられているハブを検索します。
2. [予約解除] をクリックします。

方法 2 - csv ファイルを使用して、1 つまたは複数のハブに対する PIN を割り当て解除するには、次の手順で行ってください。

1. ページの右上にある [テンプレートのダウンロード] リンクをクリックして、csv テンプレートをダウンロードします。
2. ハブの FQDN を csv テンプレートに入力し、PIN の値を * に設定します。
3. csv ファイルを保存します。
4. ページの上部にある [CSV から予約済み PIN をインポート] ボタンをクリックします。
5. [開く] ダイアログボックスで、csv ファイルの場所を参照して csv ファイルを選択し、[開く] をクリックします。

5.5.1.4.3 静的 PIN としてランダムな PIN を使用する

ランダムに生成された PIN をハブの静的 PIN として割り当てるには、次の手順で行ってください。

1. [予約済み PIN] ページで、静的 PIN が割り当てられる、リスト内のハブを検出します。予約されている PIN ページで、静的 PIN に割り当てられているハブを検索し、[自動生成] ボタンをクリックします。
2. [保存] をクリックします。

5.5.1.5 [カスタムメタデータ] ページ

[メタデータ] ページには、ユーザー定義のメタデータのリストが表示されます。このページで定義されたプロパティは、すべてのハブとクライアント・デバイスのプロパティになり、各デバイスの各プロパティに異なる値を割り当てることができます。

[カスタムメタデータ] ページの上部にある検索ボックスを使用して、定義されたメタデータ・プロパティを検索することができます。文字列を入力し、[検索] をクリックすると、名前の中にその文字列を含むメタデータ・プロパティのリストが表示されます。検索結果をクリアするには、[クリア] ボタンを使用します。

5.5.1.5.1 メタデータの作成

メタデータを作成するには、次の手順で行ってください。

1. ページの上部にある [項目の追加] ボタンをクリックします。
2. メタデータの名前を入力します。
3. ページの上部にある [保存] ボタンをクリックします。

5.5.1.5.2 メタデータの削除

メタデータを削除するには、次の手順で行ってください。

1. 削除するメタデータの横にあるチェックボックスをオンにします。
2. ページの上部にある [削除] ボタンをクリックします。
3. [削除] をクリックして削除を確認します。

5.5.1.5.3 メタデータ値の編集

メタデータ・プロパティを編集するには、以下の手順に従います。

1. [デバイス管理] メニューの [ハブとクライアント] を選択し、[ハブとクライアント] ページに移動します。
2. デバイス名をクリックして、デバイスの詳細を開きます。
3. ページの上部にある [デバイスの編集] ボタンをクリックします。
4. メタデータのプロパティのテキストボックスに文字列値を入力します。
5. ページの上部にある [変更の保存] をクリックします。

5.5.1.6 [デバイスのプロビジョニング] ページ

[デバイスのプロビジョニング] ページには URL が表示されます。URL は、ハブのペアリングとクライアントの登録に使用することができます。

URL には、サーバー URL、組織 ID、組織名の 3 つの重要な情報が含まれています。これらの値は、ハブをペアリングしてクライアントを登録するために必要です。組織 ID と組織名は、組織の作成時に設定します。URL 文字列は大文字と小文字を区別しません。

5.5.1.7 [自動ペアリング管理] ページ

[自動ペアリング管理] ページには、自動ペアリングトークンのリストとそれらの有効期限が表示されます。このページで、トークンを生成および削除することができます。

5.5.1.7.1 トークンの生成

トークンを生成するには、次の手順で行ってください。

1. 右上にある [期間 (時間)] テキストボックスにトークンが有効になる時間数を入力します。

2. [トークンの生成] ボタンをクリックします。[自動ペアリングトークンの生成] ウィンドウが開き、トークンの使用方法が表示されます。
3. [閉じる] ボタンをクリックし、ウィンドウを閉じます。新しいトークンがトークンリストに追加されます。

5.5.1.7.2 トークンの削除

トークンを削除するには、次の手順で行ってください。

1. トークンの横にあるチェックボックスをオンにします。複数のトークンを選択できます。
2. 右上にある [トークンを削除] ボタンをクリックします。[トークンの削除を確認] ウィンドウが開きます。
3. [削除] ボタンをクリックしてトークンを削除するか、[キャンセル] ボタンをクリックしてトークンを保持します。

5.5.2 デバイス管理 - クイックアクション

このセクションでは、[デバイス管理] メニューにある「ハブのペアリング」、「自動ペアリング」、「パッケージのアップロード」、および「会議リンクの作成」のクイックアクションに関する情報について説明します。

5.5.2.1 ハブのペアリング

「ハブのペアリング」クイックアクションは、ハブのセットアップ手順中に使用されます。ハブは使用する前に、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルとペアリングする必要があります。ハブのペアリングの詳細は、[セクション 4.11.5](#) を参照してください。

5.5.2.2 自動ペアリング

「自動ペアリング」クイックアクションを使用すると、複数のハブデバイスをペアリングし、複数のクライアント・デバイスを登録するために使用できるトークンを生成できます。[セクション 5.5.2.2.1](#) および [セクション 5.5.2.2.2](#) では、自動ペアリングプロセスについて説明します。

5.5.2.2.1 ハブペアリング

自動ペアリングトークンを使用してデバイスをペアリングするには、次の手順で行ってください。

1. [デバイス管理] メニューで、[期間 (時間)] テキストボックスをクリックし、トークンが有効になる時間数を入力します。
2. [トークンの生成] ボタンをクリックして、[自動ペアリングトークンの生成] ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスには、トークンのペアリング、およびトークンの使用方法が含まれています。
3. ハブデバイスで、ウェブブラウザを開き、URI `intelunite4://localhost/pair?otp=<トークン>` にアクセスします。
`<トークン>` は手順 2 の値です。
4. [閉じる] をクリックして、[自動ペアリングトークンの生成] ダイアログボックスを閉じます。

5.5.2.2.2 クライアントの登録

自動ペアリングトークンを使用してクライアント・デバイスを登録するには、次の手順で行ってください。

1. [デバイス管理] メニューで、[期間 (時間)] テキストボックスをクリックし、トークンが有効になる時間数を入力します。
2. [トークンの生成] ボタンをクリックして、[自動ペアリングトークンの生成] ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスには、トークンのペアリング、およびトークンの使用方法が含まれています。
3. クライアント・デバイスで、ウェブブラウザを開き、URI `intelunite4://localhost/pair?otp=<トークン>&email=<メールアドレス>&machineName=<マシン名>` を参照します。ここでは `<トークン>` は手順 2 の値であり、`<メールアドレス>` は登録電子メールを受け取るメールアドレス、`<マシン名>` はクライアント・システムの名前です。
4. [閉じる] ボタンをクリックして、[自動ペアリングトークンの生成] ダイアログボックスを閉じます。

5.5.2.3 パッケージのアップロード

「パッケージのアップロード」クイックアクションを使用するには、次の手順で行ってください。

1. [デバイス管理] メニューで [パッケージのアップロード] ボタンをクリックします。[開く] ダイアログボックスが表示されます。

2. [開く] ダイアログボックスを使用して、アップロードするファイルを選択し、[開く] をクリックします。パッケージファイルは .cab 形式である必要があります。

パッケージがアップロードされると、パッケージの内容は使用できません。パッケージの内容を構成で使用するには、パッケージを承認する必要があります。

5.5.2.4 会議の作成

[デバイス管理] メニューの「会議の作成」クイック・アクセス・ツールは、[参加] ダイアログボックスを表示します。このツールは、既存の Microsoft* Outlook* 対応 Intel Unite® クラウド・サービス・アドインをインストールまたは使用できない参加者に対して会議の URL を作成します。

会議の URL は、Intel Unite® ソリューションを使用してセッションに参加するユーザーに送信できます。参加者は、コマンドの実行ウィンドウ (Windows*、Mac*、および iOS* クライアント) またはウェブブラウザ (Windows*、Mac*、および iOS* クライアント) を使用して、会議に参加できます。

5.5.2.4.1 コマンドの実行ウィンドウを使用して会議に参加する (Windows*、Mac*、iOS*)

Windows* デバイスでコマンドの実行ウィンドウを使用して会議に参加するには、次の手順で行ってください。

1. 会議の URL をコピーします。
2. [ファイル名を指定して実行] ウィンドウまたはターミナルウィンドウを開きます。
3. [ファイル名を指定して実行] テキストボックスまたはターミナルウィンドウに URL を貼り付け、**Enter** キーを押します。

5.5.2.4.2 ウェブブラウザを使用して会議に参加する (Windows*、Mac*、および iOS*)

Windows* または Mac* デバイスでウェブブラウザを使用して会議に参加するには、次の手順で行ってください。

1. URL をコピーします。
2. ウェブブラウザを開きます。
3. アドレスバーに URL を貼り付けて、**Enter** キーを押します。

5.6 Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル - [サーバー管理] メニュー

[サーバー管理] メニューには、次のメニュー項目が含まれています。

- テレメトリー - このページには、収集されたテレメトリー・データが表示されます。
- ログ - このページには、生成されたログが表示されます。このログは、予期しない動作のデバッグに使用できます。
- サーバーのプロパティ - このページには、サーバーのプロパティが表示され、それらを編集することができます。
- 組織 - このページには、ユーザーが所属する組織のリストが表示されます。編集のサーバー管理のアクセス許可を持つユーザーは、新しい組織を作成したり、既存の組織を編集したりすることができます。

5.6.1 [テレメトリー] ページ

[テレメトリー] ページには、テレメトリー情報を示したグラフが含まれます。次の情報タイプは、テレメトリー・データとして表示されます。

- **1 日当たりの接続数 (すべての会議室)** - 1 日当たりの接続イベント。
- **1 日当たりの使用秒数 (すべての会議室)** - 1 日当たりの使用時間。
- **1 セッション当たりの参加者数** - セッション当たりの参加者数。
- **参加者の接続期間 (秒)** - セッション当たりの参加者の接続時間。
- **CPU 情報 (ハブ)** - サーバーに関連付けられたハブで実行している CPU と各 CPU の数。
- **OS 数 (ハブ)** - サーバーに関連付けられたハブで実行しているオペレーティング・システムと各オペレーティング・システムの数。
- **OS 数 (クライアント)** - サーバーとペアリングされたクライアントで実行しているオペレーティング・システムと各オペレーティング・システムの数。

- **プラグインの使用状況 (ハブ)** - ハブで使用されているアプリの名前、および各アプリの数。

[開始日] および / または [終了日] フィールドを変更することによって、範囲を変更できます。この範囲は、すべてのテレメトリー・データに適用されます。

5.6.1.1 データをリセットする

[テレメトリー] ページの上部にある **[リセット]** ボタンをクリックして、テレメトリー・データをリセットしグラフをクリアします。

5.6.1.2 データを更新する

[テレメトリー] ページの上部にある **[更新]** ボタンをクリックして、最新の情報を取得しグラフを更新します。

5.6.1.3 データのエクスポート

テレメトリー・データは、コンマ区切りの形式のファイル (.csv) にエクスポートできます。テレメトリー・データをエクスポートするには、テレメトリー・ページの上部にある **[エクスポート]** ボタンをクリックします。このファイルは、ユーザーのダウンロード・ディレクトリーに保存されます。

5.6.2 [ログ] ページ

[ログ] ページに、ログのリストが表示されます。各ログエントリーには、次の情報が含まれています。

- **デバイス名** - ログエントリーを生成したデバイスの完全修飾ドメイン名。
- **レベル** - ログエントリーの重要度。次の表に、重要度について説明します。
- **ソース** - ログエントリーの発信元。
- **タイムスタンプ** - ログエントリーが生成された時間。
- **メッセージ** - ログエントリーに固有の情報。

[リセット] ボタンを押すと、ログがクリアされます。

[ログ] ページの上部にある検索ボックスを使用して、ログエントリーを検索できます。文字列を入力し、**[検索]** をクリックすると、デバイス名に関連付けられている文字列を含むログのリストが表示されます。検索結果をクリアするには、**[クリア]** ボタンを使用します。

表 13. ログの重要度レベル

ログの重要度レベル	重要度名	説明
1	クリティカル	回復できない致命的なエラーです。この結果、プログラムのクラッシュ、データの損失などが発生します。
2	エラー	回復可能な重大エラー。
3	警告	処理はされたが、継続的に行われるにはまだ何らかのレビューが必要であるイベント。
4	情報	情報ステータス。
5	デバッグ	問題の診断に役立つ可能性のある低レベルのデバッグメッセージ。
6	トレース	最低レベルのログ記録には、すべての関数の開始 / 終了のほか、さまざまなモジュールの内部状態も含まれることがあります。

[開始日] と [終了日] を変更して、2 つの日付の間に生成されたログのリストを拡大または縮小します。

5.6.3 [サーバーのプロパティ] ページ

[サーバーのプロパティ] ページには、サーバーのプロパティ、組織名、および組織の説明のリストが表示されます。左下にプロパティの合計数が表示されます。ページの中央の下部には、別のページに移動するためのナビゲーション・コントロール、進む矢印、戻る矢印があります。

サーバーのプロパティ、組織名、または組織の説明を編集および変更するには、[プロパティの編集] ボタンをクリックします。変更が行われた後、[変更の保存] をクリックして変更を適用します。表 14 では、サーバーのプロパティについて説明しています。

表 14. サーバーのプロパティ

設定名	説明	値のタイプ	デフォルト値
管理者メールアドレス	組織管理者宛ての電子メールを受信するには、このプロパティを設定します。ハブ障害の通知に関する電子メール、モデレーターホワイトリストに追加するようユーザーが要求した場合の電子メール、およびその他管理者固有の電子メールを受信するように、組織の管理者を設定することができます。組織管理者のメールアドレスを入力します。	文字列	空白
構成キャッシュの更新	構成キャッシュの更新を許可するには、このプロパティを設定します。 真: デバイスおよびグループの構成キャッシュの更新を許可します。 偽: デバイスおよびグループの構成キャッシュの更新を許可しません。	ブーリアン	偽
アクティブでないハブのしきい値	応答しないハブの最大数 (この最大数を超えると電子メール通知が送信される) を変更するには、このプロパティを設定します。管理者メールアドレスのサーバープロパティで指定したメールアドレスに警告電子メールが送信されるまでの、同時非アクティブデバイスの最大数を入力します。	整数	1
非アクティブ期間	ハブがチェックインを停止しているため非アクティブであると見なし、アクティブでないハブのしきい値までカウントするまでの時間を変更するには、このプロパティを設定します。最終チェックイン後、ハブが非アクティブと見なされるまでの時間 (分) を入力します。「ハブのチェックイン・レポートを有効にする」プロパティが真に設定されているハブのみ適用されます。	整数	60
ログの保存ポリシー	ログがサーバーに保持される期間を変更するには、このプロパティを設定します。ログが削除されるまでに Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルでログ収集場所に保管する日数を入力します。	整数	30

設定名	説明	値のタイプ	デフォルト値
メンテナンス・サービスの言語	<p>メンテナンス・サービスの実行により管理者のメールアドレスに送信されるテキストの言語を変更するには、このプロパティを設定します。以下に示すいずれかの言語を選択します。</p> <p>Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルでの電子メール通知に使用される言語のオプションには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ch - 中国語 (簡体字) • ch - 中国語 (繁体字) • de - ドイツ語 • en - 英語 • es - スペイン語 • fr - フランス語 • it - イタリア語 • jp - 日本語 • ko - 韓国語 • pt - ポルトガル語 	文字列	en
会議の有効期限	会議が期限切れと見なされるまでの時間を変更するには、このプロパティを設定します。分数を入力します (この時間が経過すると会議は期限切れと見なされます)。	整数	5
メトリックの保存ポリシー	テレメトリ・データがサーバーに保持される期間を変更するには、このプロパティを設定します。テレメトリ・データがサーバーに保持される日数を入力します。	整数	365
無線通信による更新有効	<p>クライアントとハブの自動更新を許可または禁止するには、このプロパティを設定します。</p> <p>真: クライアントとハブデバイスの自動更新を許可します。</p> <p>偽: クライアントとハブデバイスは手動で更新する必要があり、すべての機能とアプリ (プラグイン) は、各デバイスでインストール msi を使用してインストールする必要があります。</p>	ブーリアン	真
ペアリングモード	<p>これは、ペアリングモードを示す読み取り専用プロパティです。</p> <p>拡張ペアリングモード: ユーザーの電子メールによるクライアント登録の確認が必要です。</p> <p>標準ペアリングモード: ユーザーの電子メールによるクライアント登録の確認は必要ありません。また、ハブをペアリングする必要はありません。ユーザーデバイス上でモデレーター機能を有効にするには、ユーザーの電子メールが必要です。</p>	文字列	この値は読み取り専用です。
PIN の有効期限	PIN が期限切れと見なされ、新しい PIN で更新されるまでの時間を変更するには、このプロパティを設定します。PIN の更新間の分数を入力します。	整数	5
プライバシー・モード	<p>これは、組織のセットアップ時に設定されたプライバシー・モードを示す読み取り専用プロパティです。</p> <p>匿名データをインテルと共有します: テレメトリ・データが収集され、インテルに転送されます。</p> <p>匿名データをインテルと共有しません: テレメトリ・データは収集されません。</p> <p>匿名データをインテルと共有する可能性があることをユーザーに通知します: テレメトリ・データの収集およびインテルへのテレメトリ・データの転送をオプトインまたはオプトアウトするようにユーザーに要求します。</p>	文字列	この値は、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルから組織を初めて選択した後、またはセットアップ・ウィザードを使用して組織を作成しているときに設定されます。
保護された役割リスト	変更されないよう保護する役割を変更するには、このプロパティを設定します。Intel Unite® クラウド・サービスで編集、削除できない管理者ポータルユーザーの役割を入力します。	文字列	管理者、デバイス・ペアリング・マネージャー、モデレーター・マネージャー、アクセス許可なし

設定名	説明	値のタイプ	デフォルト値
サポートリンク	サポートのウェブサイトの URL を設定します。空のままにした場合は、ユーザーがクライアントの [設定] ページ内のサポートリンクをクリックすると、https://www.intel.com/support/uniteappsupport に移動します。	文字列	空白
プラグインの検証	アプリを読み込む前のアプリの検証を許可または禁止するには、このプロパティを設定します。 真:ロードする前に機能とアプリのモジュールを確認します。 偽:ロードする前に機能とアプリのモジュールを確認しません。	ブーリアン	真
ホワイトリスト	ユーザーがデバイスの登録に使用できるメールアドレスのドメインを変更するには、このプロパティを設定します。クライアントをサーバーに登録できるメールアドレスを入力します。ワイルドカード「*」が許可されます (例:*domain.com)。複数の値をコママで区切って入力できます。	文字列の配列	*

サーバーのプロパティの他に、[サーバーのプロパティ] ページの上部には、ボタンが 1 つあります。

- **AD 接続をテスト** - クリックして、AD FS の設定が正しいことを確認します。

5.7 Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル - [ユーザー管理] メニュー

[ユーザー管理] メニューでは、ユーザー管理に関連するすべてのページがグループにまとめられています。

[ユーザー管理] メニューには、次のページが含まれています。

- **ユーザー** - このページでは、Intel Unite® クラウド・サービスを使用する組織内のユーザーを管理し、ユーザーのプロパティの変更やユーザーの削除を行うことができます。
- **モデレーター** - このページではモデレーターを管理します。モデレーターとは、モデレート会議を制御するユーザーです。このページから、ユーザーをモデレーターに割り当てたり、ユーザーのモデレーター・ステータスを取り消したりすることができます。
- **役割** - このページでは役割を管理します。役割とは、特定のアクセス許可の集合です。カスタムの役割を作成または削除できます。

5.7.1 [ユーザー] ページ

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルの [ユーザー] ページには、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルのすべてのユーザーのリストが表示されます。以下のセクションで説明するように、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル [ユーザー] ページでは、管理者は、ユーザーの役割を追加、編集、削除、および再割り当てすることができます。Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル [ユーザー] ページの上部にある検索ボックスを使用して、ユーザーを検索できます。文字列を入力し、[検索] をクリックすると、名前の中にその文字列を含むユーザーのリストが表示されます。検索結果をクリアするには、[クリア] ボタンを使用します。

5.7.1.1 ユーザーの追加

新しいユーザーを追加するには、次の手順で行ってください。

1. Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルの [ユーザー] ページで、[ユーザーの追加] ボタンをクリックします。[ユーザーの追加] ページが開きます。
2. [ユーザーの追加] ページで、次のオプションを完了します。
 - **ユーザー名** - 追加するユーザーのユーザー ID またはメールアドレス。追加するユーザーはインテルのアカウントを持っていて、少なくとも 1 回は管理者ポータルにサインインしている必要があります。
 - **役割の選択** - ユーザーの権限を決定するユーザーの役割。ユーザーには、Active Directory* ユーザーグループにリンクされている役割を割り当てることができます。Active Directory* ユーザーグループを役割にリンクしても、その役割に割り当てることができるユーザーは制限されません。

3. ユーザー情報を入力した後、**[保存]** をクリックしてユーザーを追加します。

注: Active Directory* ユーザーの場合、その AD の組織単位の該当する役割が定義するアクセス許可を持つ、適切な AD の組織単体に AD ユーザーを追加します。AD の組織単位の役割を作成する方法の詳細については、[セクション 5.7.3.1](#) を参照してください。AD ユーザーは、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルに追加されず、Active Directory* を通じて管理されます。

5.7.1.2 ユーザーのアクション

ユーザー管理のアクセス許可を持つユーザーは、[ユーザー] ページを使用してユーザーを削除し、ユーザーを別の役割に割り当てることができます。

- **ユーザーの削除** - ユーザー名の横にあるチェックボックスをオンにします。ページの上部にある [アクションの選択] メニューで **[削除]** をクリックします。確認のダイアログボックスが開きます。**[はい]** をクリックしてユーザーを削除するか、**[いいえ]** をクリックしてユーザーを削除せずに確認ダイアログボックスを閉じます。
- **別の役割の割り当て** - ユーザー名の横にあるチェックボックスをオンにします。ページの上部にある [アクションの選択] メニューで **[別の役割の割り当て]** を選択します。[役割の選択] ダイアログボックスが開きます。新しい役割を選択し、**[割り当て]** をクリックします。

5.7.2 [モデレーター] ページ

[モデレーター] ページには、モデレーターの権限を持つユーザーのリストが表示されます。このページでは、モデレーター管理のアクセス許可を持つユーザーが、モデレーター・リストでユーザーを追加、管理、削除できます。

ページの上部にある検索ボックスを使用して、モデレーター・リスト内のユーザーを検索できます。文字列を入力し、**[検索]** をクリックすると、入力した文字列が名前に含まれるユーザーのリストが表示されます。検索結果をクリアするには、**[クリア]** ボタンを使用します。

5.7.2.1 モデレーターの追加

[モデレーター] ページで、モデレーターは、個別追加またはグループとして追加の 2 つの方法で追加できます。

5.7.2.1.1 モデレーターを個別に追加する

1. **[モデレーターの追加]** をクリックします。
2. モデレーターの名前とメールアドレスを入力します。
3. **[保存]** をクリックします。

5.7.2.1.2 モデレーターをグループとしてインポートする

1. **[CSV からモデレーターをインポート]** をクリックします。
2. モデレーターのリストが含まれる CSV ファイルを選択します。
3. **[開く]** をクリックします。

5.7.2.2 モデレーターを削除する

モデレーターを削除するには、次の手順で行ってください。

1. [モデレーター] ページで、ユーザー名の横にあるチェックボックスをオンにして、**[削除]** を選択します。確認のダイアログボックスが開きます。
2. **[はい]** をクリックしてユーザーを削除するか、**[いいえ]** をクリックしてモデレーターを削除せずに確認ダイアログボックスを閉じます。

5.7.2.3 モデレートセッション

セッションをモデレートするには、ハブデバイス用にモデレーター機能モードを設定する必要があります。モデレーター機能モードを設定するには、ハブの構成プロパティのモデレーター・モードを変更します。ハブのプロパティの詳細は、[セクション 5.5.1.1.3.3](#) を参照してください。使用できるモデレーター・モードは次のとおりです。

- **0 - モデレーションなし** - デフォルトのモードです。会議やセッションにモデレーターはおらず、すべての参加者に同等の閲覧およびプレゼンテーションの権利が与えられます。
- **1 - 自己昇格** - あるユーザーが自分自身をモデレーターに昇格させるまでは、会議やセッションが管理されません。モデレーターは、セッション中にプレゼンテーションを行うユーザーを指定し、ほかの参加者をモデレーターに昇格させることができます。
注:会議中にモデレーターになっても、そのユーザーはモデレーターのホワイトリストに追加されません。
- **2 - 厳密** - モデレーターのホワイトリストに含まれているユーザーのみが会議やセッションを管理します。モデレーターがセッションに参加すると、それらのユーザーが自動的にモデレーターの役割に昇格します。参加者は、モデレーターになることを要求できます。要求すると、管理者に電子メールが送信されます。管理者は、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルからモデレーターのホワイトリストに参加者を追加することができます。

5.7.3 [役割] ページ

[ユーザー管理] メニューの [役割] をクリックすると、[すべての役割] ページが開きます。[すべての役割] ページには、役割のリストと、各役割に割り当てられたユーザーの数が表示されます。デフォルトでは、次の 5 つの役割が一覧表示されます。

- 管理者
- ペアリング
- 役割管理
- ユーザー管理
- デバイス管理

注:AD の組織単位に役割が割り当てられている場合は、ページの上部に URL が表示されます。Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにサインインするために、この URL を使用します。

組み込まれた役割にはそれぞれ、特定のアクセス許可のセットがあります。アクセス許可とは、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルに対して許可されるアクション / アクセスのことです。役割のアクセス許可を表示するには、右向きの山形 (▶) をクリックします。アクセス許可を非表示にするには、下向きの山形 (▼) をクリックします。表 15 は、各役割の組み込みのアクセス許可を示しています。書き込みアクセス許可には、読み取りのすべてのアクセス許可と追加機能が含まれます。下表は、定義されたアクセス許可で許可されているアクションおよびアクセスの一覧です。

表 15. 組み込み役割のアクセス許可

各役割のアクセス許可	管理者	デバイス・ペアリング・マネージャー	モデレーター・マネージャー	アクセス許可なし
デバイス管理のアクセス許可	読み取りおよび書き込み			
デバイスペアリング管理のアクセス許可	読み取りおよび書き込み	読み取りおよび書き込み		
役割管理のアクセス許可	読み取りおよび書き込み			管理者
ユーザー管理のアクセス許可	読み取りおよび書き込み			デバイス・ペアリング・マネージャー
サーバー管理のアクセス許可	読み取りおよび書き込み			モデレーター・マネージャー
モデレーター管理のアクセス許可	読み取りおよび書き込み		読み取りおよび書き込み	アクセス許可なし
組織の管理のアクセス許可	読み取りおよび書き込み			

表 16. デバイス管理のアクセス許可

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル機能	表示 (デバイス、グループ、機能 / アプリ、構成、デバイスのプロパティを表示)	編集 (これらの項目の読み込みおよび編集 / 削除、パッケージのアップロード)
ログイン	x	x
デバイス	<ul style="list-style-type: none"> 組織単位 (AD) を検索する 親組織単位 (AD) からすべての子組織単位を取得する AD 接続をテスト すべての構成とデバイスの詳細を取得する 選択した構成またはデバイスの詳細を取得する 	<ul style="list-style-type: none"> AD キャッシュをフラッシュする AD ドメインを取得する 構成を削除する 構成にモジュールを割り当てる 構成を作成し、モジュールを割り当てる デバイスを有効 / 無効にする デバイスを削除する デバイスのプロパティを取得する 選択したデバイスに割り当てられた構成を取得する
構成、機能 / アプリ、パッケージ	<ul style="list-style-type: none"> 機能 / アプリリストを取得する 機能 / アプリを削除する 	<ul style="list-style-type: none"> パッケージをインストールする 未承認の機能 / アプリを取得する 機能 / アプリを承認する 未承認の機能 / アプリを削除する
予約済み PIN	予約済み PIN を持つデバイスを取得する	<ul style="list-style-type: none"> PIN 予約 一括 PIN 予約 ランダムな無償デバイス PIN を取得する PIN の予約を解除する
ハブのペアリング		
自動ペアリング		
テレメトリー		
ログ		
サーバーのプロパティ		
ユーザー		
モデレーター		

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル機能	表示 (デバイス、グループ、機能 / アプリ、構成、デバイスのプロパティを表示)	編集 (これらの項目の読み込みおよび編集 / 削除、パッケージのアップロード)
役割		
デバイスツリー	<ul style="list-style-type: none"> デバイスツリーを取得する 各ツリーグループのデバイスを取得する 各ツリーグループのプロパティを取得する 	<ul style="list-style-type: none"> ツリーグループを作成する ツリーグループを更新する ツリーグループを移動する ツリーグループの一括削除 ツリーグループにデバイスを割り当てる ツリーグループに構成を割り当てる ツリーグループから構成を削除する 子ツリーグループのプロパティを上書きする
組織の作成		
組織の削除		
組織の編集		
組織のリスト		

表 17. デバイスペアリング管理のアクセス許可

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル機能	表示 (ログイン権限のみ)	編集 (ハブのペアリング、自動ペアリングトークンの作成 / 管理)
ログイン	x	x
デバイス		
構成、機能 / アプリ、パッケージ		
予約済み PIN		
ハブのペアリング		ハブのペアリングを承認する
自動ペアリング		OTP トークンを作成する
テレメトリー		
ログ		
サーバーのプロパティ		
ユーザー		
モデレーター		
役割		
デバイスツリー		
組織の作成		
組織の削除		
組織の編集		
組織のリスト		

表 18. 役割管理のアクセス許可

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル機能	表示 (役割とアクセス許可の表示)	編集 (役割の作成 / 管理)
ログイン	x	x
デバイス		

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル の機能	表示 (役割とアクセス許可の表示)	編集 (役割の作成 / 管理)
構成、機能 / アプリ、パッケージ		
予約済み PIN		
ハブのペアリング		
自動ペアリング		
テレメトリー		
ログ		
サーバーのプロパティ		
ユーザー		
モデレーター		
役割	<ul style="list-style-type: none"> • 役割のリストを取得する • 役割の詳細を取得する • アクセス許可リストを取得する 	<ul style="list-style-type: none"> • 役割を作成する • 役割を更新する • 役割を削除する • 役割の一括削除
デバイスツリー		
組織の作成		
組織の削除		
組織の編集		
組織のリスト		

表 19. ユーザー管理のアクセス許可

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル の機能	表示 (ユーザーの表示)	編集 (ユーザーの作成 / 管理)
ログイン	x	x
デバイス		
構成、機能 / アプリ、パッケージ		
予約済み PIN		
ハブのペアリング		
自動ペアリング		
テレメトリー		
ログ		
サーバーのプロパティ		
ユーザー	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザーのリストを取得する • ユーザーの詳細を取得する 	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザーを登録する • ユーザーを更新する • ユーザーを削除する • ユーザーの一括削除 • ユーザーへの役割の一括割り当て • ユーザーのパスワードを変更する
モデレーター		
役割		
デバイスツリー		

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル機能	表示 (ユーザーの表示)	編集 (ユーザーの作成 / 管理)
組織の作成		
組織の削除		
組織の編集		
組織のリスト		

表 20. サーバー管理のアクセス許可

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル機能	表示 (ログ、テレメトリー、およびサーバーのプロパティを表示)	編集 (サーバーのプロパティを編集)
ログイン	x	x
デバイス		
構成、機能 / アプリ、パッケージ		
予約済み PIN		
ハブのペアリング		
自動ペアリング		
テレメトリー	<ul style="list-style-type: none"> • メトリックレポートを取得する • メトリックをエクスポートする 	
ログ	ログを取得する	
サーバーのプロパティ	サーバーのプロパティ・リストを取得する ユーザーが所属する組織のリストを取得します。	サーバーのプロパティを更新する ユーザーが所属する組織を更新および削除します。
ユーザー		
モデレーター		
役割		
デバイスツリー		
組織の作成		
組織の削除		
組織の編集		
組織のリスト		

表 21. モデレーター管理のアクセス許可

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル機能	表示 (モデレーターの表示)	編集 (モデレーターの作成 / 管理)
ログイン	x	x
デバイス		
構成、機能 / アプリ、パッケージ		
予約済み PIN		
ハブのペアリング		
自動ペアリング		
テレメトリー		
ログ		

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル機能	表示 (モデレーターの表示)	編集 (モデレーターの作成 / 管理)
サーバーのプロパティ		
ユーザー		
モデレーター	モデレーターと詳細のリストを取得する	<ul style="list-style-type: none"> • モデレーターを作成および削除する • CSV からインポートする
役割		
デバイスツリー		
組織の作成		
組織の削除		
組織の編集		
組織のリスト		

表 22. 組織の管理のアクセス許可

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル機能	表示 (モデレーターの表示)	編集 (モデレーターの作成 / 管理)
ログイン	x	x
デバイス		
構成、機能 / アプリ、パッケージ		
予約済み PIN		
ハブのペアリング		
自動ペアリング		
テレメトリー		
ログ		
サーバーのプロパティ		
ユーザー		
モデレーター		
役割		
デバイスツリー		
組織の作成		x
組織の削除		x
組織の編集		x
組織のリスト	x	x

5.7.3.1 新しい役割を作成する

組み込みの役割では実現されないアクセス許可が必要であるユーザーには、カスタムのアクセス許可を持つ新しい役割を作成できます。新しい役割を作成するときは、次のように定義します。

- **役割名** - 新しい役割の名前。
- **Active Directory グループ** - 役割を **Active Directory*** の組織単位にリンクします。つまり、Active Directory* の組織単位に直接割り当てられたすべてのドメインユーザーが、同じアクセス許可を所有することになります。
注: Active Directory* の組織単位にサブグループが含まれている場合、サブグループ内のユーザーは認識されず、アクセス許可を所有しません。
- **アクセス許可** - 新しい役割に適用されるアクセス許可。複数のまたはすべてのアクセス許可を適用できます。

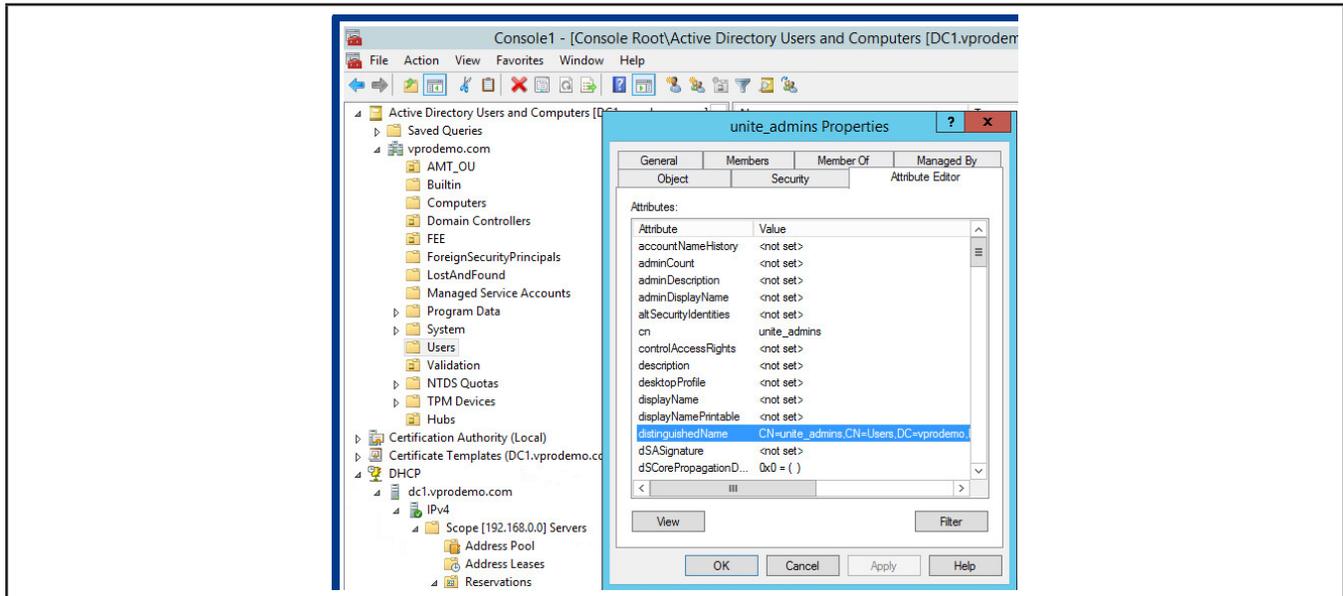
次の手順では、新しい役割を作成する方法について説明します。

1. [役割] ページで、[新しい役割の作成] ボタンをクリックします。

2. [役割名] を新しい役割の名前に置き換えます。
3. AD の組織単位の新しい役割を作成する場合は、[Active Directory グループ] テキストボックスの横にある [割り当て] ボタンをクリックします。ユーザーを含んでいる組織単位の識別名を入力し、[割り当て] をクリックします。組織単位の識別名は、組織単位のプロパティの [属性エディター] タブで確認できます。

例: 図 12 の組織単位の場合、識別名として OU=unite_admin, CN=Users, DC=vprodemo, DC=com と入力します。

図 12. 役割に対する Active Directory* の組織単位の関連付け



重要: AD の組織単元に役割が割り当てられている場合は、[すべての役割] ページの上部に URL が表示されます。AD FS を使用して Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルにサインインするにはこの URL を使用します。

4. 必要に応じてアクセス許可を追加および削除します。
 - **アクセス許可の追加** - [使用可能なアクセス許可] の下のアクセス許可に関連付けられた青地に白色のプラスアイコン (+) をクリックします。追加後、アクセス許可は、[適用済みのアクセス許可] の下に表示されます。使用可能なすべてのアクセス許可を追加するには、[使用可能なアクセス許可] の横にある白地に青色のプラス記号 (+) をクリックします。[フィルター] フィールドを使用して、アクセス許可の検索に役立ちます。
 - **アクセス許可の削除** - [適用済みのアクセス許可] の下にあるアクセス許可に関連付けられた青地に白色のマイナス記号 (-) をクリックします。削除後、アクセス許可は、[使用可能なアクセス許可] の下に表示されます。使用可能なすべてのアクセス許可を削除するには、[適用済みのアクセス許可] の横にある白地に青色のマイナス記号 (-) をクリックします。[フィルター] フィールドを使用して、アクセス許可の検索に役立ちます。
5. 必要なアクセス許可を追加した後、[新しい役割の作成] をクリックします。新しく作成された役割は、[役割] ページの [すべての役割] の下に一覧表示されます。

同じ Active Directory* の組織単元にリンクされ、さまざまなアクセス許可を持つ複数の役割を作成できます。Active Directory* の組織単位のメンバーであるユーザーは、Active Directory* の組織単元にリンクされているすべての役割のすべてのアクセス許可を保有します。

5.8 Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル - [サブスクリプション管理]

[サブスクリプション管理] メニューでは、サブスクリプション管理に関連するすべてのページとアクションがグループにまとめられています。

[サブスクリプション管理] メニューには、次のページが含まれています。

- **サブスクリプション** - このページには、サブスクリプションのリストが表示され、サブスクリプションを管理できます。

[サブスクリプション管理] メニューには、次のクイックアクションがあります。

- ・ **サブスクリプションのアクティブ化** - このクイックアクションは、サブスクリプションをアクティブ化するときを使用します。
- ・ **サブスクリプションを購入** - このページには、入手可能なサブスクリプションが詳細とともに表示されます。

5.8.1 サブスクリプション - ページ

このセクションでは、[サブスクリプションの表示] ページについて説明します。

5.8.1.1 [サブスクリプション] ページ

[サブスクリプション] ページには、ユーザーに関連付けられているすべてのサブスクリプションのリストが表示されます。各サブスクリプションには、許可されているハブの数、自動更新ステータス、および [サブスクリプションの管理] ボタンが表示されます。

サブスクリプションを管理するには、サブスクリプションに関連付けられている [サブスクリプションの管理] ボタンをクリックします。ボタンをクリックすると、Avnet* のランディングページにリダイレクトされ、ユーザーはログインしてサブスクリプションを管理できます。

ページの一番上には、組織に許可されているペアリング済みハブの割合を示す使用メーターが表示されます。

5.8.2 サブスクリプション管理 - クイックアクション

このセクションでは、[サブスクリプション管理] メニューにある [サブスクリプションのアクティブ化] および [サブスクリプションを購入] クイックアクションについて説明します。

5.8.2.1 サブスクリプションのアクティブ化

[サブスクリプションのアクティブ化] クイックアクションは、サブスクリプションをアクティブ化するときを使用します。

サブスクリプションを有効にするには、次の手順で行ってください。

1. [サブスクリプション] メニューで、テキストボックスにアクティブ化コードを入力します。
2. [アクティブ化] ボタンをクリックします。
3. サブスクリプションがアクティブ化されたことを示すメッセージが表示されるので確認します。

5.8.2.2 [サブスクリプションを購入] ページ

[サブスクリプションを購入] クイックアクションは、入手可能なサブスクリプションと各サブスクリプションに関する詳細情報を表示するページにユーザーをリダイレクトします。

6 アラートと監視

Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルは、一定数のハブが応答しなくなったときに、組織の管理者に通知するように構成できます。組織の管理者は、次のサーバーのプロパティを使用して、アラートの動作をカスタマイズできます。

- **管理者メールアドレス** - アラートメッセージが送信されるメールアドレス。
- **メンテナンス・サービスの間隔** - 非アクティブなデバイスの確認を含むメンテナンス・サービス・イベントの間隔 (分数)。
- **アクティブでないハブのしきい値** - これを超えると管理者のメールアドレスに電子メールが送信されるという、同時に非アクティブになっているハブの数。
- **非アクティブ通知の間隔** - 繰り返しの非アクティブハブ通知メールを送信するための時間間隔。
- **非アクティブ期間** - ハブからの最終チェックイン後、非アクティブと見なされるまでの時間 (分数)。

7 セキュリティ制御

7.1 最小セキュリティ標準 (MSS)

Intel Unite® アプリケーションを実行しているすべてのデバイスが、組織のデフォルトの最小セキュリティ標準 (MSS) を満たすようにすることをお勧めします。また、パッチ用にエージェントをインストールし、MSS 仕様に従って、ウイルス対策 / IPS / IDS ソフトウェアおよび他の必要なコントロールをインストールすることをお勧めします。McAfee* スイートのマルウェア対策、IPS、IDS 機能の互換性についてはテスト済みです。

7.2 マシンの強化

Windows* のブートローダーからのみ起動するように、マシンの Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) が構成されている可能性があります。この場合は、USB または DVD から起動しようとしても機能しません。その他の構成では、エグゼキュート・ディスク エープル・ビットの有効化、インテル® トラステッド・エグゼキューション・テクノロジーの有効化、UEFI 構成の変更にパスワードを要求するよう設定できます。

Windows* OS を強化するために、システムは、ベースラインとして、昇格されていないユーザー権限で実行されます。また、プリインストールされた不要なソフトウェアと Windows* コンポーネント (PowerShell*、印刷とドキュメント・サービス、Windows* 位置情報取得機能、XPS サービスなど) を含む、OS から未使用のソフトウェアを削除することをお勧めします。自動券売機のディスプレイやデジタルサイネージを連想させるグループポリシーを適用します。

GUI サブシステムのロックについては、キーボードやマウスのないタッチパネル非対応のスクリーンを使用するシステムの場合、GUI サブシステムからの侵入は困難です。攻撃者が HID デバイス (USB キーボード / マウス) を使用して攻撃できないようにするため、**Alt + Tab**、**Ctrl + Shift + Esc**、および**チャームバー**の使用をプログラムでブロックすることをお勧めします。

7.3 その他のセキュリティ管理

[Active Directory*](#) の特定のマシンアカウントごとにマシンのユーザーアカウントをロックすることをお勧めします。多数のユニットを使用して展開する場合、ユーザーアカウントは、特定の建物のフロアごとにロックすることができます。

各マシンには所有者を指定することをお勧めします。マシンが長時間オフラインになった場合、指定された所有者に通知されます。

インテル® vPro™ プラットフォームと Intel Unite® ソフトウェアが提供するセキュリティ・メカニズム以外に、Microsoft* のマシンのセキュリティ強化に関するガイドラインに従って Microsoft* Windows* OS を強化することをお勧めします。詳細は、[Microsoft* Security Compliance Manager \(SCM\)](#) (英語) を参照してください (最もよく知られている方法 (BKM) の強化と関連ドキュメントを含むウィザードベースの強化ツールが含まれています)。

8 メンテナンス

各組織と組織の管理者は、定期的なメンテナンス・プログラムを決定します。さらに、次のメンテナンス・タスクを実行することをお勧めします。

- **夜間再起動** - ハブは毎日再起動してください (夜間を推奨)。再起動する前に、キャッシュされた一時ファイルの消去や標準パッチ適用手順の開始といったメンテナンス・タスクを実行します。
- **パッチ適用方針** - 可能な場合は、できればマシンを夜間に再起動する前に、標準のパッチメカニズムを無人モード (GUI プロンプト表示なし) で実行します。
- **レポート** - ログはキャプチャーされ、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータル [サーバー管理] タブからアクセスできます。
- **バックエンドの監視** - 標準の仮想サーバー監視ツールを使用して警告を生成し、2 次レベルサポートに送信します。

付録 A. Google* Admin 用プロビジョニング・ガイド

A.1 Intel Unite® アプリケーションの自動インストールを適用する

Intel Unite® アプリケーションの自動インストールの強制を設定するには、次の手順で行ってください。

1. ブラウザーを開き、<https://admin.google.com> に移動して、Google* 管理コンソールにログインします。
2. 管理者ダッシュボードの左上隅にあるスライドアウト・メニューから、**[デバイス]** > **[Chrome 管理]** を選択します。
3. 下にスクロールして、**[アプリ管理]** をクリックします。
4. 右上隅のヘッダーバーのすぐ下にある 3 つの点の **[設定]** メニューをクリックします。
5. **[カスタムアプリの追加]** を選択します。
6. Chrome* OS 用 Intel Unite® アプリの ID と URL を入力します。現在、これらの値は次のとおりです。
 - `cphbmlgdgllfddfdnjgfcclcpckpbcliai`
 - <https://chrome.google.com/webstore/detail/intel-unite%C2%AE/cphbmlgdgllfddfdnjgfcclcpckpbcliai>

注: Intel Unite® アプリケーションは、Chrome* ブラウザーが Chrome* アプリケーションをサポートしないという Google* の新しいポリシーのため、デスクトップ・ブラウザでは非表示になっています。上記のリンクを使用して、ストアページにアクセスすることはできません。

7. アプリの管理設定に移動します。**[ユーザー設定]** をクリックし、オプションのリストから組織を選択します。
8. **[インストールの強制]** を **[有効]** に切り替えます。
9. 完了したら、**[保存]** をクリックします。

これらの設定を Chromebook* で使用するには、Powerwash が必要となる場合があります。会社がエンタープライズ・アカウントに参加していない場合は、Powerwash が必要となる場合があります (新品で初期設定状態のシステムを除く)。会社がすでに参加している場合は、Powerwash する必要はありません。デバイスで最初に使用されるユーザーアカウントは、組織のユーザー・ディレクトリーに属するユーザーである必要があります。これらのユーザーは、**[メニュー]** ボタン » **[ディレクトリー]** » **[ユーザー]** をクリックして見つけることができます。

A.2 クライアントの構成用の Google* Admin のセットアップ

Intel Unite® クライアントがドメイン管理下にあるときに、Google* Admin を使用して Intel Unite® ソフトウェアを構成するには、次の手順で行ってください。

1. ブラウザーを開き、<https://admin.google.com> に移動して、Google* 管理コンソールにログインします。
2. **Google* Admin** から **[デバイス管理]** をクリックします。
3. **[Chrome 管理]** をクリックします。
4. **[アプリ管理]** をクリックします。
5. **Intel Unite®** ソフトウェアのアイコンを選択します。
6. **[ユーザー設定]** を選択します。
7. 組織リストから組織を選択します。
8. 必要な構成に変更を加えるか、構成ファイルをアップロードするために、**[構成ファイルのアップロード]** をクリックします。構成ファイルは JSON* 形式です。以下は構成ファイルの内容の一例です。

```
{
  "managedEnterpriseServer": {"Value" : "unite.parthenonsoftware.com"},
  "managedEnableWebrtc": {"Value" : true},
  "managedLandingUrl": {"Value": "intelunite4://localhost/register?serverUrl=https://unite4.parthenonsoftware.com/intelunite/api&orgId=7A810B3F-0608-4A1C-BF42-C06A338EF877" },
  "managedPairingUrl": {"Value": "intelunite4://localhost/pair?otp=<トークン>&email=<メールアドレス>&machineName=<マシン名>" },
  "managedOrganizationSecret": {"Value": "<ユーザーのパスワード>"}
}
```



9. 以下に構成ファイルを使用して設定できる設定を示します。
 - **managedEnterpriseServer** - *Enterprise Server*というラベルの付いたテキストフィールド。空白以外のものに設定した場合、アプリ用の Intel Unite® クラウド・サービスとして使用され、設定内の Intel Unite® クラウド・サービスのフィールドを上書きし無効にします。
 - **managedEnableWebrtc** - *Enable WebRTC*というラベルの付いたブーリアントグル。true に設定されている場合、アプリは RFT ではなく WebRTC (ハブで利用可能な場合) を使用します。
 - **managedLandingUrl** - 設定されている場合、関連付けられている Chromebook* の Intel Unite® クラウド・サービスおよび組織 ID として使用され、ローカルの設定を上書きします。URL の形式は次のとおりです。localhost/register?serverUrl=<url>&orgId=<guid>
 - **managedPairingUrl** - 設定されている場合、関連付けられている Chromebook* のメールアドレス、マシン名、およびペアリングトークンを設定し、ローカルの設定を上書きします。URL の形式は次のとおりです。localhost/pair?otp=<OTP_GUID>&email=<電子メール>&machineName=<名前>
<電子メール> と <名前> は自動的に入力されます。<OTP_GUID> は Intel Unite® クラウド・サービス用に管理者ポータルで作成されたトークンです。<OTP_GUID> を取得するには、次の手順で行ってください。
 - i. Google* Chrome* または Microsoft* Internet Explorer* のいずれかのブラウザを開き、Intel Unite® クラウド・サービスの [ようこそ] ページ (<https://www.intel.com/content/www/jp/ja/architecture-and-technology/unite/cloud-collaboration.html>) に移動します。
 - ii. 右上隅にある [サインイン] をクリックして、[サインイン] ページを開きます。
 - iii. ユーザー名とパスワードを入力します。
 - iv. [サインイン] ボタンをクリックして、サインインします。
 - v. 構成する組織を選択します。
 - vi. [デバイス管理] メニューから [自動ペアリング管理] を選択して、トークン GUID のリストを表示します。
 - **managedOrganizationSecret** — Google* の同期ストレージ内に保存されている各クライアント・アプリ・データを暗号化する固有のパスワードとして機能する文字列値。任意の文字列値を使用でき、長さや複雑さの要件はありません。
10. [保存] をクリックします。

A.3 Intel Unite® アプリケーションの信頼されたユーザー情報アクセスの許可

Intel Unite® アプリケーションは、ユーザーの Google+ *アカウントに電子メール、名前、アバターをクエリーします。アプリが組織の Google* 管理者アカウントのホワイトリストに登録されている場合、ユーザー入力はありません。Intel Unite® アプリケーションの信頼されたユーザー情報アクセスの許可には、次の手順で行ってください。

1. ブラウザーを開き、<https://admin.google.com> に移動して、Google* 管理コンソールにログインします。
2. 管理者ダッシュボードの左上隅にあるメニューから、[セキュリティ] > [設定] を選択します。
3. [セキュリティ] ページ下端までスクロールダウンして、[API 権限] をクリックします。
4. [API アクセス] サブセクションの下に、アプリのリストが表示されます。このリストを下までスクロールすると、[インストール済みアプリ] と [信頼できるアプリ] の 2 つのリンクが表示されます。[信頼できるアプリ] をクリックします。
5. このページの右下隅にある黄色の「+」ボタンをクリックすると、[信頼できるリストへのアプリの追加] ダイアログが開きます。
6. ドロップダウンから、[ウェブ・アプリケーション] を選択します。Chrome* アプリは Google* API キーを使用するため、他のウェブサイトとして扱われます。
7. OAuth2 の「client_id」を [OAuth2 クライアント ID] 入力に貼り付けます。この値は次のとおりです。
`401030424932-jvgh0open7vdjd96vr5g2g2dnknf6.apps.googleusercontent.com`
8. ブラウザーの左上隅にある [セキュリティ] をクリックして、セキュリティ設定ページに戻り、[詳細設定] をクリックします。
9. [API クライアント アクセスを管理する] をクリックします。
10. 上記の OAuth2 ID を [クライアント名] フィールドに貼り付けます。
11. 次の文字列を [1 つ以上の API スコープ] に貼り付けます。
`https://www.googleapis.com/auth/userinfo.email,https://www.googleapis.com/auth/userinfo.profile`
12. [承認] ボタンをクリックします。



Intel Unite® アプリは、Google* API をクエリーし、各ユーザーの Google+* プロファイルを取得し、一意のメールアドレス、名前、プロフィール画像を受信します。これらは、ペアリング URL の生成値を置き換え、ユーザーの電子メール、名前、イニシャル、およびアバター画像をユーザー入力なしで自動的に設定するために使用されます。

付録 B. エラーコード

B.1 クライアントのエラーコード

表 23 には、クライアント・アプリケーションで発生する可能性があるエラーコードに関する情報が示されています。Intel Unite® クラウド・サービスのサポートに問い合わせるには、ウェブブラウザを開き、Intel Unite® クラウド・サービスのサポート・ウェブサイトにアクセスします。

クライアントは次のパスでログファイルを保存します。

`C:\Users\<ユーザー>\AppData\Local\Temp.<ユーザー>` はログインしたユーザーです

ログファイルの名前は **Unite.sql** です。

表 23. クライアントのエラーコード

<p>エラーコード: 0x00000</p> <p>エラーテキスト: Empty server response.</p> <p>エラーの説明: サーバー側からの応答が間違っていると、このエラーが表示されます。</p> <p>エラーの解決策: 内部エラー、サポートに連絡し、Unite.sql ファイルを提供してください。</p>
<p>エラーコード: 0x00001</p> <p>エラーテキスト: Missing parameter server response.</p> <p>エラーの説明: 不正な要求が行われたときに、このエラーが表示されます。</p> <p>エラーの解決策: 内部エラー、サポートに連絡し、Unite.sql ファイルを提供してください。</p>
<p>エラーコード: 0x00002</p> <p>エラーテキスト: Invalid OrganizationId server response.</p> <p>エラーの説明: OrganizationId が API データベースに見つかりません。</p> <p>エラーの解決策: 次のレジストリー・パスで有効なキーを確認します。</p> <p>Computer\HKEY_CURRENT_USER\Software\Intel\Intel Unite®</p> <p>Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Intel\Intel Unite®</p> <p>Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite</p> <p>不正なキーまたは破損したキーを削除し、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルのプロビジョニング・ページに移動して、新しいキーを作成します。</p>
<p>エラーコード: 0x00535</p> <p>エラーテキスト: Error while attempting to get request.</p> <p>エラーの説明: サーバー・インスタンスが間違っています。</p> <p>エラーの解決策: 内部エラー、サポートに連絡し、Unite.sql ファイルを提供してください。</p>



<p>エラーコード:0x00536</p> <p>エラーテキスト:Unknown server response.</p> <p>エラーの説明:応答がサポートされていません。</p> <p>エラーの解決策:内部エラー、サポートに連絡し、Unite.sql ファイルを提供してください。</p>
<p>エラーコード:0x00537</p> <p>エラーテキスト:Unknown state of GetAuthorizationToken.</p> <p>エラーの説明:サーバーが認証トークンのための不明なコードで応答しました。</p> <p>エラーの解決策:次のレジストリーパスで組織 ID のすべてのキーを削除します。</p> <p>Computer\HKEY_CURRENT_USER\Software\Intel\Intel Unite Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Intel\Intel Unite Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite</p> <p>Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルに移動し、そのホスト名のデバイスが存在するかどうかを確認します。存在する場合は、それを削除してから、プロビジョニング・ページに移動して新しいキーを作成します。問題が解決しない場合は、サポートに連絡し、Unite.sql ファイルを提供してください。</p>
<p>エラーコード:0x00538</p> <p>エラーテキスト>Error while attempting to set version.</p> <p>エラーの説明:バージョンを設定しようとしたときにエラーが発生したか、構成が空です。</p> <p>エラーの解決策:Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルでルートノードに構成が割り当てられていることを確認します。構成が、正しいコアとアプリモジュールを含み、有効であることを確認します。</p>
<p>エラーコード:0x0053A</p> <p>エラーテキスト>Error in PairingManagerOnPairingProcessFinished.</p> <p>エラーの説明:現在のアプリをインストール中にエラーが発生しました。</p> <p>エラーの解決策:Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルでデバイスをアンインストールして削除し、アプリを再インストールして、クライアントを再登録します。問題が解決しない場合は、サポートに連絡し、Unite.sql ファイルを提供してください。</p>
<p>エラーコード:0x0053B</p> <p>エラーテキスト: Pre-requirements OrganizationId and/or ServerUrl and/or OrganizationName are missing.</p> <p>エラーの説明:DNS TXT レコードのキーまたは値が欠落しています。</p> <p>エラーの解決策:DNS TXT レコードの構成が正しいこと (https プロトコルの使用) を確認します。次のレジストリーのキーが正しいことを確認します。</p> <p>Computer\HKEY_CURRENT_USER\Software\Intel\Intel Unite Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Intel\Intel Unite Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite</p> <p>必要なプロパティがあることを確認します。これらのキーが正しくないか破損している場合は、削除して Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルのプロビジョニング・ページに移動して、新しいキーを作成します。</p>

<p>エラーコード: 0x0053D</p> <p>エラーテキスト: Unable to launch client app because the file was not found.</p> <p>エラーの説明: アプリケーション・コア・ファイルが見つかりません。</p> <p>エラーの解決策: プログラムデータにパスが存在しているかどうかを確認します。存在している場合はアクセス許可を確認します。</p>
<p>エラーコード: 0x0053E</p> <p>エラーテキスト: Unable to launch client app.</p> <p>エラーの説明: クライアント・アプリを起動できません。</p> <p>エラーの解決策: Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルでデバイスをアンインストールして削除し、アプリを再インストールして、クライアントを再登録します。問題が解決しない場合は、サポートに連絡し、Unite.sql ファイルを提供してください。</p>
<p>エラーコード: 0x0053F</p> <p>エラーテキスト: Error downloading client core file.</p> <p>エラーの説明: クライアント・コア・ファイルのダウンロード / 解凍中にエラーが発生しました。</p> <p>エラーの解決策: Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルで割り当てられたコアアプリを削除して、もう一度アップロードします。</p>
<p>エラーコード: 0x00540</p> <p>エラーテキスト: Error downloading client module file.</p> <p>エラーの説明: クライアント・モジュール・ファイルのダウンロード / 解凍中にエラーが発生しました。</p> <p>エラーの解決策: Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルで割り当てられたモジュールを削除して、もう一度アップロードします。</p>

B.2 ハブのエラーコード

表 24 には、ハブ・アプリケーションで発生する可能性があるエラーコードに関する情報が示されています。Intel Unite® クラウド・サービスのサポートに問い合わせるには、ウェブブラウザを開き、[Intel Unite® クラウド・サービスのサポート・ウェブサイト](#)にアクセスします。

ハブは次のパスでログファイルを保存します。

C:\Users\<ユーザー>\AppData\Local\Temp。<ユーザー> はログインしたユーザーです

ログファイルの名前は **Unite.sql** です。

表 24. ハブのエラーコード

<p>エラーコード: 0x0053B</p> <p>エラーテキスト: Pre-requirements OrganizationId and/or ServerUrl and/or OrganizationName are missing.</p> <p>エラーの説明: レジストリーにキーが存在しないか、DNS TXT レコードに誤った値が入力されています。</p> <p>エラーの解決策: Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルに移動し、https プロトコルを使用して ServerUrl キーを作成します (DNS TXT レコードと同様)。</p>



<p>エラーコード: 0x00002</p> <p>エラーテキスト: OrganizationId does not exist server response</p> <p>エラーの説明: OrganizationId が API データベースに見つかりません。</p> <p>エラーの解決策: 次のレジストリー・パスに有効なキーがあることを確認します。</p> <pre>Computer\HKEY_CURRENT_USER\Software\Intel\Intel Unite Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Intel\Intel Unite Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite</pre> <p>不正なキーまたは破損したキーを削除し、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルのプロビジョニング・ページに移動して、新しいキーを作成します。</p>
<p>エラーコード: 0x00536</p> <p>エラーテキスト: Unknown server response.</p> <p>エラーの説明: 応答がサポートされていません。</p> <p>エラーの解決策: 内部エラー、サポートに連絡し、Unite.sql ファイルを提供してください。</p>
<p>エラーコード: 0x00541</p> <p>エラーテキスト: UnknownResponse on CheckShortCodeTokenStatus procedure.</p> <p>エラーの説明: 短いコードのステータスを取得中にエラーが発生しました。</p> <p>エラーの解決策: 次のレジストリー・パスで組織 ID のすべてのキーを削除します。</p> <pre>Computer\HKEY_CURRENT_USER\Software\Intel\Intel Unite Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Intel\Intel Unite Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite</pre> <p>Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルに移動し、そのホスト名のデバイスが存在するかどうかを確認します。存在する場合は、それを削除してからプロビジョニング・ページに移動して新しいキーを作成します。問題が解決しない場合は、サポートに連絡し、Unite.sql ファイルを提供してください。</p>
<p>エラーコード: 0x00542</p> <p>エラーテキスト: Error at looking manifest assigned in the admin portal for Intel Unite® Cloud Service.</p> <p>エラーの説明: バージョンを設定しようとしたときにエラーが発生したか、構成が空です。</p> <p>エラーの解決策: Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルでルートノードに構成が割り当てられていることを確認します。構成が、正しいコアとアプリモジュールを含み、有効であることを確認します。</p>
<p>エラーコード: 0x00544</p> <p>エラーテキスト: Error updating manifest progress bar.</p> <p>エラーの説明: UI スレッドのチェックでエラーが発生しました。</p> <p>エラーの解決策: 内部エラー、サポートに連絡し、Unite.sql ファイルを提供してください。</p>

<p>エラーコード: 00x00545</p> <p>エラーテキスト: Error downloading core Manifest.</p> <p>エラーの説明: ハブ・モジュール・ファイルのダウンロード / 解凍中にエラーが発生しました。</p> <p>エラーの解決策: Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルで割り当てられたコアアプリを削除して、もう一度アップロードします。</p>
<p>エラーコード: 0x00546</p> <p>エラーテキスト: Error downloading module Manifest.</p> <p>エラーの説明: ハブ・コア・ファイルのダウンロード / 解凍中にエラーが発生しました。</p> <p>エラーの解決策: Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルで割り当てられたモジュールを削除して、もう一度アップロードします。</p>
<p>エラーコード: 0x00547</p> <p>エラーテキスト: Error launching app, the file was not found.</p> <p>エラーの説明: アプリケーション・コア・ファイルが見つかりません。</p> <p>エラーの解決策: プログラムデータにパスが存在しているかどうかを確認します。存在している場合はアクセス許可を確認します。</p>
<p>エラーコード: 0x00548</p> <p>エラーテキスト: Exception launching app.</p> <p>エラーの説明: クライアント・アプリを起動できません。</p> <p>エラーの解決策: Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルでデバイスをアンインストールして削除し、アプリを再インストールして、クライアントを再登録します。問題が解決しない場合は、サポートに連絡し、Unite.sql ファイルを提供してください。</p>
<p>エラーコード: 0x0054A</p> <p>エラーテキスト: Exception while attempting to CheckLongPairingTokenStatus / Unable to connect to server.</p> <p>エラーの説明: サーバーに接続できません</p> <p>エラーの解決策: サーバーが応答できないか、ソケット例外が発生した場合に発生します。もう一度ペアリングして、問題が解決しない場合は、サポートに連絡し、Unite.sql ファイルを提供してください。</p>
<p>エラーコード: 0x0054B</p> <p>エラーテキスト: Exception while attempting to CheckLongPairingTokenStatus SMTP server configuration missing.</p> <p>エラーの説明: IIS SMTP 送信メール設定が設定されていません。</p> <p>エラーの解決策: Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルで IIS SMTP サーバーのプロパティを構成します。</p>

付録 C. トラブルシューティング

C.1 インターネットに接続していない場合、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルへのアクセスや、クライアント / ハブ・ソフトウェアの起動が遅い

オペレーティング・システムが証明書の失効を確認しようとしたとき、インターネットへのアクセスが必要になり、タイムアウトが生じるため、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルへのアクセスやクライアント / ハブ・ソフトウェアの起動が遅くなることがあります。この動作を回避するには、クライアント / ハブで次のレジストリー・キーを設定します。

```
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Internet Settings]

"CertificateRevocation"=dword:00000000

[HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\WinTrust\Trust Providers\
Software Publishing]

"State"=dword:00023e00

[HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Internet Explorer\Download]

"CheckExeSignatures"="no"
```

C.2 ハブの時刻のずれ

ハブの時刻がずれてほかのハブと異なることがあり、このため会議の終了時間や会議の所有者に関して混乱が生じる場合があります。この問題を解決するには、ドメインとのハブの同期時間を定期的に構成してください。ウェブブラウザの検索エンジンを使用して、ドメイン・コントローラーと時刻を同期するようにドメインシステムを構成する方法を検索します。

定期的にドメイン・コントローラーと時刻を同期するようにハブを構成した後、設定を確認するには、次の手順で行ってください。

1. コマンドライン・ウィンドウを開きます (**Windows キー + R キー**を押し **cmd** と入力して **Enter キー**または **Return キー**を押します)。
2. `w32tm.exe /query /status` と入力します。
3. ソースが **Local CMOS Clock** に設定されていないことを確認します。

C.3 クライアント・エラー 0x00535 - サーバーに接続できません。

クライアント・エラー 0x00535 - クライアント・システムに **SHA-2** 証明書がインストールされていないため、サーバーに接続できない場合があります。

この問題を解決するには、Intel Unite® クラウド・サービスの管理者ポータルからクライアント・システムの信頼されたルートに、SHA-2 証明書をインポートします。

付録 D. セキュリティー・チェックリスト

インテルではサーバー、ハブ、およびクライアントの多数のセキュリティー設定をお勧めします。

D.1 ハブ

Intel Unite® クラウド・サービスで使用されているハブデバイスのセキュリティーを強化するために、次の設定をお勧めします。

- レジストリーに Intel Unite® クラウド・サービスの証明書をピンで留めます。[Microsoft* エンタープライズ証明書のピン留めに関する記事](#)を参照してください。
- 不正アクセスや盗難を防ぐために、ハブを物理的に保護します。
- 未使用または不要な入力 / 出力ポートを無効にして、不正なアクセスやハブの動作を改変できないようにします。
- セキュリティーに関する他の推奨事項については、IT セキュリティーの専門家に相談してください。

D.2 クライアント

Intel Unite® クラウド・サービスで使用されているクライアント・デバイスのセキュリティーを強化するために、次の設定をお勧めします。

- レジストリーに Intel Unite® クラウド・サービスの証明書をピンで留めます。[Microsoft* エンタープライズ証明書のピン留めに関する記事](#)を参照してください。

付録 E. 4.0 または 3.x 環境からの移行に関する注意事項

このセクションでは、既存の 4.0 または 3.x 環境に Intel Unite® クラウド・サービスをインストールする場合の注意事項について説明します。

- クラウド・クライアントは、4.0 と 3.x 両方のハブに接続できます。
注: Windows* クライアントが 3.x ハブに接続するには、デバイスに、3.x クライアントだけでなく Intel Unite® クラウド・サービスのクライアント・アプリケーションもインストールされている必要があります。Intel Unite® クラウド・サービスのクライアント・アプリケーションは、3.x クライアントがインストールされた後にインストールする必要があります。
- Intel Unite® ソリューションのバージョン 3.x は、自動検出のために DNS SRV レコードを使用しますが、Intel Unite® クラウド・サービスでは DNS TXT レコードを使用します。環境内で両方のソリューションをサポートするために、両方のレコードが存在することが可能です。

Intel Unite® ソリューション 3.x または 4.0 から Intel Unite® クラウド・サービスへの移行時のインストール・シーケンスは次のとおりです。

1. 移行期間全体を通して、サーバーの 3.x バージョンまたは 4.0 バージョンを維持します。
注: Intel Unite® クラウド・サービスを使用すると同時に、3.x および 4.0 の Intel Unite® ソリューション・サーバーを実行することができます。
2. 3.x クライアント・アプリケーションがインストールされている状態のまま、すべての Windows* ベースデバイスへの Intel Unite® クラウド・サービスのクライアント・アプリケーションのインストールを開始します。Windows* 以外のすべてを、Intel Unite® クラウド・サービスのクライアント・アプリケーションにアップグレードできます。
3. Intel Unite® クラウド・サービスにすべてのクライアント・デバイスを配置したら、Intel Unite® クラウド・サービスへのハブの移行を開始します。

付録 F. 用語集

表 25 本書で使用されている技術用語のリストおよびその定義を示します。

表 25. 用語と定義

用語	定義
Active Directory* (AD)	Windows* ドメイン・ネットワーク用に Microsoft* が開発したディレクトリー・サービス。
Active Directory* フェデレーションサービス (AD FS)	組織の境界を横断して配置されているシステムとアプリケーションへのシングルサインオン (SSO) アクセスをユーザーに提供すること目的として Microsoft* が開発した Windows Server* オペレーティング・システム上で実行されるソフトウェア。
Active Directory* グループ	内部にメンバーとしてユーザー・オブジェクトとコンピューター・オブジェクトを含むコンテナ。[1]
Active Directory の組織単位 (AD の組織単位)	Active Directory* 内のサブディビジョンで、その中にユーザー、グループ、コンピューター、およびその他の組織単位を配置できます。[2]
認証機関 (CA)	デジタル証明書を発行する実体。[3]
証明書失効リスト (CRL)	予定の有効期限日より前に発行元の認証機関 (CA) によって無効にされ、信頼できなくなったデジタル証明書のリスト。[4]
デジタル証明書	公開鍵の所有権を証明するために使用される電子文書。[5]
DNS TXT レコード	ドメイン・ネーム・システム (DNS) 内のリソースレコードのタイプ。任意のテキストをホストなどの名前 (サーバー、ネットワーク、データセンターに関する人間が判読できる情報、またはその他のアカウント情報など) に関連付ける機能を提供するために使用されます。[6]
ドメイン・コントローラー (DC)	Windows* ドメイン内のセキュリティ認証要求 (ログイン、アクセス許可の確認など) に応答するサーバー・コンピューター。[7]
ドメイン・ネーム・システム (DNS)	インターネットまたはプライベート・ネットワークに接続されているコンピューター、サービス、またはその他のリソースに関する階層型分散ネーミングシステム。[8]
ファイアウォール	事前に定義されたセキュリティ・ルールに基づいて、受信と送信のネットワーク・トラフィックを監視および制御するネットワーク・セキュリティ・システム。[9]
完全修飾ドメイン名 (FQDN)	ホスト名とドメイン名の 2 つの部分で構成される、コンピューターまたはホストの完全なドメイン名。
情報技術 (IT)	多くの場合は事業所や大企業において、データや情報を保存、取得、送信、および操作するためにコンピューターを使用すること。[10]
LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)	インターネット・プロトコル (IP) ネットワーク経由で分散ディレクトリー情報サービスにアクセスして保守するための、オープンでベンダーに依存しない業界標準のアプリケーション・プロトコル。[11]
SHA (Secure Hash Algorithm)	米国連邦情報処理標準 (FIPS) として米国国立標準技術研究所 (NIST) が公開した暗号ハッシュ関数のファミリー。[12]
SSL (Secure Sockets Layer)	コンピューター・ネットワーク経由で通信のセキュリティを実現するために設計された暗号プロトコル。
シングルサインオン (SSO)	ユーザーが単一の ID とパスワードでログインして接続されているシステムにアクセスできるようにする、関連する複数のソフトウェア・システムのアクセス制御のプロパティ。[13]
Unified Extensible Firmware Interface (UEFI)	コンピューターのファームウェアをオペレーティング・システムに接続するソフトウェア・プログラムに関する仕様。[14]
URI (Uniform Resource Identifier)	URI スキームを使用してリソースと拡張機能を明確に識別することを目的として設計された文字列。[15]
URL (Uniform Resource Locater)	コンピューター・ネットワーク上のウェブリソースの場所を指定するウェブリソースへの参照、およびそのリソースを取得するメカニズム。[16]

用語	定義
仮想プライベート・ネットワーク (VPN)	パブリック・ネットワークを横断するプライベート・ネットワークの拡張。ユーザーは、コンピューティング・デバイスがプライベート・ネットワークに直接接続されているかのように、パブリック・ネットワークを横断してデータを送受信できます。
インテル® vPro™ テクノロジー	<p>プロセッサ内に構築されたセキュリティーと管理機能のセットで、IT セキュリティーにおける次の 4 つの重要な領域に取り組むことを目的としています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ルートキット、ウイルス、およびマルウェアからの保護を含む脅威の管理。 2. ID およびウェブサイトのアクセスポイントの保護。 3. 個人およびビジネス上の機密データの保護。 4. PC とワークステーションのリモートおよびローカルでの監視、復旧、修復。

引用元:

1. <http://www.tech-faq.com/active-directory-groups.html>
2. <https://kb.iu.edu/d/atvu>
3. https://en.wikipedia.org/wiki/Certificate_authority
4. https://en.wikipedia.org/wiki/Certificate_revocation_list
5. https://en.wikipedia.org/wiki/Public_key_certificate
6. https://en.wikipedia.org/wiki/TXT_record
7. https://en.wikipedia.org/wiki/Domain_controller
8. https://en.wikipedia.org/wiki/Domain_Name_System
9. [https://en.wikipedia.org/wiki/Firewall_\(computing\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Firewall_(computing))
10. https://en.wikipedia.org/wiki/Information_technology
11. https://en.wikipedia.org/wiki/Lightweight_Directory_Access_Protocol
12. https://en.wikipedia.org/wiki/Secure_Hash_Algorithms
13. https://en.wikipedia.org/wiki/Single_sign-on
14. <https://whatis.techtarget.com/definition/Unified-Extensible-Firmware-Interface-UEFI>
15. https://en.wikipedia.org/wiki/Uniform_Resource_Identifier
16. <https://en.wikipedia.org/wiki/URL>



付録 G. レジストリー・キー

ハブやクライアントで実行されている Intel Unite® アプリケーションのレジストリー・キーを以下に示します。

デバッグログ用のレジストリー・キー。

キー名	EnableDebugLog
キーの場所	\HKEY_CURRENT_USER\Software\Intel\Intel Unite\Client\ \HKEY_CURRENT_USER\Software\Intel\Intel Unite\HUB\
キーの種類	REG_DWORD
説明	デバッグログを有効または無効にします。値 1 はデバッグログを有効にします。値 0 はデバッグログを無効にします。
適用可能なデバイス	ハブおよびクライアント

自動検出を無効化するためのレジストリー・キー。

キー名	DisableAutoDiscovery
キーの場所	\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite\Client \HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite\HUB
キーの種類	REG_DWORD
説明	Intel Unite® クラウド・サービス・サーバーの自動検出を有効または無効にします。値 1 は自動検出を無効にします。値 0 は自動検出を有効にします。
適用可能なデバイス	ハブおよびクライアント

証明書検証用のレジストリー・キー。

キー名	DisableCertificateChainVerification
キーの場所	\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite\Client \HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite\HUB
キーの種類	REG_DWORD
説明	証明書チェーンの検証を有効または無効にします。値 1 は自動検出を無効にします。値 0 は自動検出を有効にします。
適用可能なデバイス	ハブおよびクライアント

キー名	EnforceSslCrlCheck
キーの場所	\HKEY_ShellLOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite\Client \HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite\HUB
キーの種類	REG_DWORD
説明	CRL チェーンの検証を有効または無効にします。値 1 は CRL チェーンの検証を有効にします。値 0 は CRL チェーンの検証を無効にします。
適用可能なデバイス	ハブおよびクライアント



Windows* シェルを Intel Unite® アプリケーションで置き換えるためのレジストリー・キー。

キー名	Shell
キーの場所	\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\Winlogon
キーの種類	REG_SZ
説明	ハブランチャー実行ファイルへのパス。
適用可能なデバイス	ハブ

デバイスのプロビジョニング用のレジストリー・キー。

キー名	OrganizationId
キーの場所	\HKEY_CURRENT_USER\Software\Intel\Intel Unite\Client\<ORG_ID> \HKEY_CURRENT_USER\Software\Intel\Intel Unite\Hub\<ORG_ID> または \HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite\Client\<ORG_ID> \HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite\HUB\<ORG_ID>
キーの種類	REG_SZ
説明	組織の ID。
適用可能なデバイス	ハブおよびクライアント

キー名	OrganizationName
キーの場所	\HKEY_CURRENT_USER\Software\Intel\Intel Unite\Client\<ORG_ID> \HKEY_CURRENT_USER\Software\Intel\Intel Unite\Hub\<ORG_ID> または \HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite\Client\<ORG_ID> \HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite\HUB\<ORG_ID>
キーの種類	REG_SZ
説明	組織の名前。
適用可能なデバイス	ハブおよびクライアント

キー名	ServerUrl
キーの場所	\HKEY_CURRENT_USER\Software\Intel\Intel Unite\Client\<ORG_ID> \HKEY_CURRENT_USER\Software\Intel\Intel Unite\Hub\<ORG_ID> または \HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite\Client\<ORG_ID> \HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Intel\Intel Unite\HUB\<ORG_ID>
キーの種類	REG_SZ
説明	クラウドサーバー API URL。
適用可能なデバイス	ハブおよびクライアント